

第3章 遺物

第1節 概要

1 出土遺物の概要

今回の笹平遺跡からの出土遺物は27リットルコンテナで、総計459箱にのぼった。帰属時期をみると、弥生時代・古代以降の遺物もごく若干含まれるものの、縄文時代に属する遺物が圧倒的に多い。宅地や耕作地であった場所も、縄文時代の包含層を攪乱する形での土地利用であったと考えられ、おしなべて縄文時代の遺物が包含されている状況であった。

遺物の種別を見ると、土器・陶器・土製品・石器・石製品が確認されている。陶器は、古代以降の遺物として別途報告することから、ここでは縄文時代・弥生時代の遺物について報告していくこととする。

なお、報告では、可能な限りの遺物資料を図化・掲載することを目的としているため、すべての資料についての報告を本文中では行うことができない状況にある。個別の資料報告については、遺物一覧表で行うこととする。本報告に関する一覧表一式は令和4年3月現在開設されている、愛知県埋蔵文化財センターホームページからダウンロード可能となっており、こちらからのデータの利用をお願いしたい (<http://www.maibun.com/DownDate/newhouko.html>)。

2 資料整理調査の経過

発掘調査から持ち込まれた出土遺物は、調査グリッド・遺構・取上日付けなどの単位別に一括取上されているものと、各資料別に座標値を測ったドット取上の資料とがある。一括取上された資料は、土器・土製品・石器・石製品に分類したあと、各種で部位に分け、さらに接合などを通じて破片同士の同一個体の検討を行った。その上で、土器片に関しては口縁部片・底部片は可能な限り分離し、胴部片に関しては破片径1cmを目安に分離を試み、それ以下の土器細片は一括のままとなっている。石器に関しては、微細剥片を除いて、可能な限り一片ずつの分離を試みた。上記の工程を経て、出土遺構・グリッド順に、それぞれに整理番号を付し、器種や部位・法量のほか、土器であれば胎土・文様・調整、石器であれば石材など、各資料の属性をまとめた一覧表を作成した。この一覧表は整理調査の基本台帳となるもので、統計的処理の実施のほか、実測図化・写真・科学分析の実施などの管理も行った。

第2節 縄文土器・土製品・弥生土器

縄文土器・弥生土器は総重量140,860gの出土を確認した。このうち、深鉢・鉢が3264点（口縁部が確認できる個体・破片が1516点、底部のみが確認できる個体・破片が242点）、浅鉢・鉢が41点（口縁部が確認できる個体・破片が13点、底部のみが確認できる個体・破片が11点）、壺もしくは注口土器が148点（注口部28点）、台付鉢台部が3点、釣手土器片が1点であった。

出土土器には、以下の時期の資料を確認した。

1 縄文土器（器種別の概要）

(1) 深鉢・鉢

縄文時代早期前半

山形押型文【1327～1329】

網目状捺糸文【1769】

楕円押型文（高山寺式）【2023・2024】

縄文時代早期後半

茅山下層式・元野式【161・364～366・1492・1833・1970・2309～2311・2495】

八ツ崎I式【367・1601・1602・1608・2494・2605】

粕畑式【368・376・491・692・918・1325・1326・1331～1333・1453・1609・1767・1768・1852・2206・2213・2308・2407・2492・2493・2815・3086・3087・3107】

入海I式【643・2607・3088・3109】

縄文時代中期初頭～中葉

北裏C1式【458・459】

山田平式【2412・2445・2820】

縄文時代中期後半

中富IV・V式【36・37・2822・2823】

神明式【1～3・6～8・14・18～20・84】

取組式【4・76】

親田式【5】

取組式・島崎Ⅲ式以降【9・11・2437～2440】

縄文時代後期初頭～中葉前半

中津・称名寺式【177・336～342・369～395・408～412・418・419・478・552～555・559～579・582・584・585・587～597・638・666・

668・675・678・679・721・725・727・728・
779～783・785～787・789・790・819・821・
823・857・1012・1018・1019・1021・1022・
1025・1026～1028・1199～1203・1308・
1463～1465・1491・1551～1554・1556・
1557・1600・1614・1717・1737～1739・1755・
1756・1773・1774・1840・1866・2002・2009・
2278・2497～2500・2552・2629～2632・
2827・3157・3158】

四ツ池段階【477・2634】

福田 K2 式【88～100・149・183～190・
267・270・330・370・487・488・492・499・
512～520・522～525・548・550・611・
612・624・625・632・669・680・693・702・
713・718・741・768～770・793・828・878・
936・1040・1135・1318・1319・1420・1421・
1471・1477・1493・1516～1520・1537～
1539・1562・1572・1584・1598・1599・1604・
1615・1686・1695・1697・1699・1709・1710・
1757・1759・1813・1819・1830・1847・1853・
1894・1902・1903・1929・1931・1934・1959・
2010・2011・2019・2024・2028・2038・2039・
2057・2058・2118・2119・2140・2143・2144
～2147・2187・2207・2268・2325・2344・
2347・2349・2353・2354・2359・2364・2365・
2430・2452・2453・2486・2502・2527・2536・
2542・2543・2549・2561・2593～2597・2634
～2638・2640・2672～2674・2754・2755・
2788・2789・2842～2855・2857～2860・
2862・3002・3003・3005・3061・3093・3094・
3127・3133・3144・3154・3159・3180・3181・
3193・3202・3209・3223】

北白川上層式併行（堀之内 2 式併行を含む）【101・
191～193・271・431・691・1000・1001・
1451・1569・1590・1733・1817・1846・1940・
2261・2355・2382・2458・2562・2639・2675・
3008】

八王子式（八王子 1 式）【101～104・106・
146・164・164・171・172・195～199・242・
272・334・350・351・432・433・440・454・
470・503・619・620・656・748・749・759・
761・776・794・795・803～805・860・873・
886・887・915・1045・1047・1048・1211・
1423・1438・1505・1543・1562・1564・1579・
1589・1591・1728・1743・1909・2069～
2073・2087・2088・2091・2094・2100・2112・
2120・2148・2191・2222・2234・2366・2367・
2383・2396・2444・2519・2529・2569・2589・
2676・2677・2678・2770・2906～2911・
2915・2924・3025・3137・3150・3164・3195・
3197・3225・3227】

縄文時代後期中葉後半

西北出式（八王子 2 式）【150・200・544・901・
905・1049～1052・1161～1164・1213・1215
～1220・1497・1858・2074・2292・2368・
2422・2460・2679・2681・2912・2913・3096・
3165・3229】

蜷塚 K II 式【107～109・201・352・545・
644・645・687・875・913・940・962・1003・
1377・1424・1522・1666・1877・1952・1996・
1997・2025・2075・2077・2121・2149・2150・
2192・2225・2235・2264・2328・2420・2421・
2639・2683～2686・2790・2916～2923・
3117・3134・3172・3192・3203・3226】

一乗寺 K 式併行【1578】

元住吉山 I 式併行【2151】

縄文時代後期後葉

元住吉山 II 式併行【380・507・621・657・798・
867・895・942～944・946・1061～1067・
1165～1167・1186・1253～1256・1312・
1390・1450・1596・1788・2008・2265・2323・
2688～2694・2945～2947・3097・3139・
3210】

宮滝式（古）【134～137・238・332・444・
484・658・659・947～953・1068～1073・
1169・1257・1259～1264・1315・1341・
1363・1373・1379・1425・1444・1718・1777・
1782・1827・1859・1910・1988・1989・2080・
2127・2237・2291・2369・2370・2371・2571・
2695・2696・2697・2698・2699・2952～
2965・3200・3216】

宮滝式（新）【237・239・372・381・445・
868・954～957・1074・1075・1168・1258・
1265・1266・1317・1364・1689・1735・1815・
1895・1896・1930・2014・2017・2052・2113・
2236・2254・2266・2320・2572・2573・2700
～2706・2708・2966～2971・2973・2974・
3040・3098・3125・3140・3147・3175・3211・
3217】

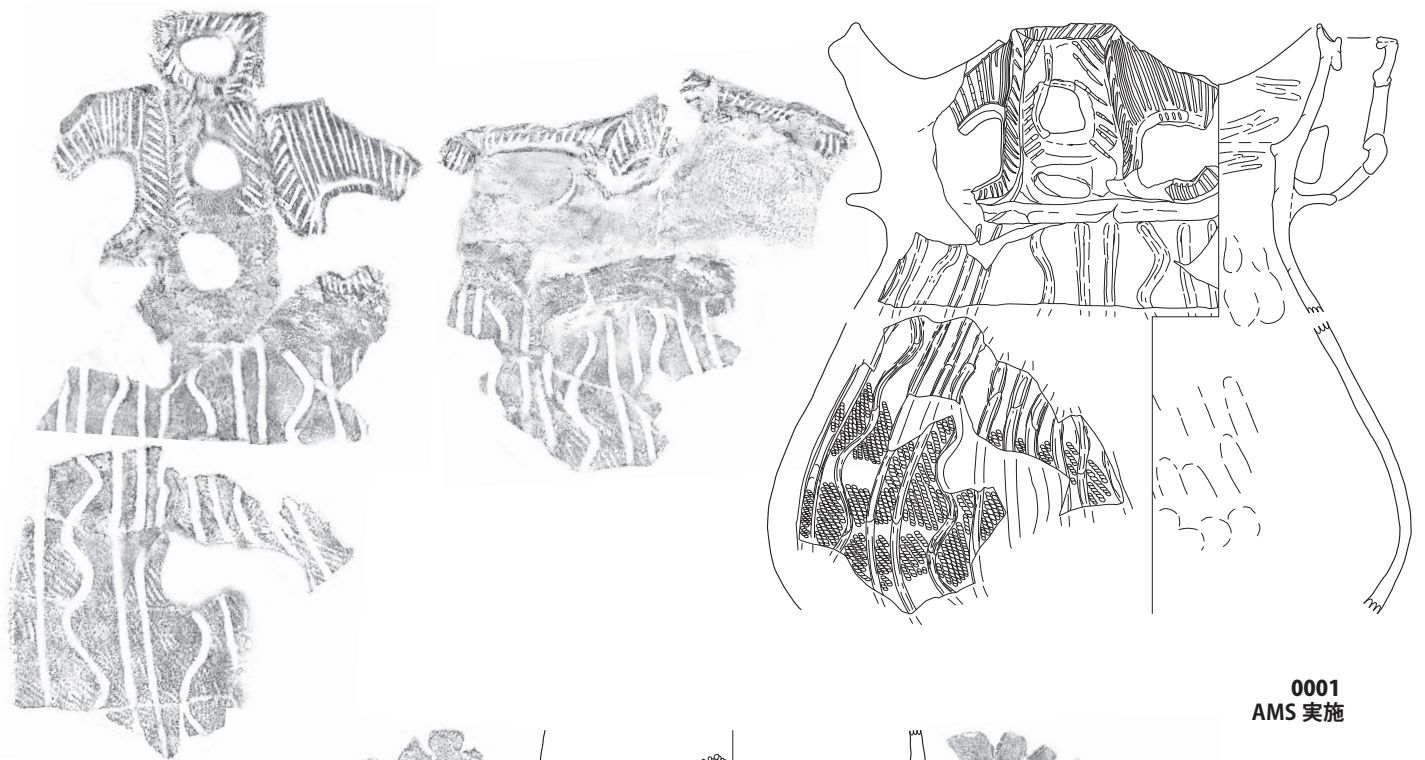
伊川津式 / 神谷沢式 / 寺津下層式併行【358・
850・880・907・945・958～961・963～967・
971・972・996・1350・1365～1367・1374・
1391～1396・1426・1439・1445・1730・
1783・1860～1862・1872・1873・1880・
1900・1957・1958・1967・1981・2047・2138・
2227・2491・2575・2709～2713・2975～
2979・3148】

上ノ段式（異系統）【471・1283・1284・1527・
1547・1879・1965・2122】

中ノ沢式（異系統）【919・1510・1681・2267】

加曾利 B3 併行瘤付（異系統）【2441】

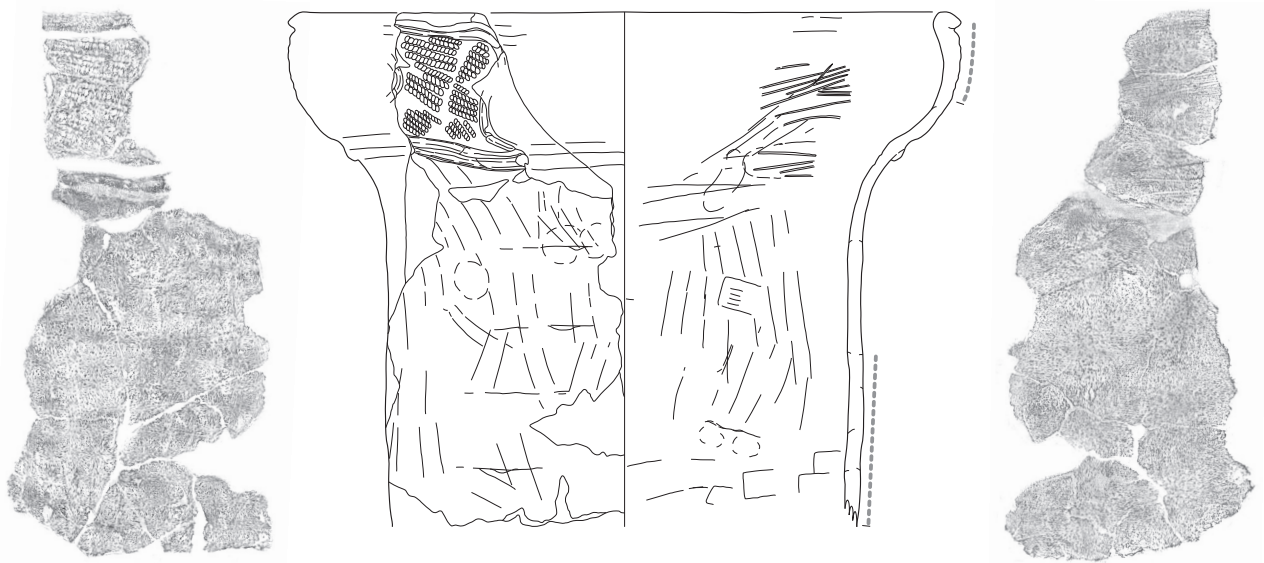
胴部に矢羽根状集合沈線を有する一群【760・
1056・1221～1225・2152・2479・2530・
2539・2772・2915・2924～2930・3227】



0001
AMS 実施



0002
AMS 実施

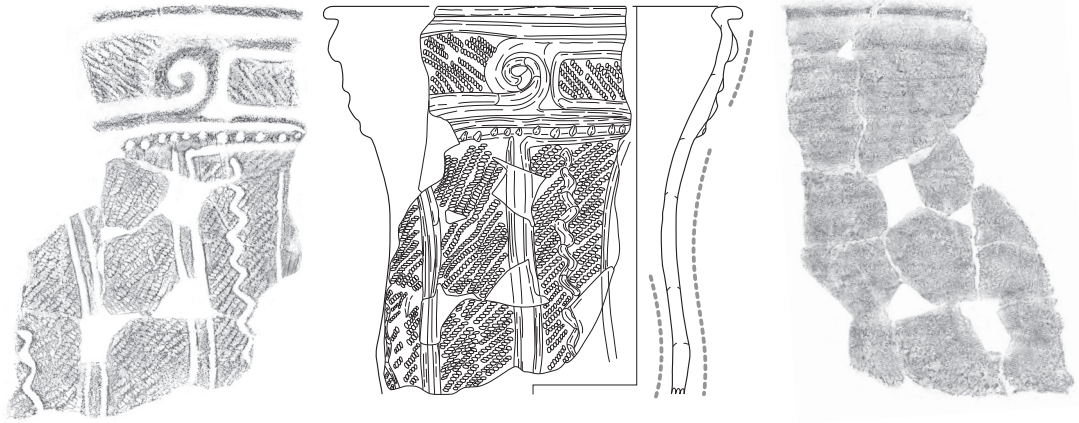


0 (1/4) 20cm

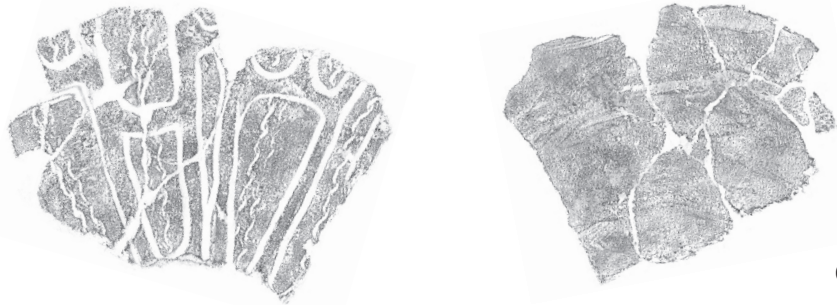
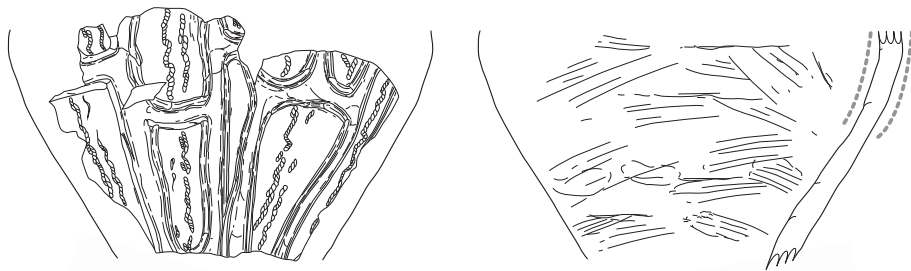
0003
AMS 実施

15Cb 3893SI

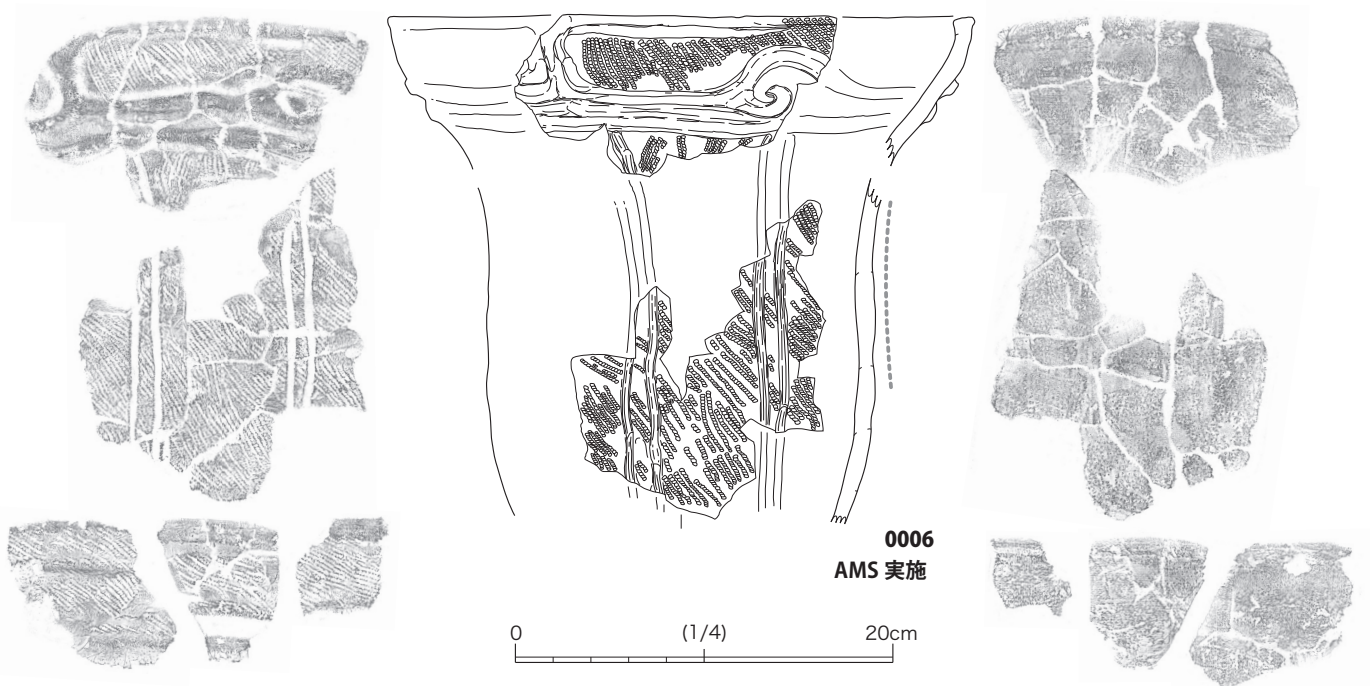
第 100 図 3893SI 出土土器 (1)



0004
AMS 実施



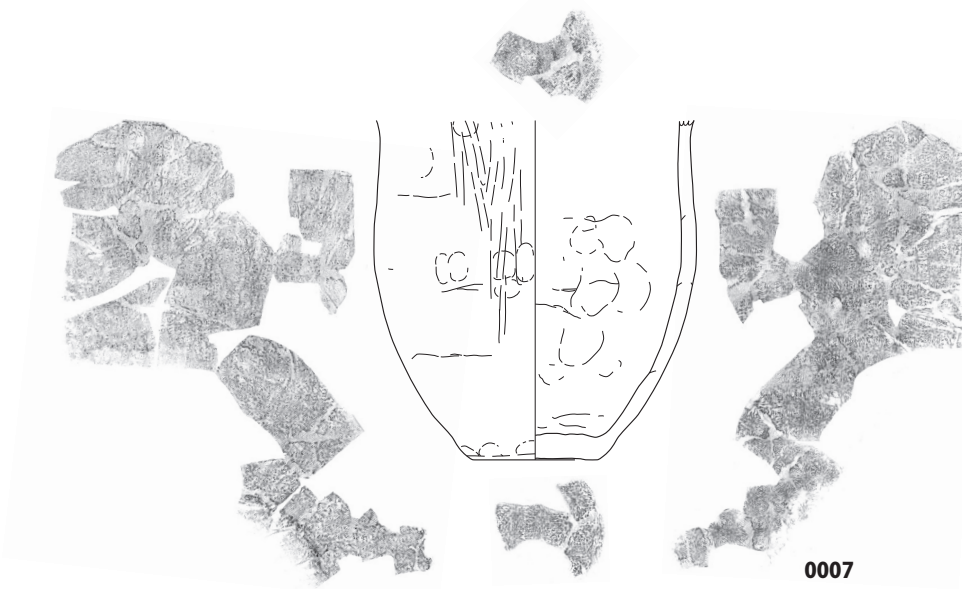
0005



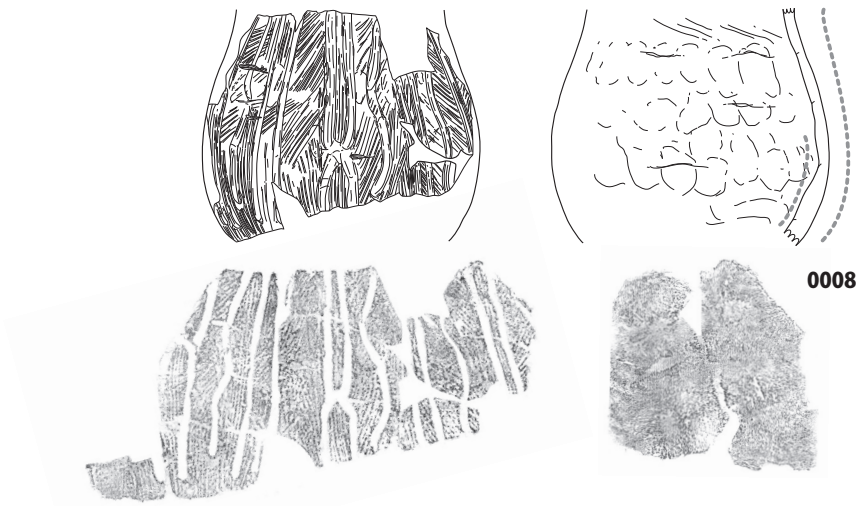
0006
AMS 実施

15Cb 3893SI

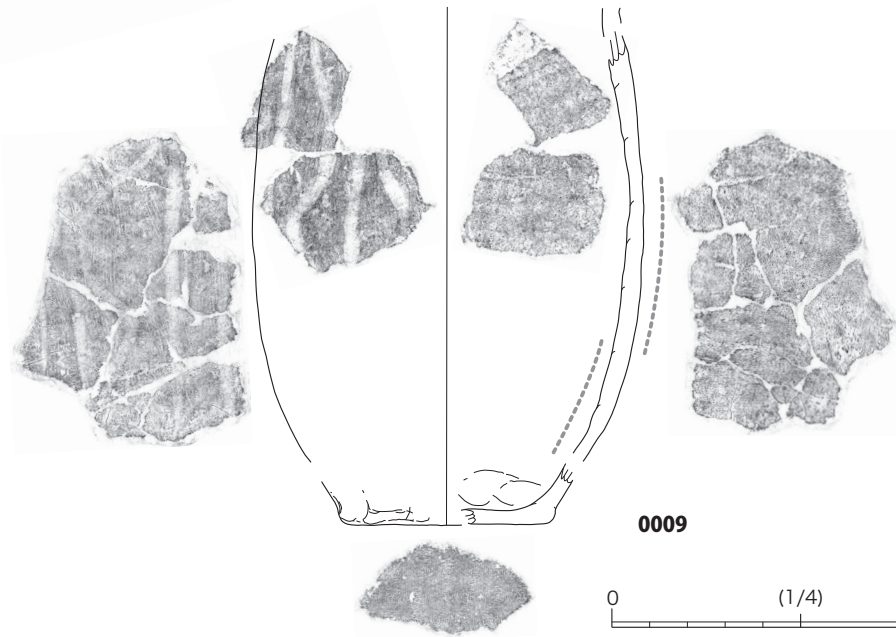
第 101 図 3893SI 出土土器 (2)



0007



0008

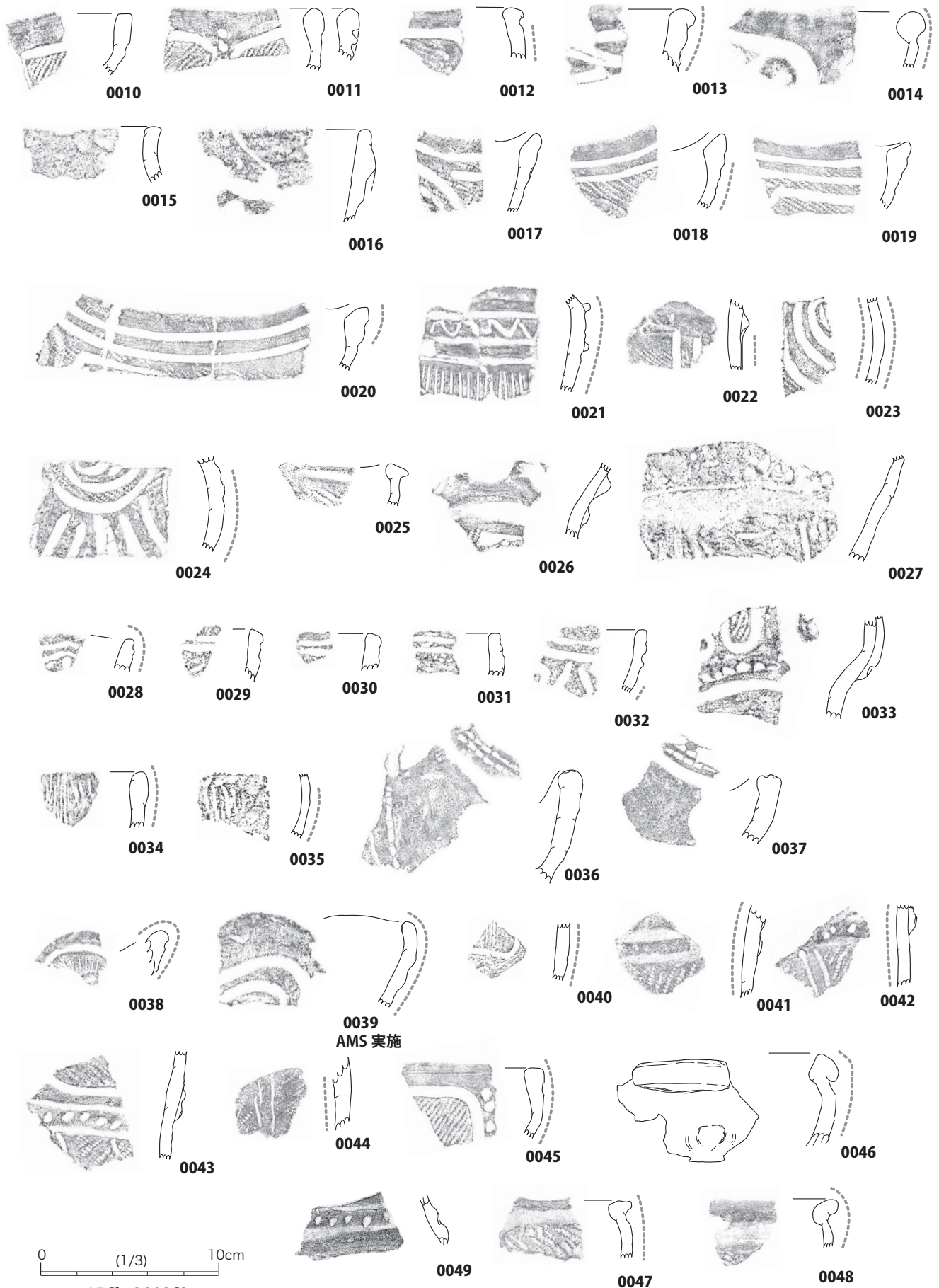


0009

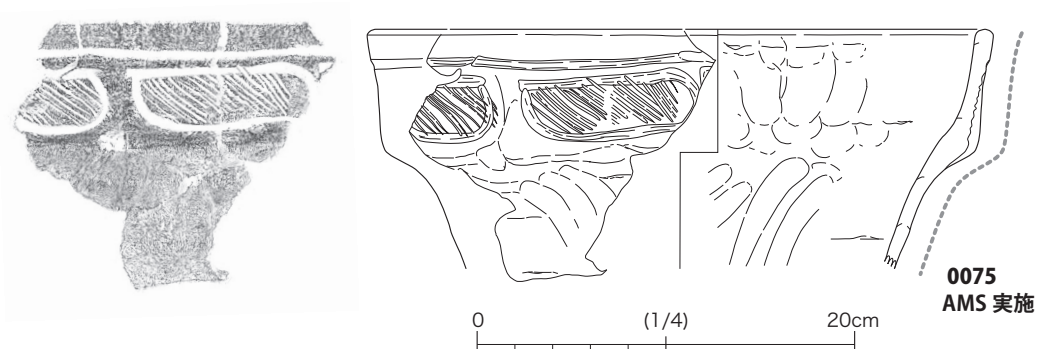
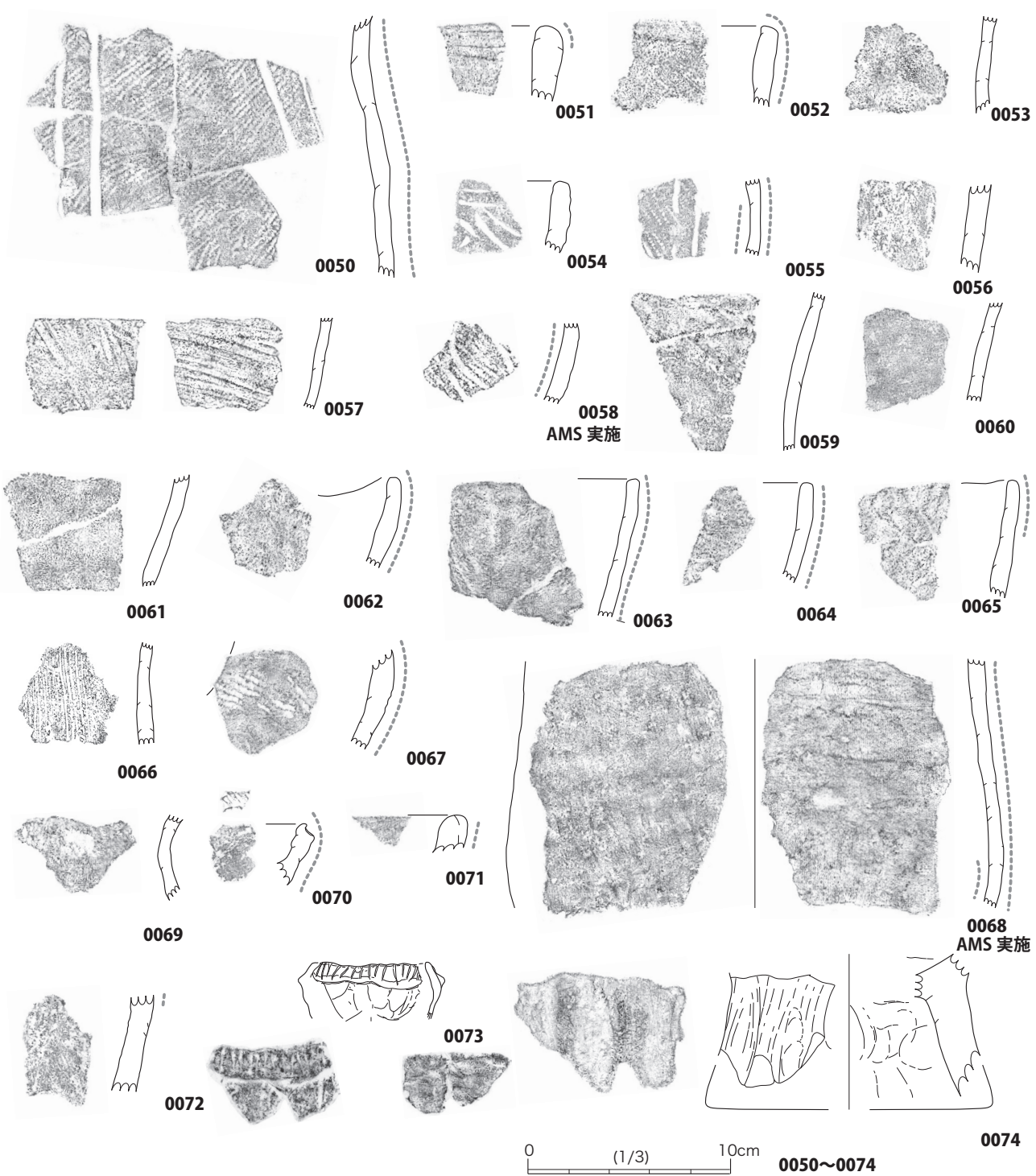
0 (1/4) 20cm

15Cb 3893SI

第 102 图 3893SI 出土土器 (3)

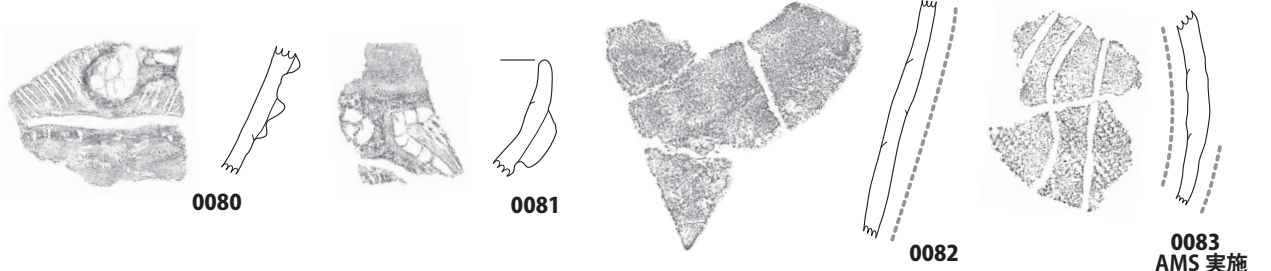
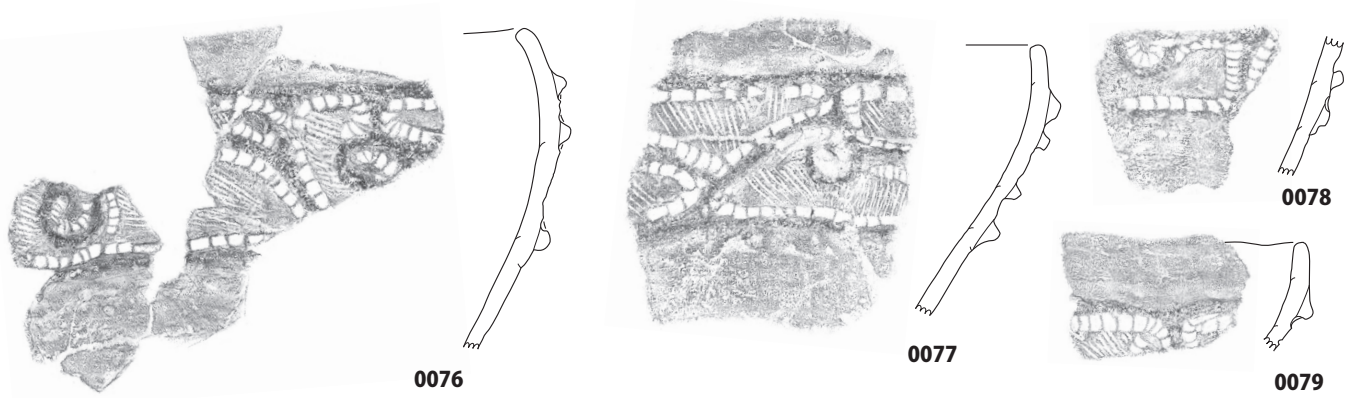


第 103 圖 3893SI 出土土器 (4)



15Cb 3893SI

第 104 図 3893SI 出土土器 (5)

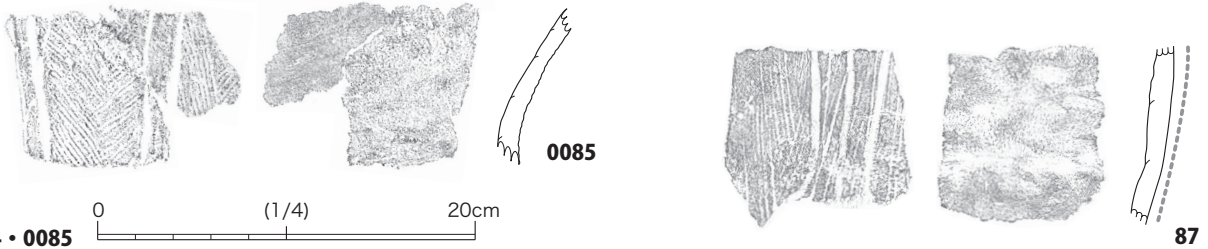


15Cb 4230SK

0076~0083 0 (1/3) 10cm

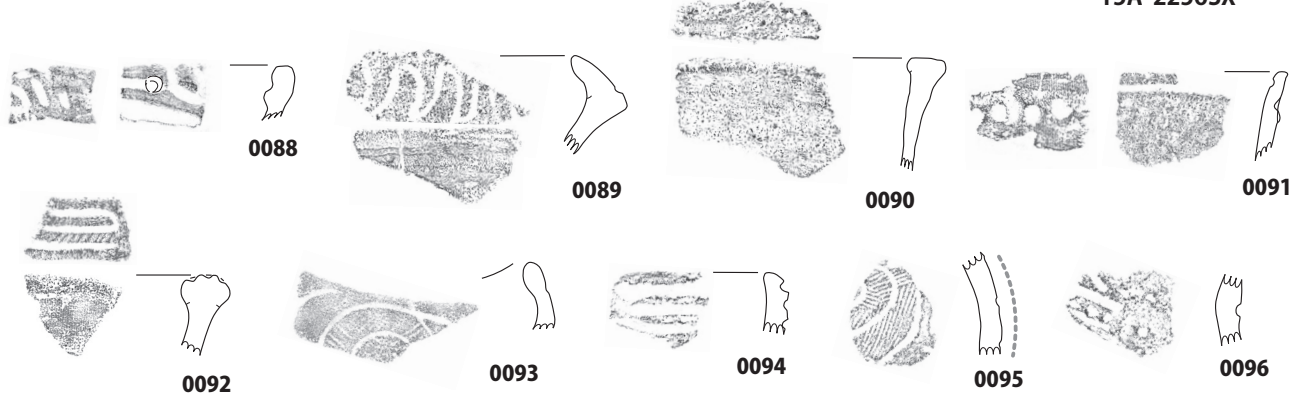


15Cb4119SL



0084 · 0085 0 (1/4) 20cm

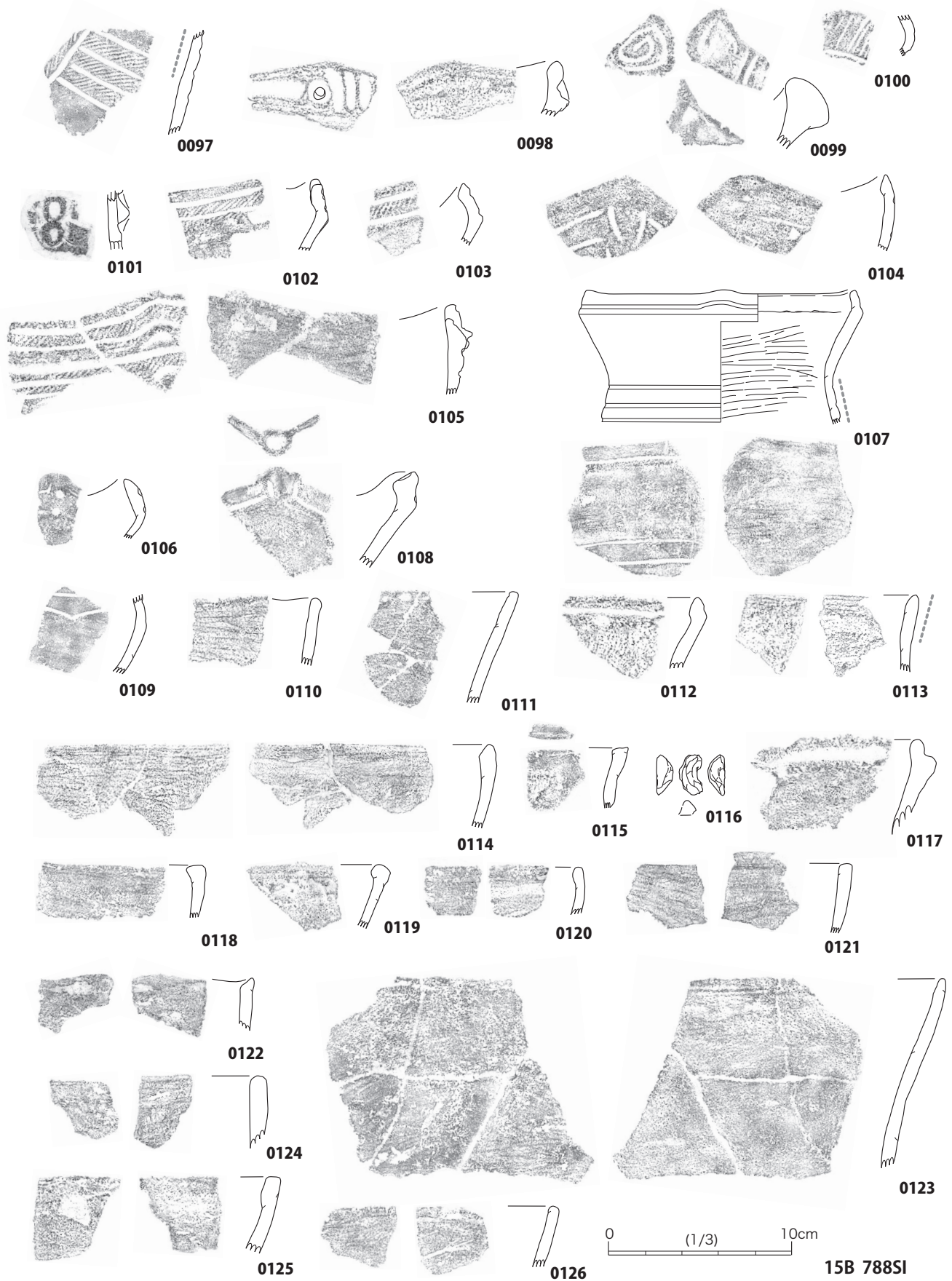
15A 2256SX



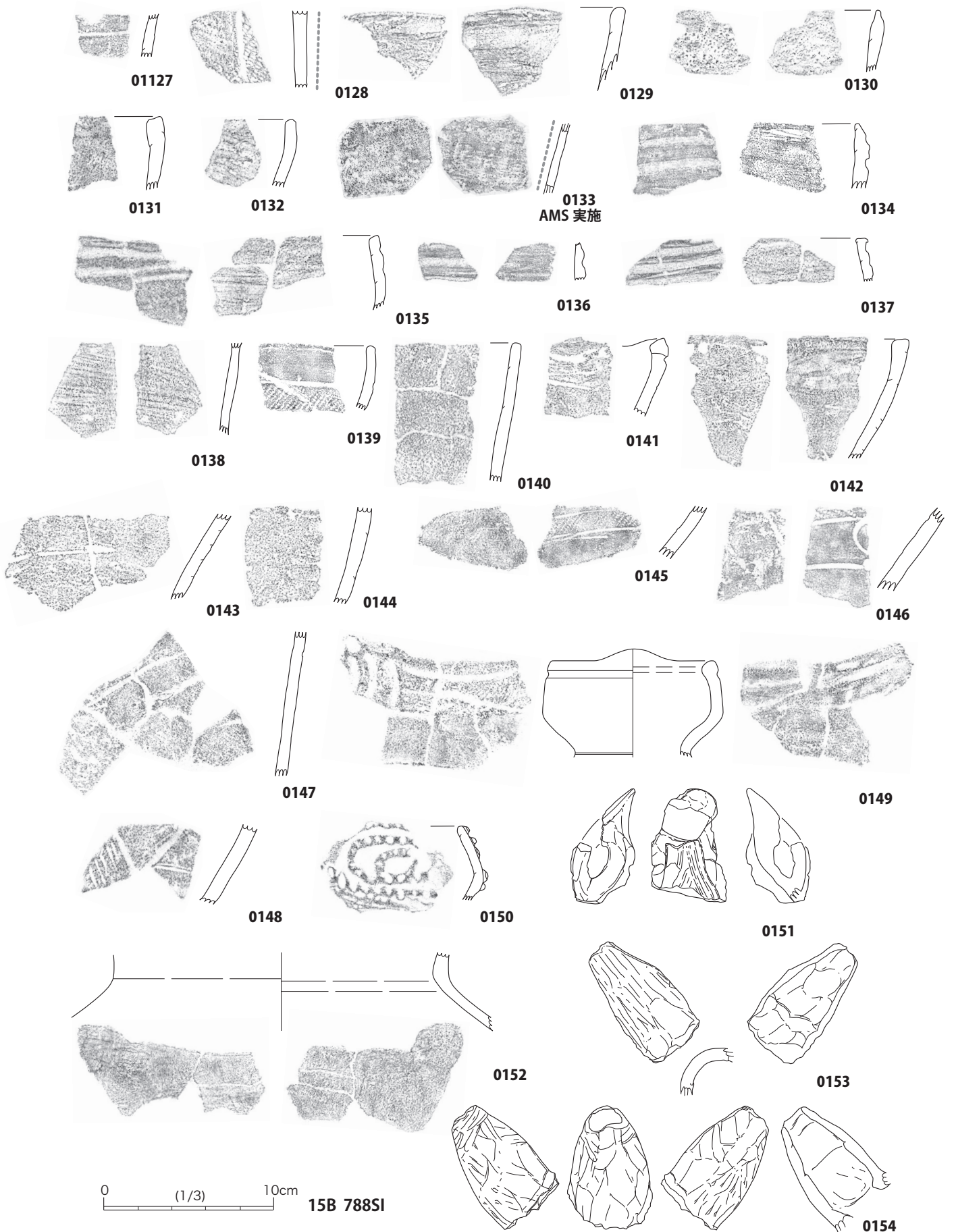
15B 788SI

0086~0097 0 (1/3) 10cm

第 105 图 4230SK 他出土土器



第 106 圖 788SI 出土土器 (1)



第 107 图 788SI 出土土器 (2)

縄文時代晚期前半

保美Ⅱ式 / 蛭塚 B 式 / 大宮式 【968・1006・1110
 ~ 1113・1117・1629・1914・2046・2468・
 2470・2524・2746 ~ 2748・2993】

元刈谷式 【1118・1682・2749・3104・3183】

稲荷山式 【1123・1124・1285・1301・2994 ~
 2996】

縄文時代晚期後半

【1125 ~ 1128・1456・1720】

(2) 浅鉢

縄文時代後期中葉前半

八王子式 / 加曾利 B1 式 【146・242・334・890・
 2087】

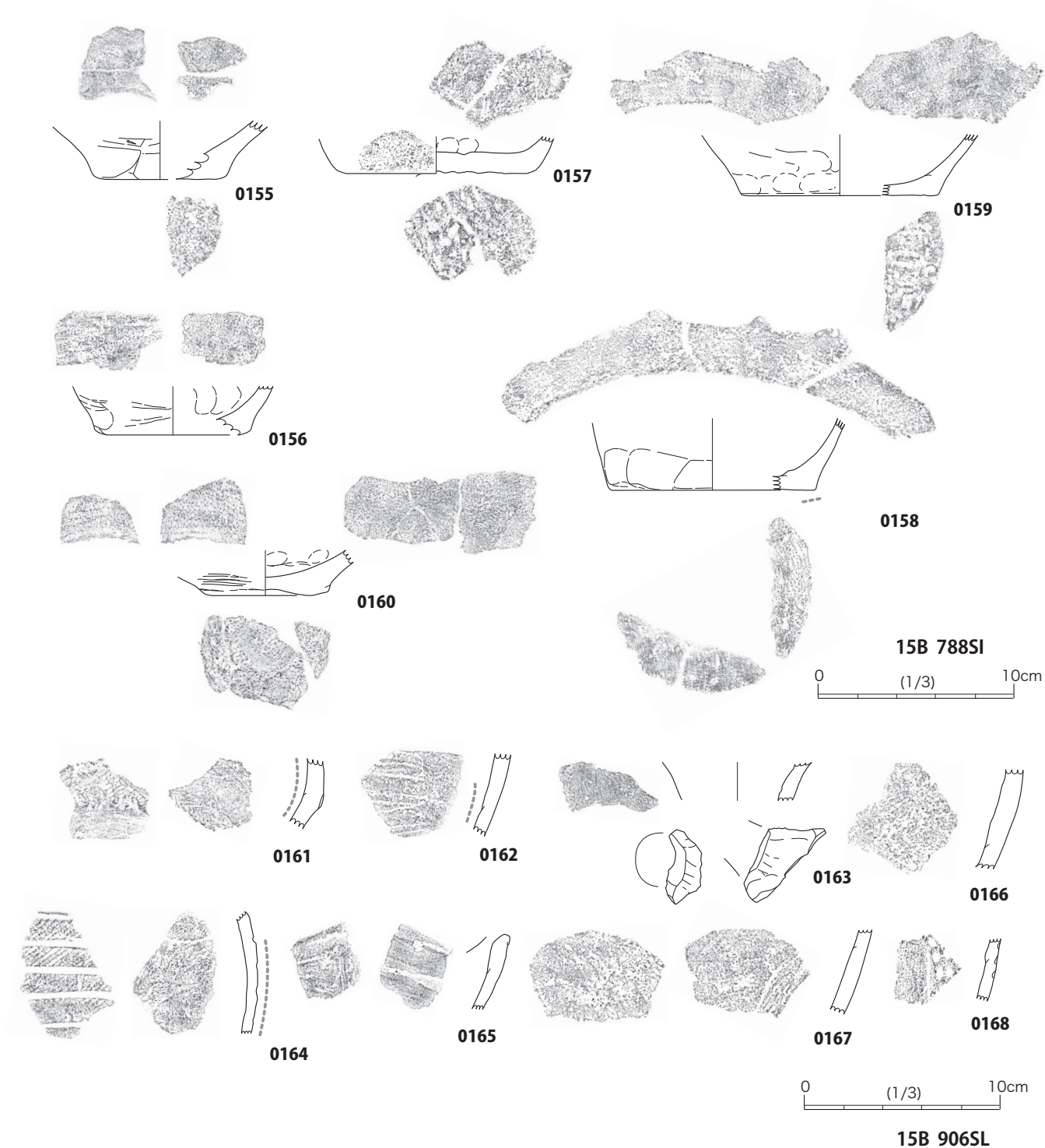
縄文時代後期中葉後半

加曾利 B2 式 ~ B3 式併行 【2406】

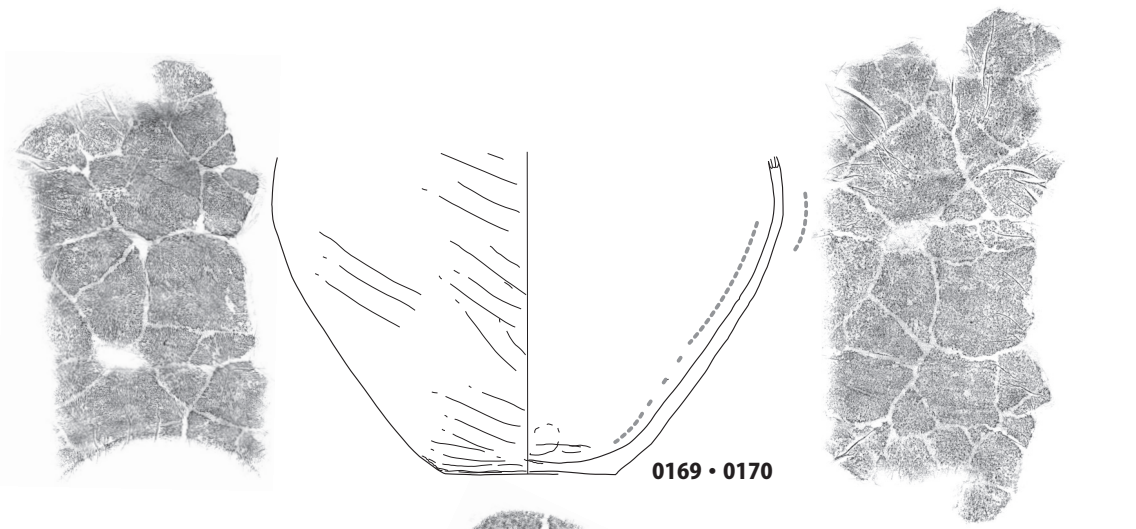
縄文時代晚期前半

安行 3a ~ 3b 式 (異系統) 【1690】

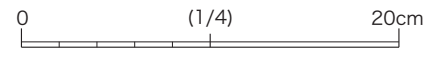
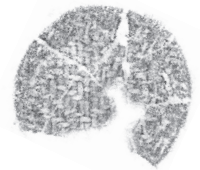
大洞 BC 式 (異系統) 【1137】



第 108 図 788SI 出土土器 (3)



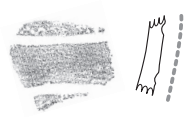
0169・0170



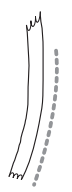
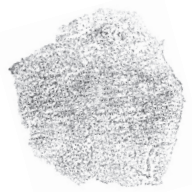
0169・170



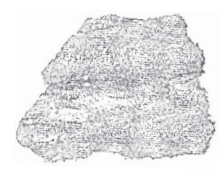
0171



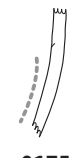
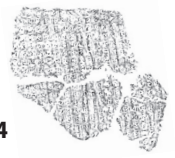
0172



0173



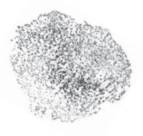
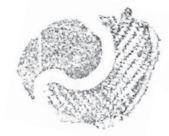
0174



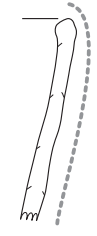
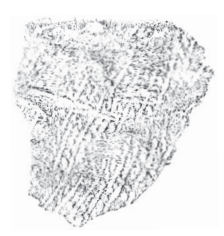
0175



0176



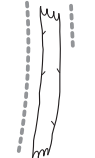
0177



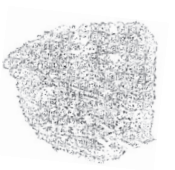
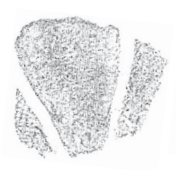
0178



0179



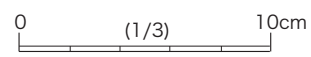
0180



0181



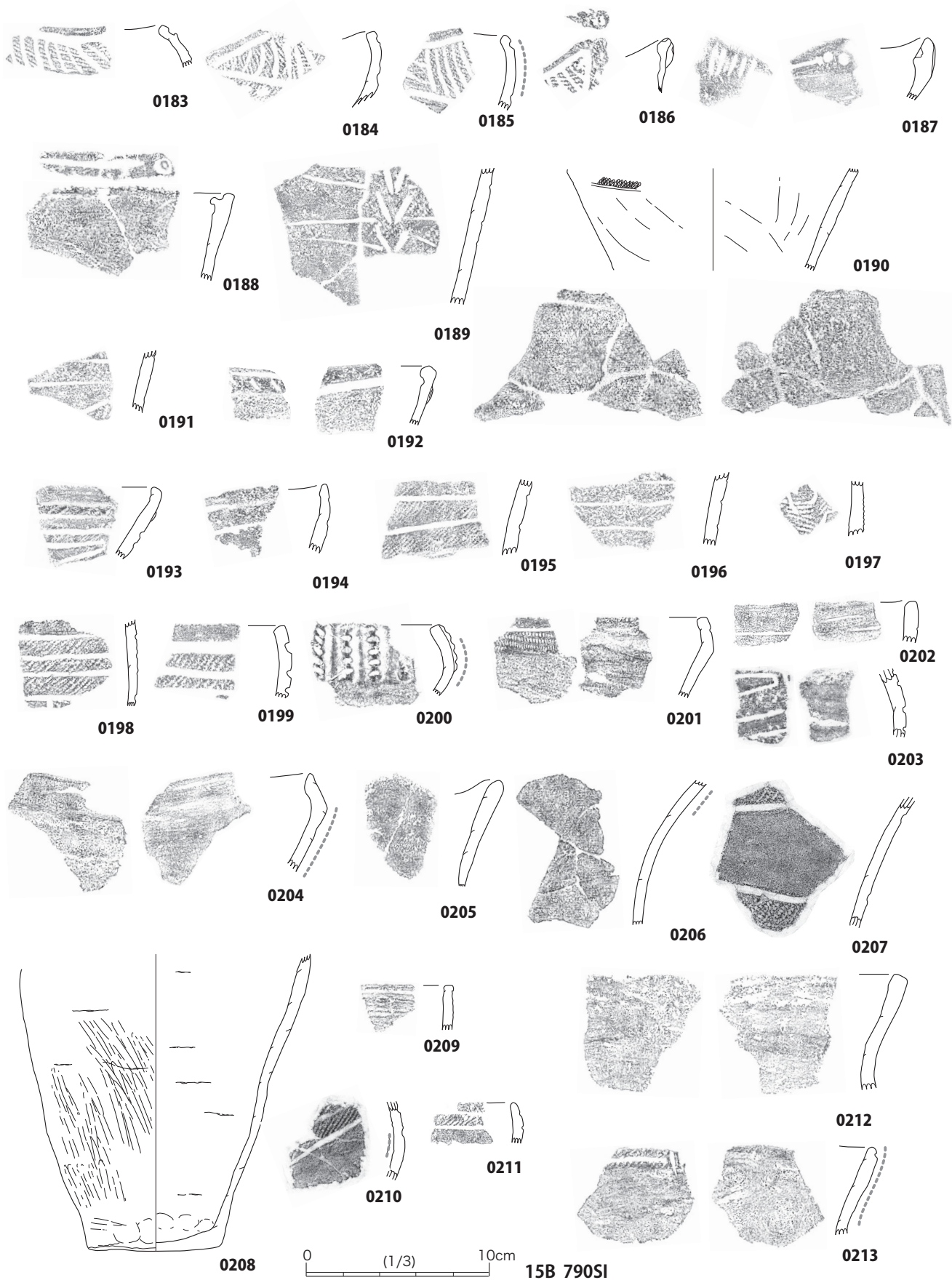
0182



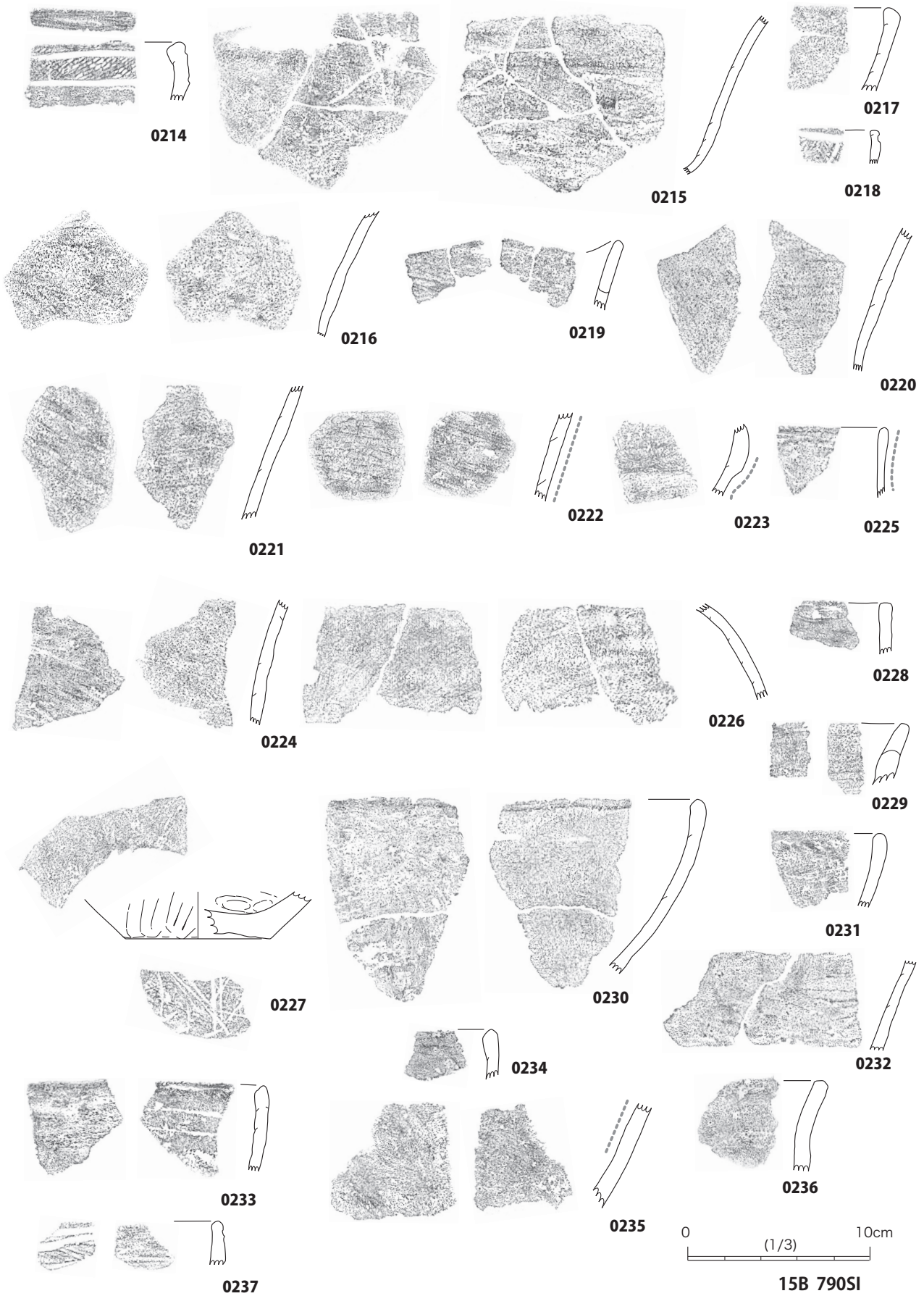
0171~182

15B 907SL

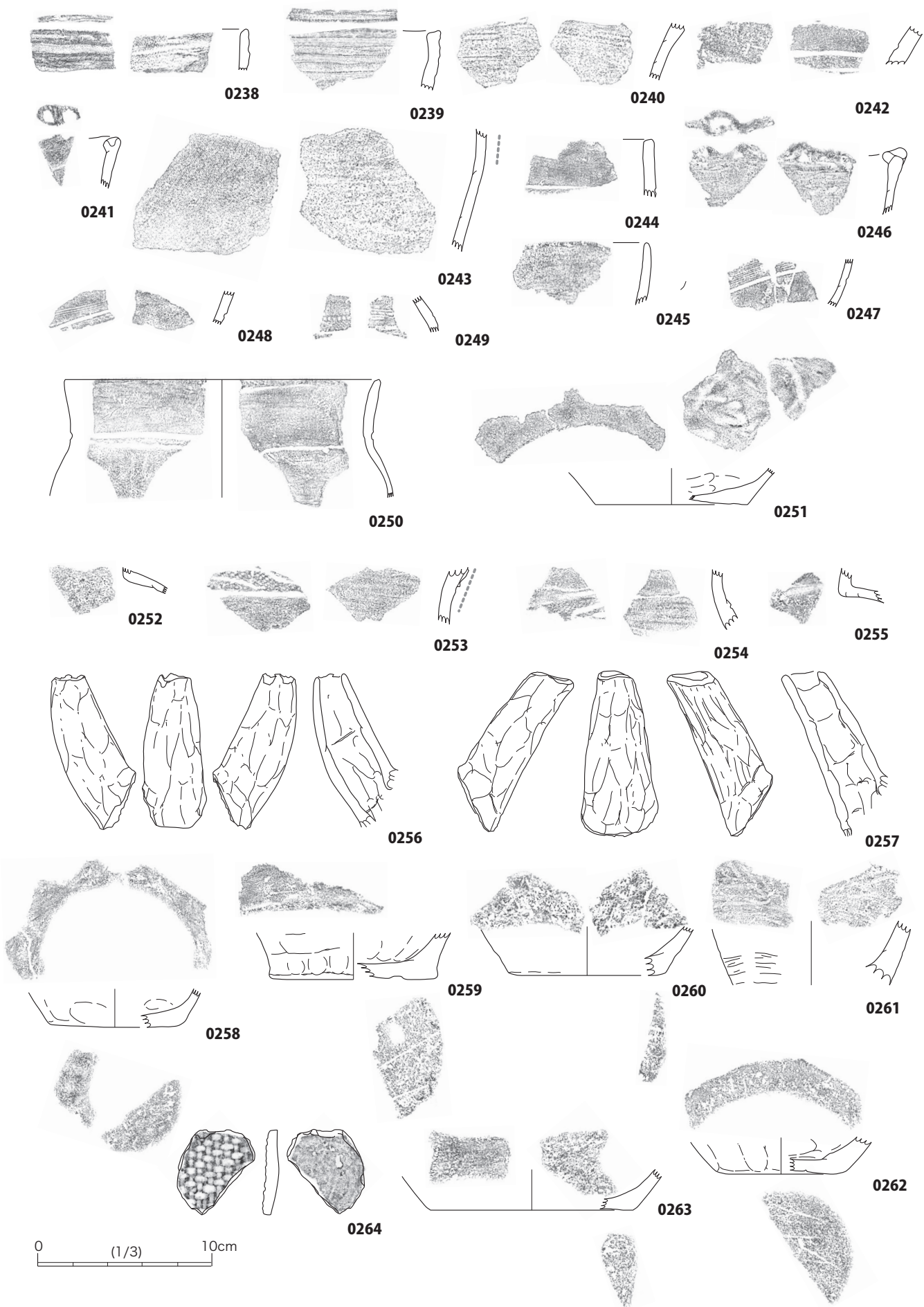
第 109 圖 788SI 出土土器 (4)



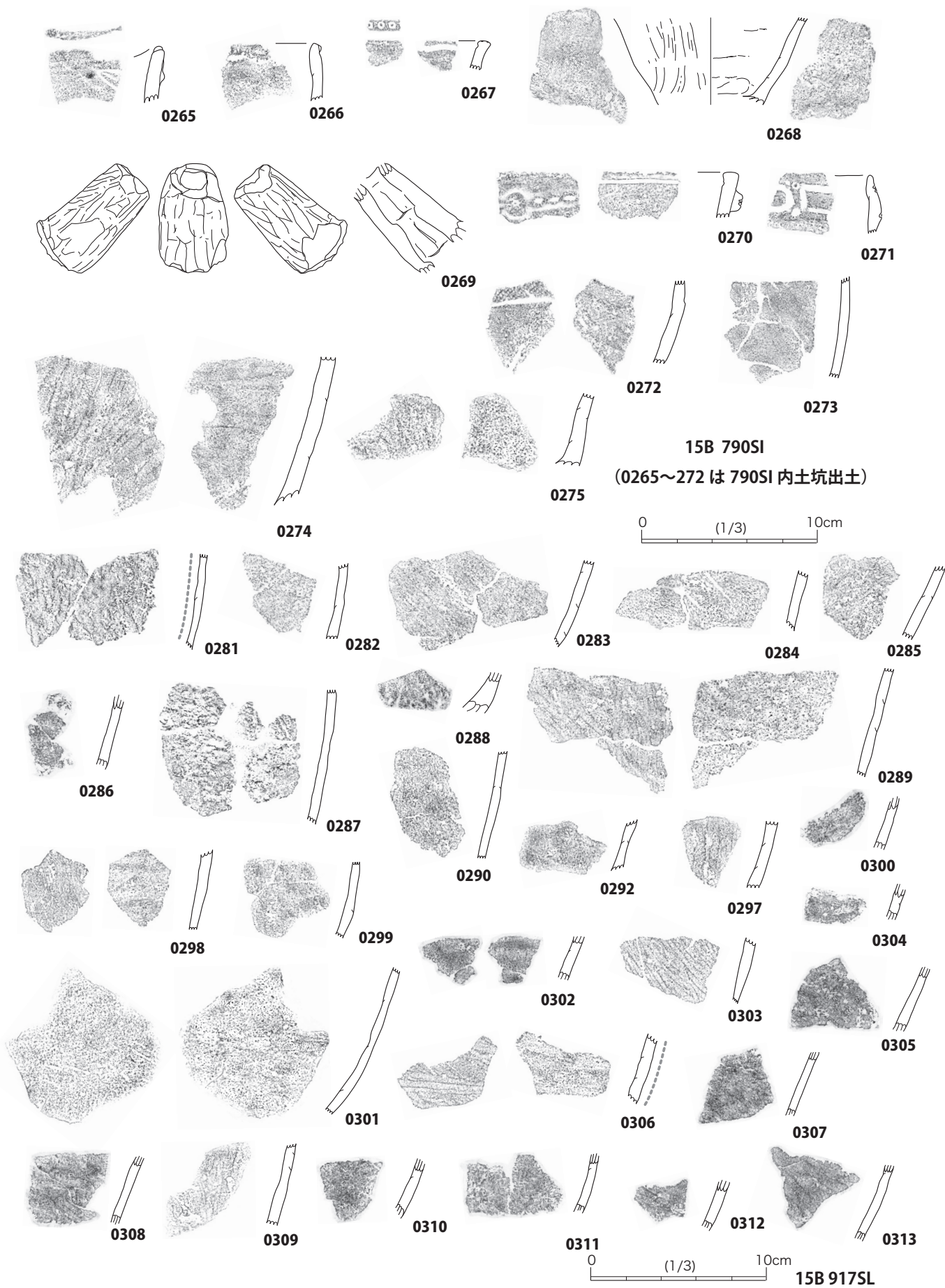
第 110 图 790SI 出土土器 (1)



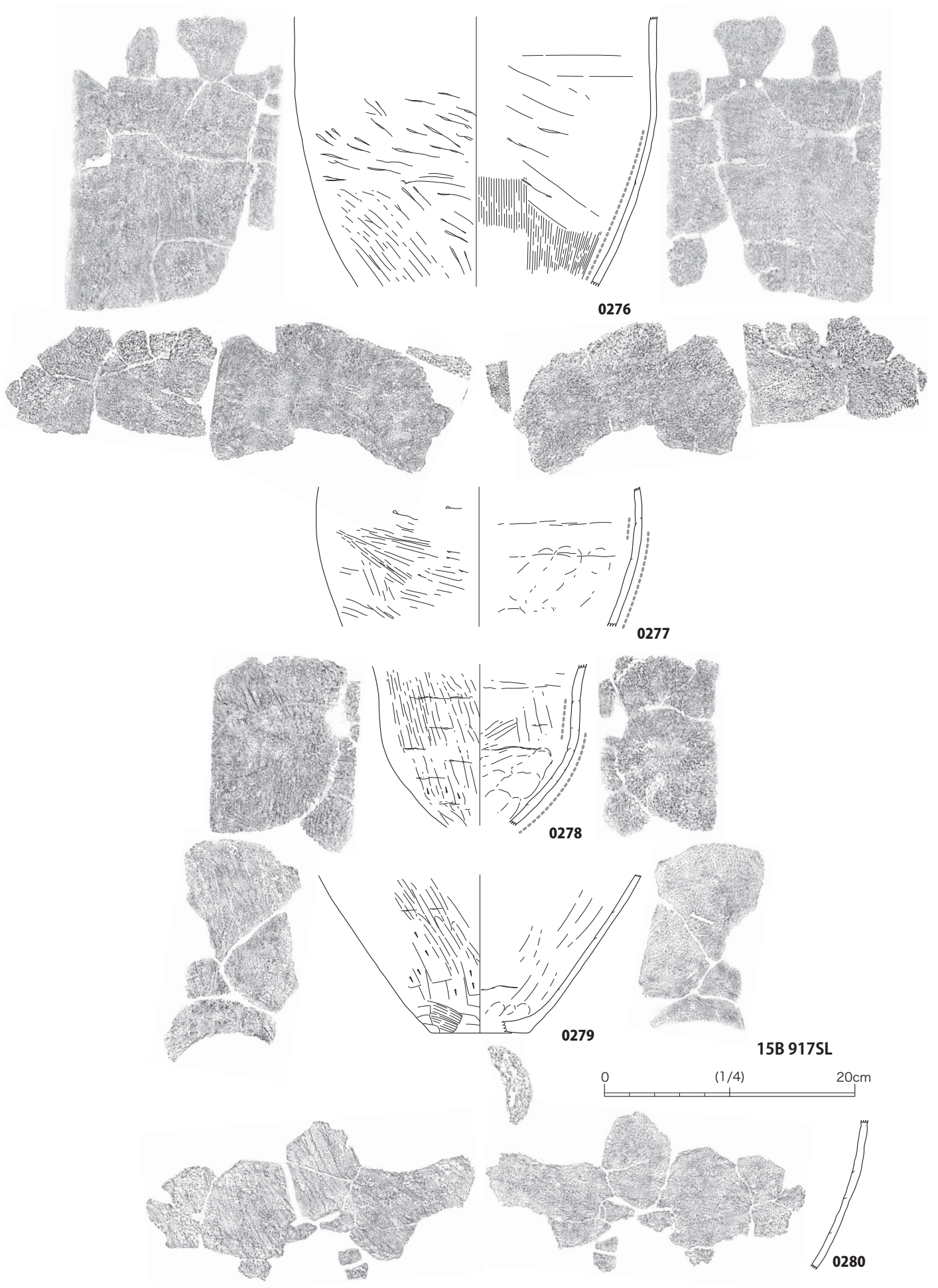
第 111 圖 790SI 出土土器 (2)



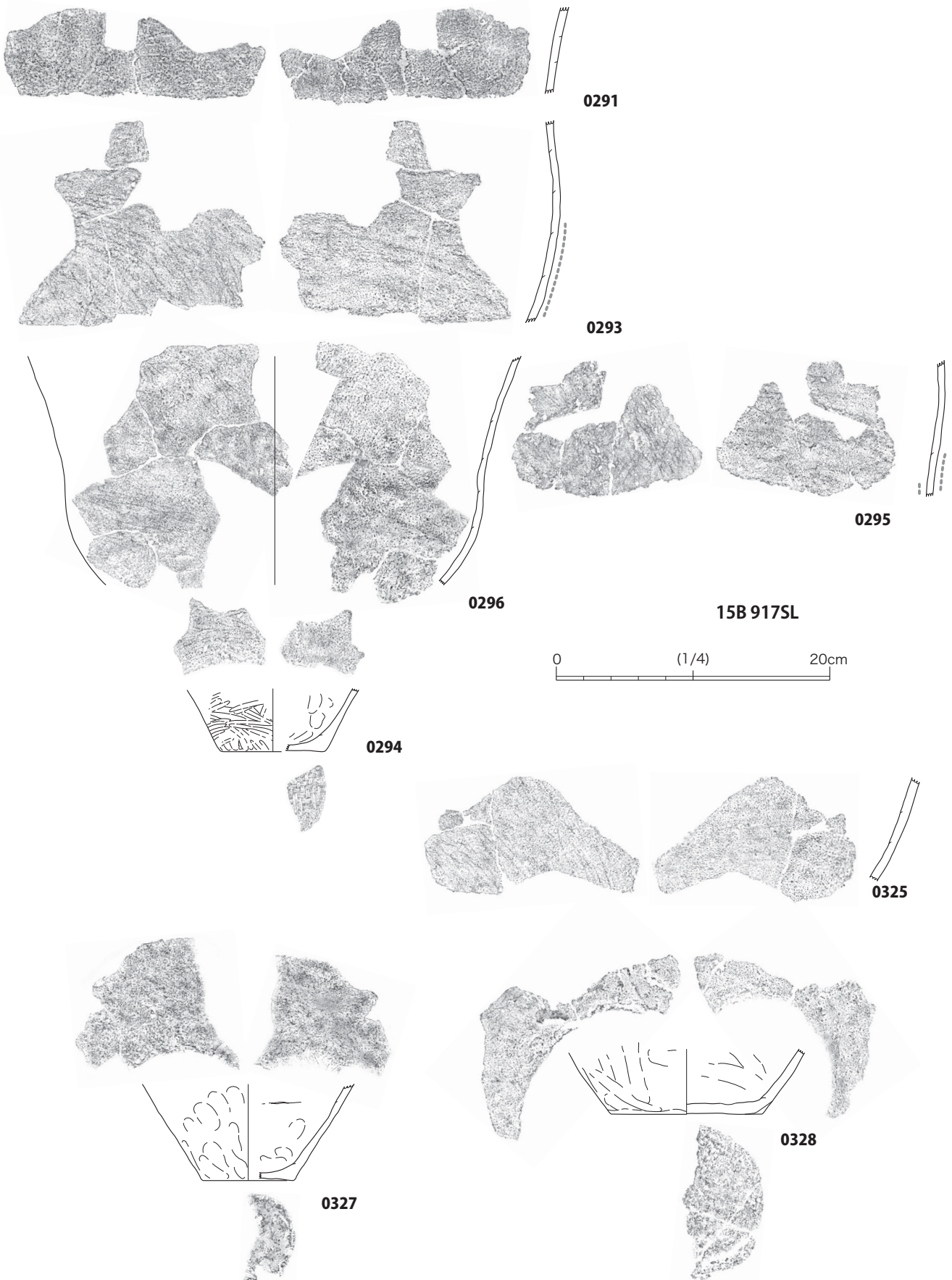
第 112 图 790SI 出土土器 (3)



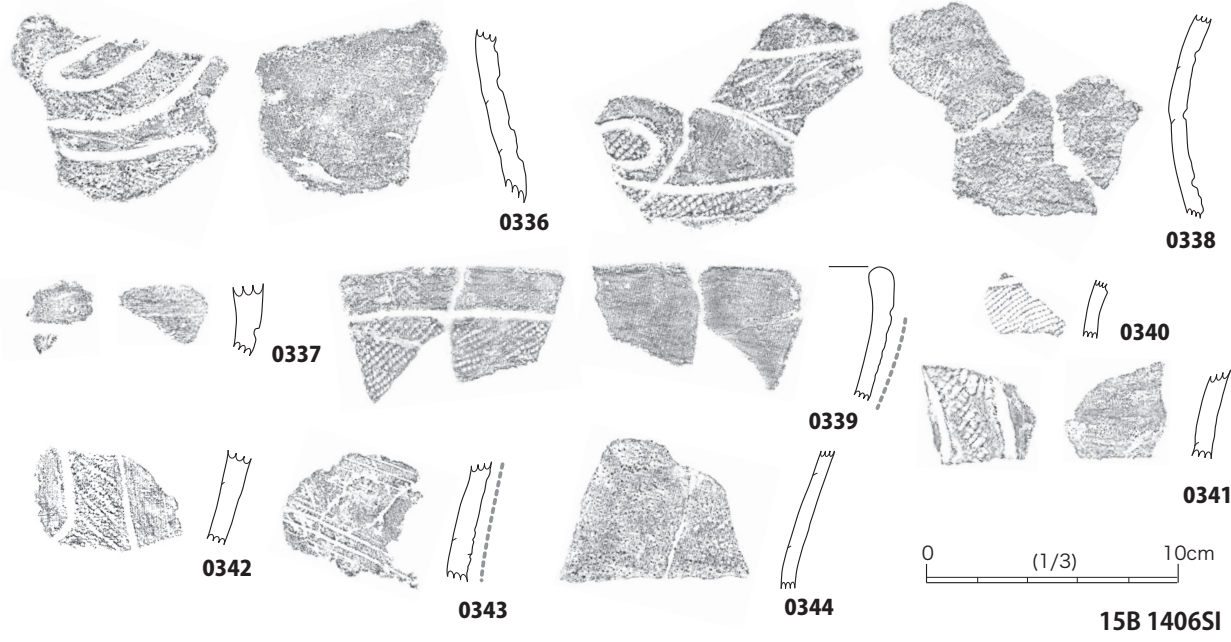
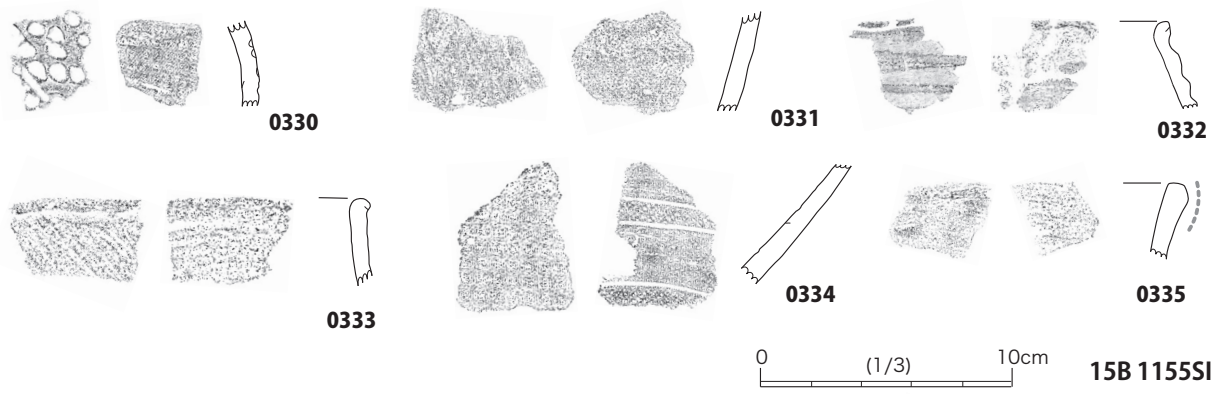
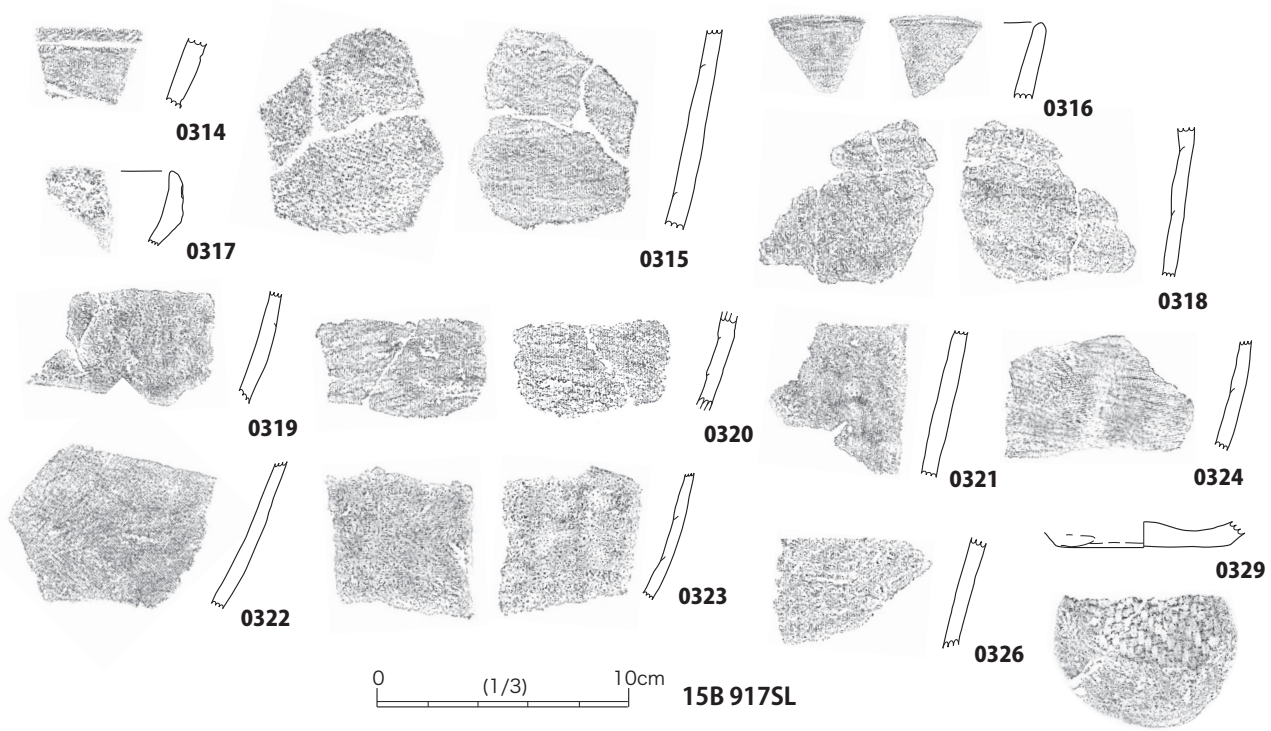
第113图 790SI出土土器(4)



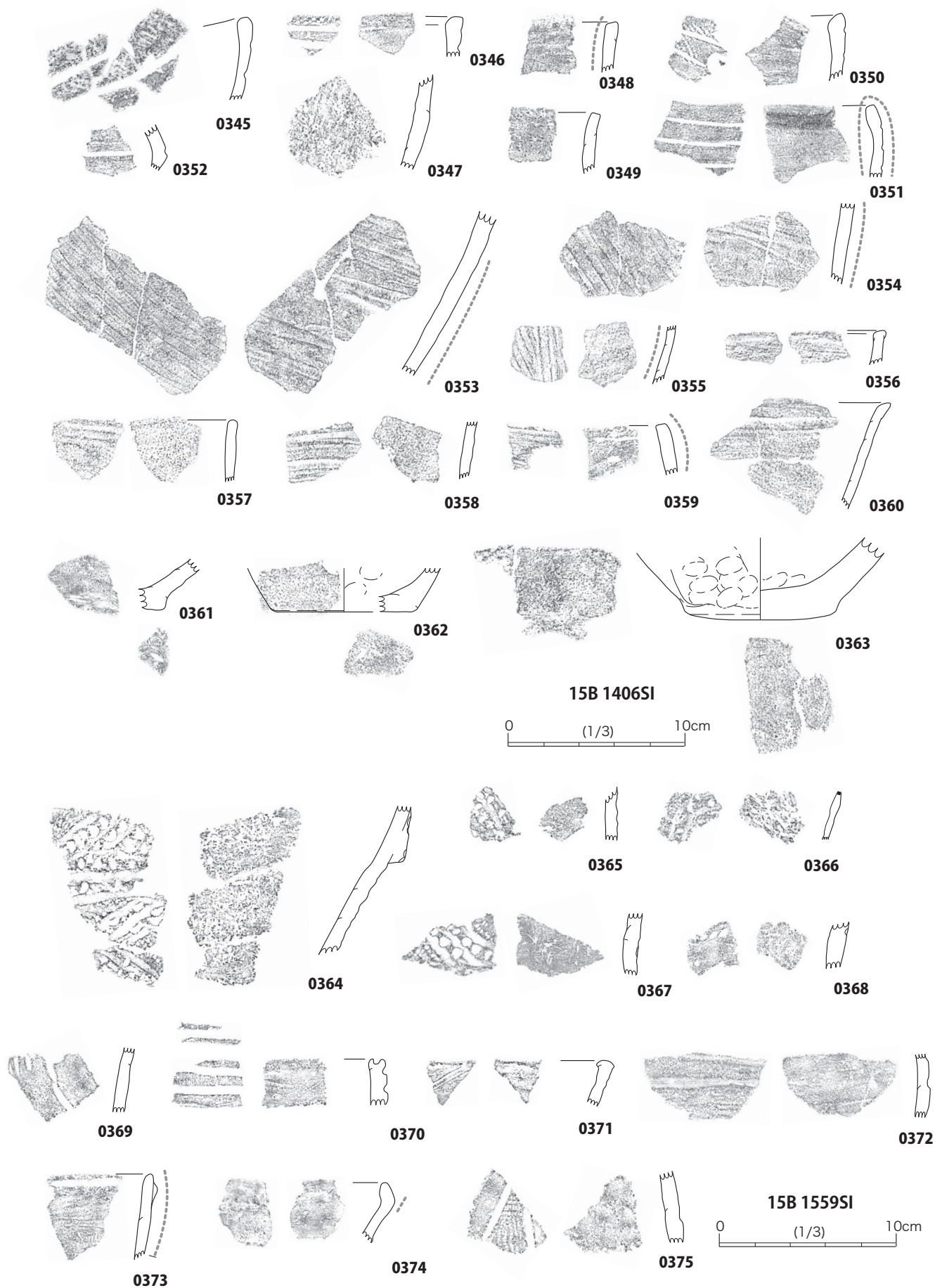
第 114 图 790SI 出土土器 (5)



第 115 圖 790SI 出土土器 (6)



第116圖 790SI・1155SI・1406SI出土土器



第 117 圖 1406SI · 1559SI 出土土器

榎原文様（異系統）【1136】

(3) 壺もしくは注口土器

中津・称名寺式（壺形）【811】

福田K2式【632・2187・2543・3061】

八王子式～西北出式（八王子1式・2式）【803・

1589・1591・1792・2088・2383・2792】

蜷塚KⅡ式【1668・3057・3063】

宮滝式（古）【1147】

伊川津式 / 神谷沢式 / 寺津下層式【990・1448】

瘤付土器（異系統）【1142～1144】

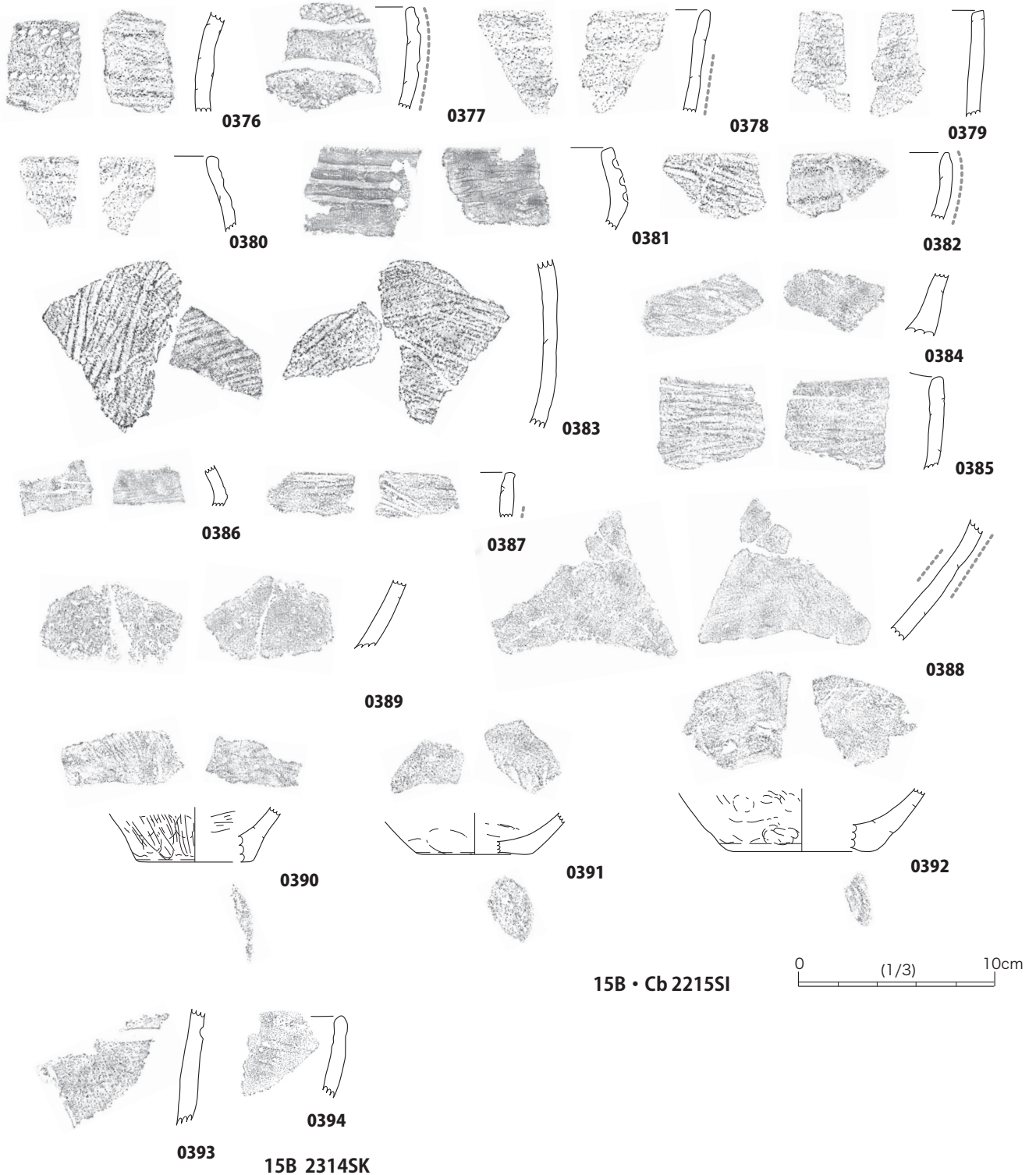
(4) 台付鉢

縄文時代中期後半【74・1194・2551】

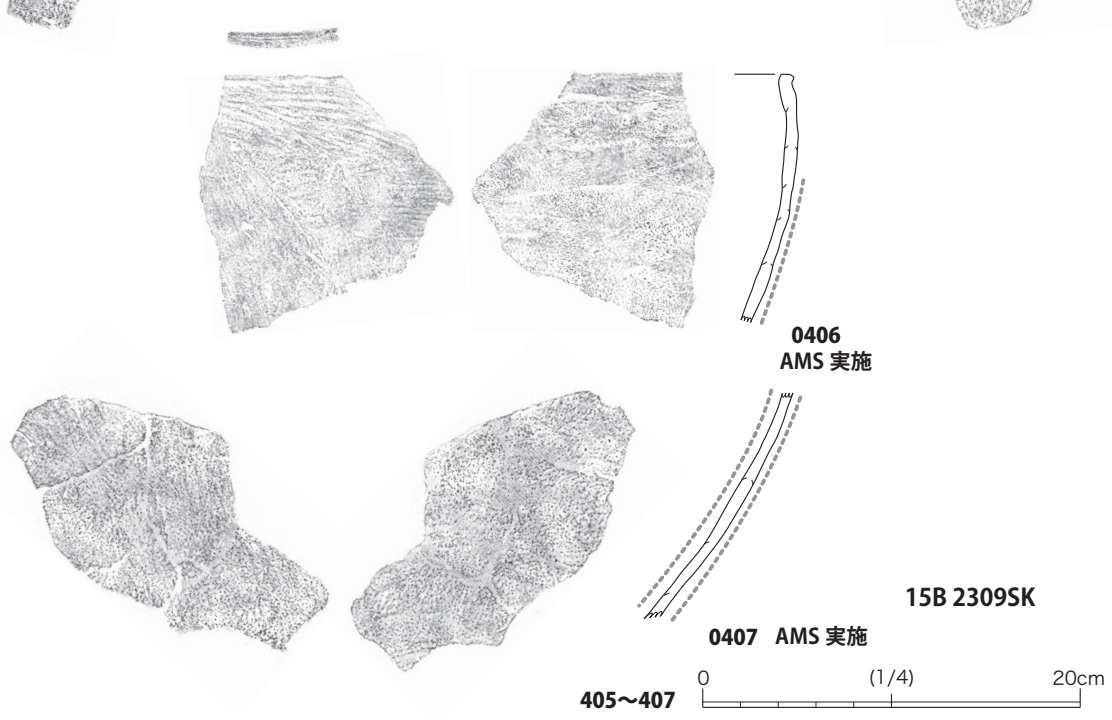
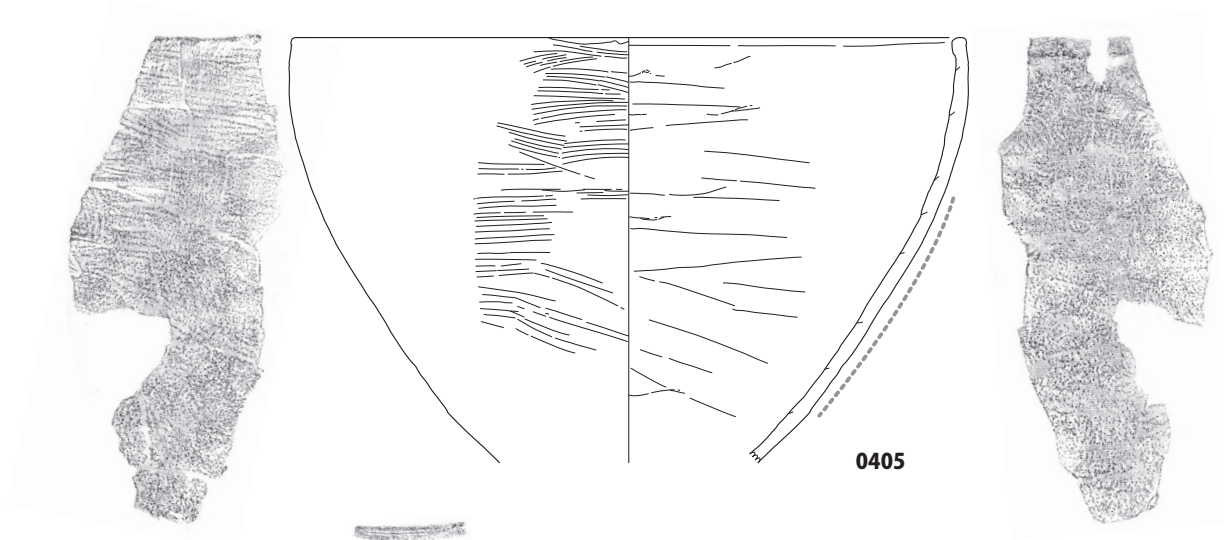
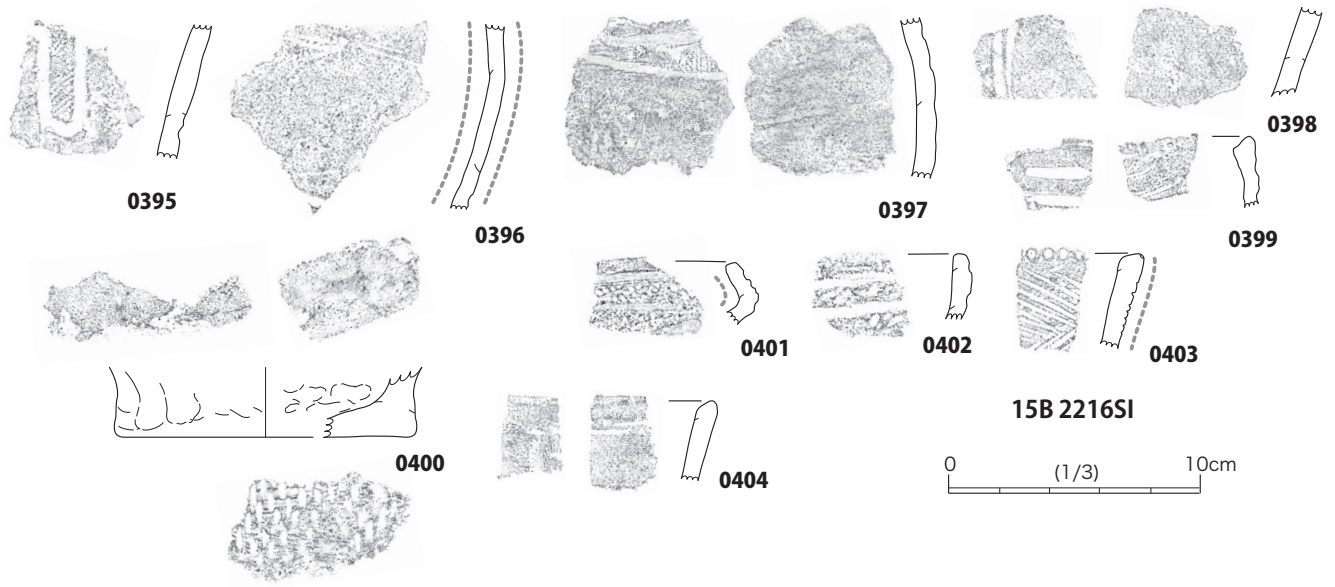
このうち、2551は器台の可能性もある。

(5) 釣手土器

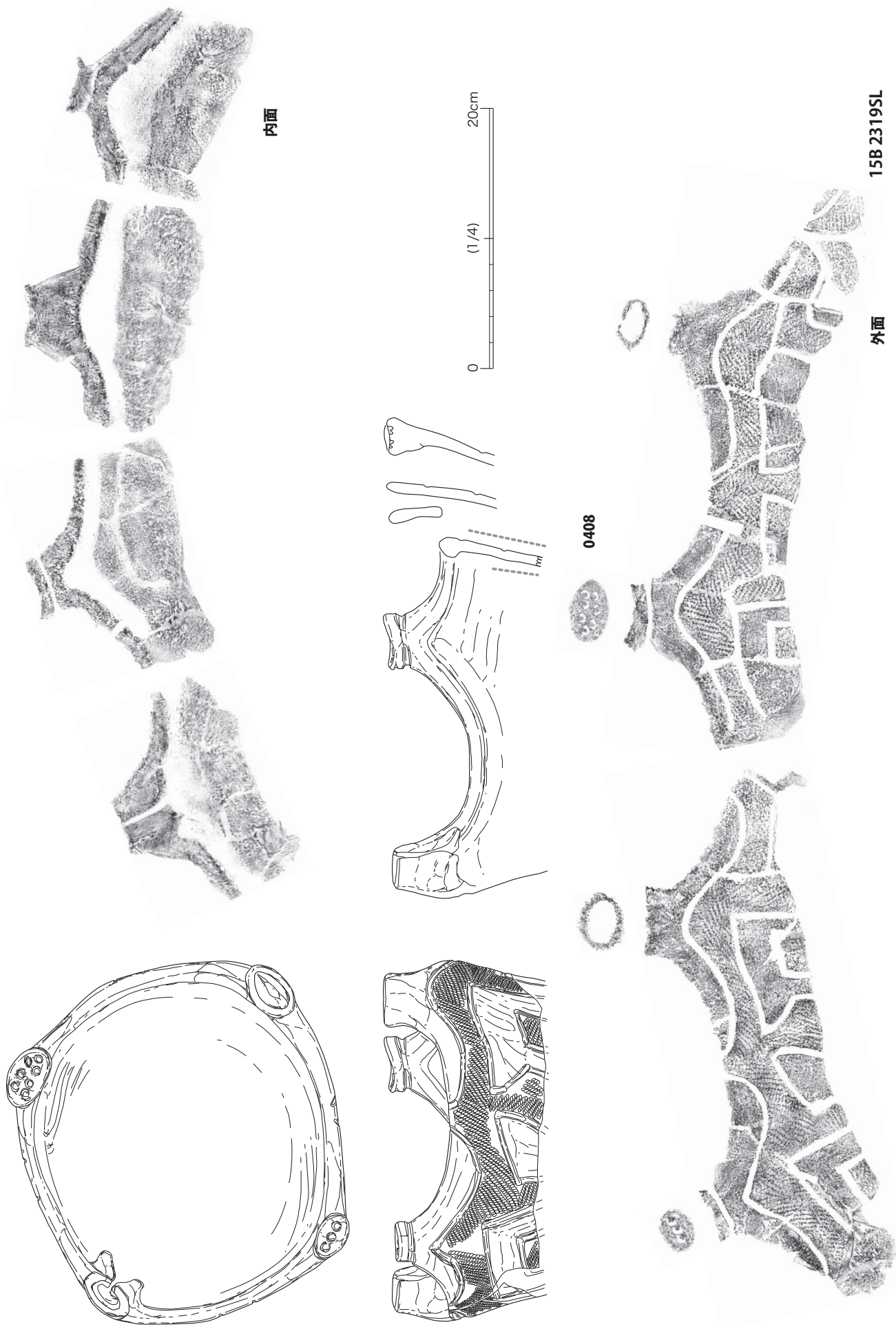
縄文時代中期後半【2804】



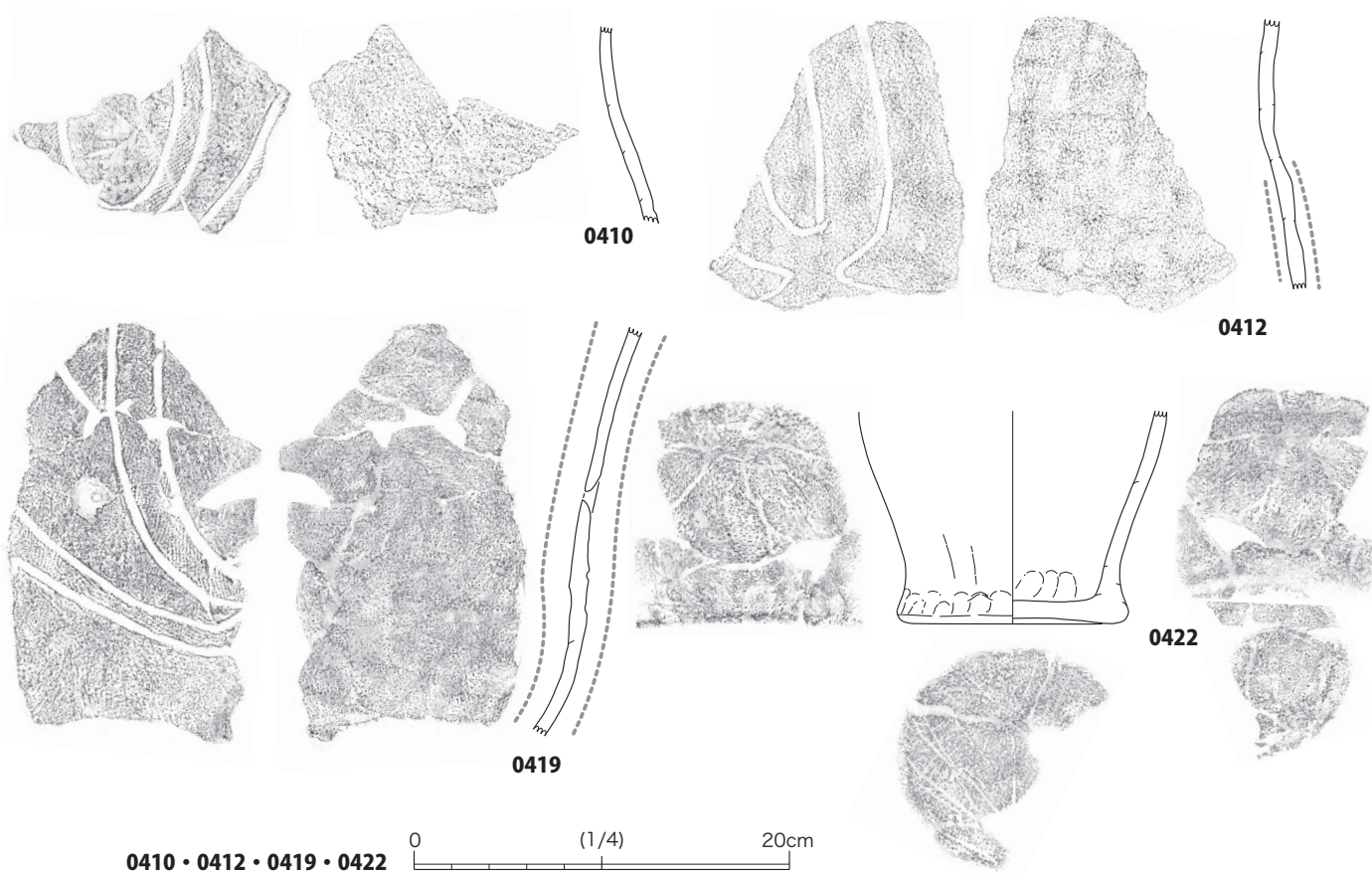
第 118 図 2215SI 出土土器



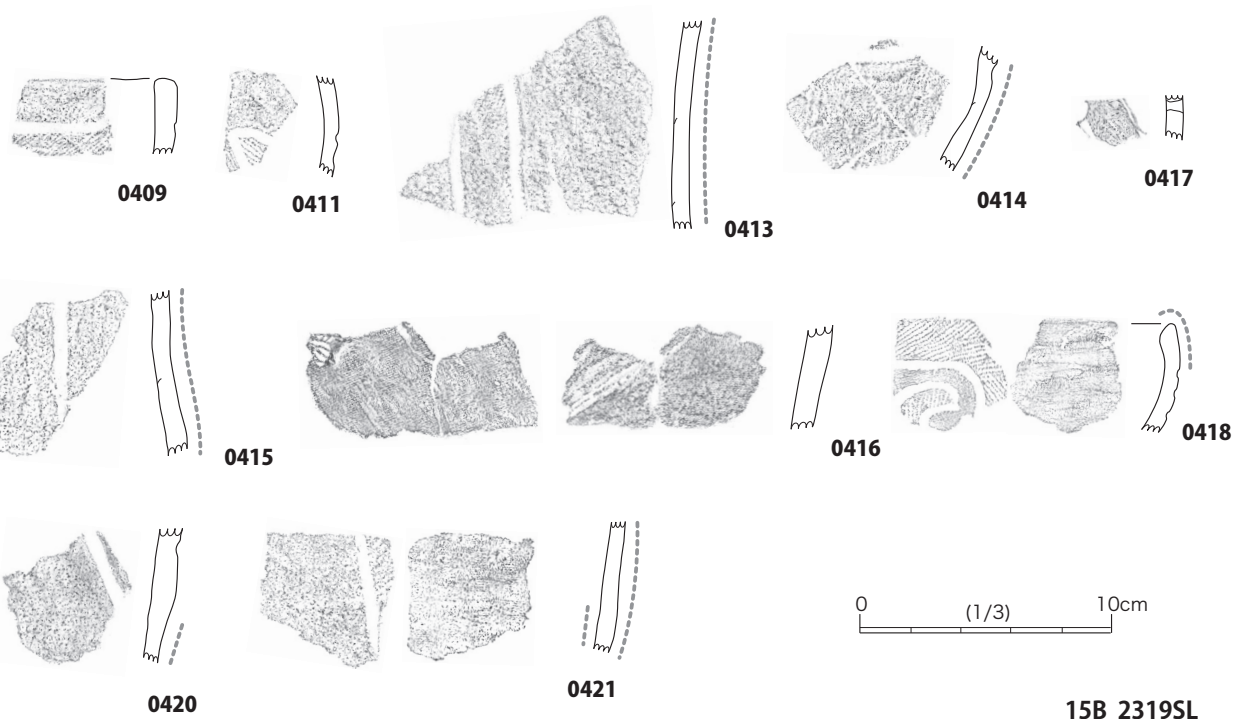
第 119 図 2216SI 出土土器 (1)



第 120 图 2216SI 出土土器 (2)



0410 · 0412 · 0419 · 0422 0 (1/4) 20cm



0 (1/3) 10cm

15B 2319SL

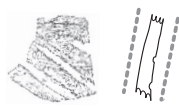
第 121 圖 2216SI 出土土器 (3)



0423



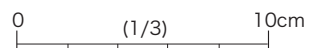
0424



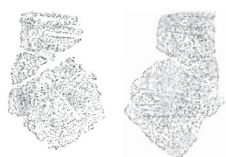
0425



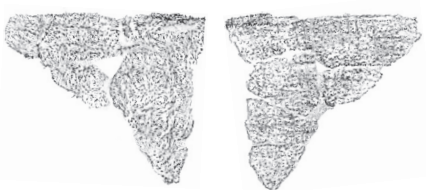
0426



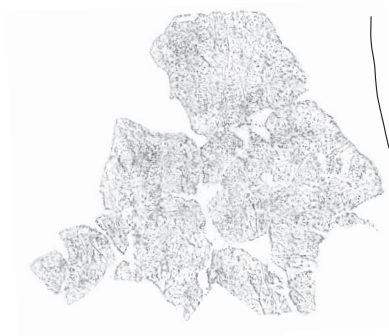
15B 2338SI



0428



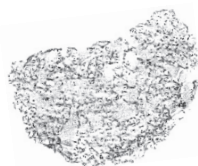
0427



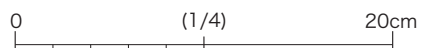
0429



0430

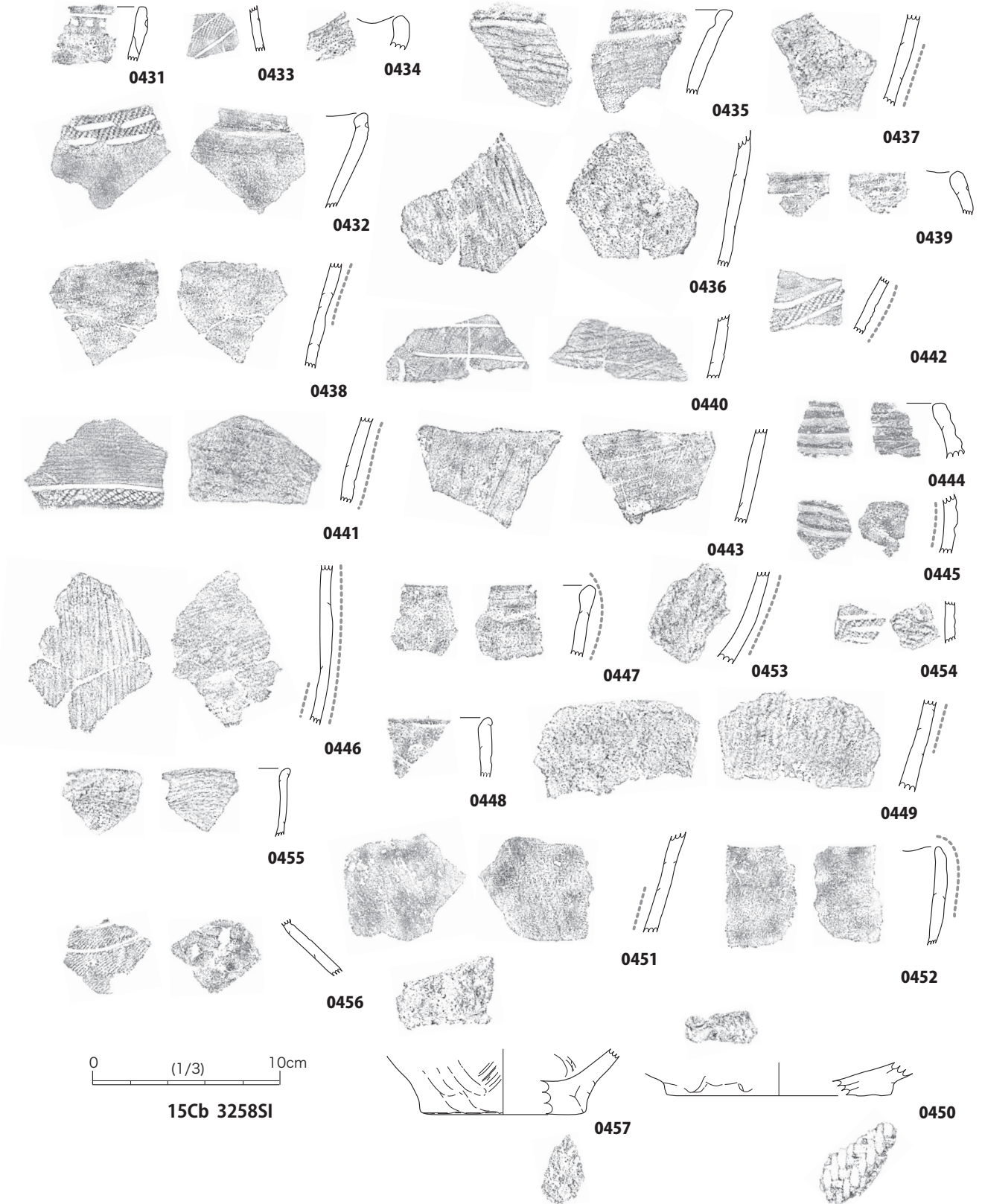


0427~0430



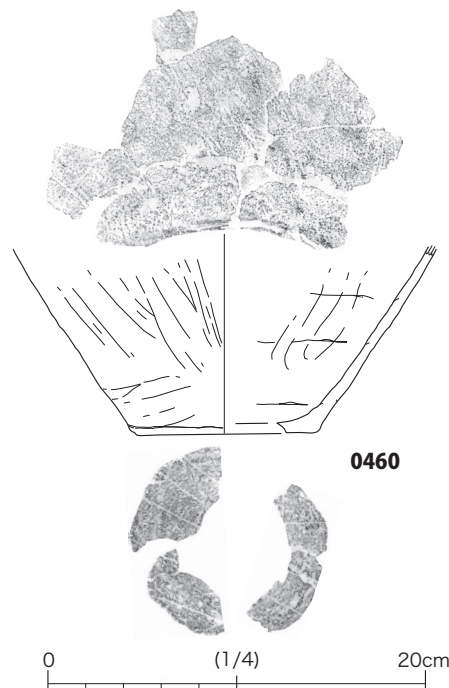
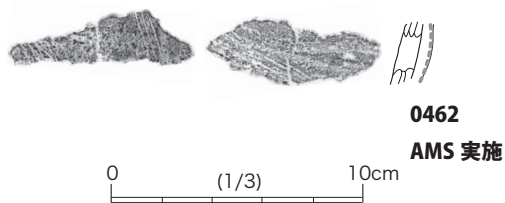
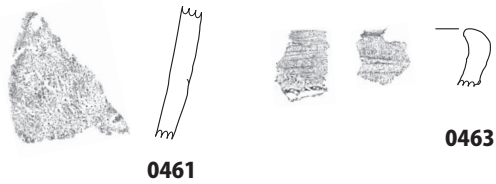
15B 2204SI

第 122 图 2338SI・2204SI 出土土器

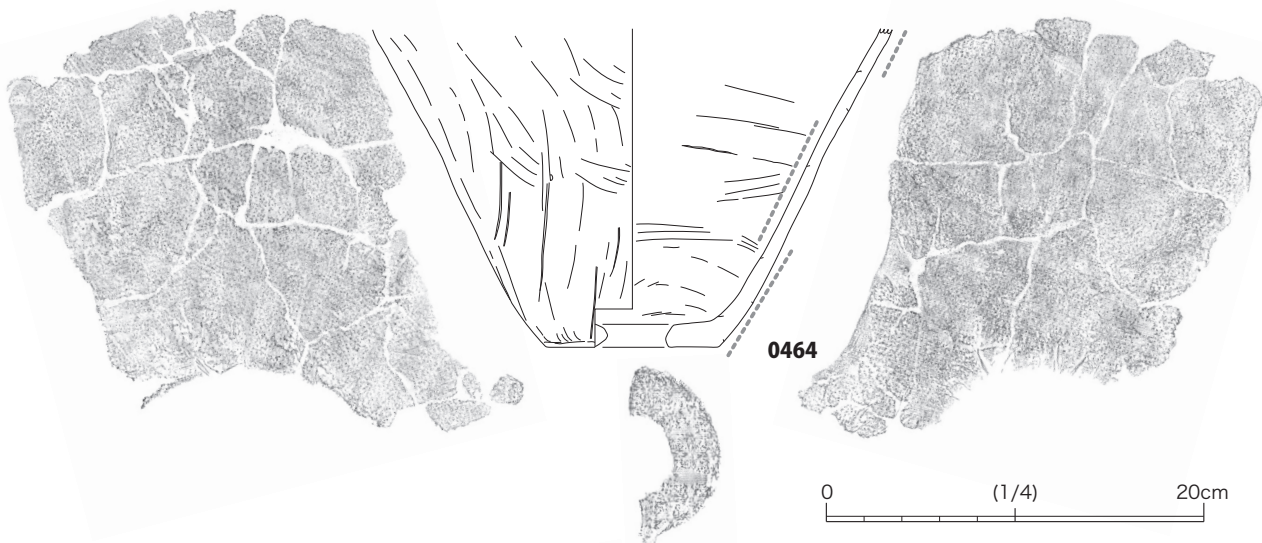


15Cb 3258SI

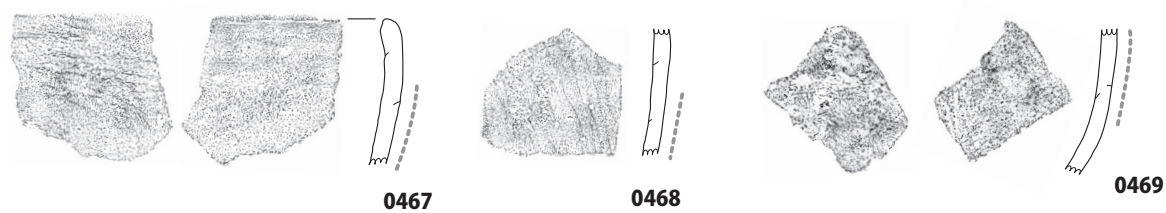
第 123 圖 3258SI 出土土器



15Cb 3294SK

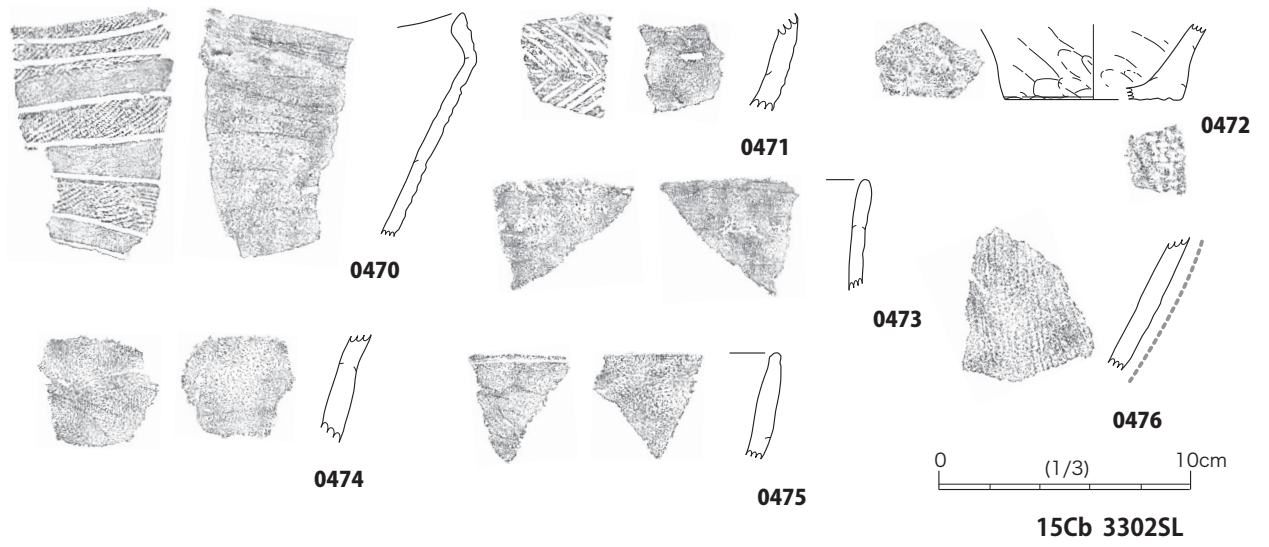


15Cb 3294SK

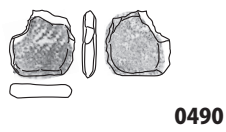
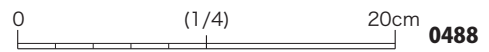
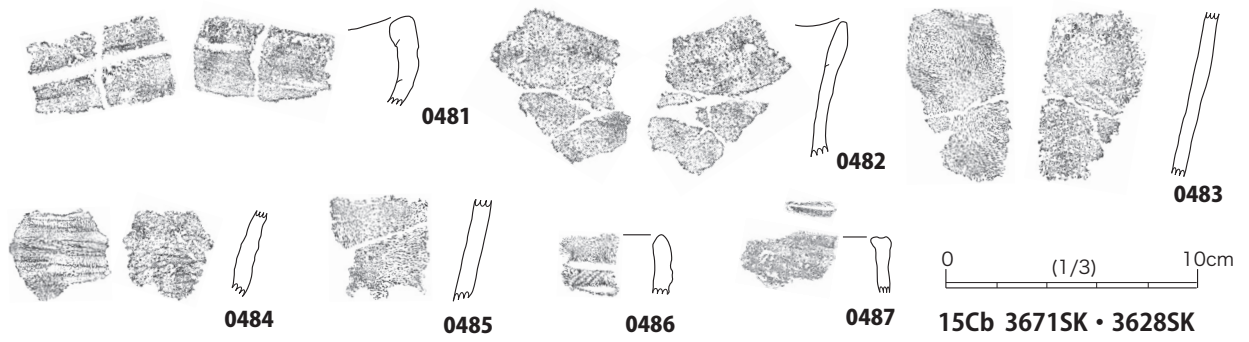


15Cb 4150SK · 4170SK

第 124 图 3258SI · 4150SI 出土土器



第 125 图 4293SI · 4299SI 出土土器



15B 0565SK

第 126 図 4310SI · 565SK 出土土器

(6) 穿孔のある土器片・加工円版

加工円版は今回の調査で 14 点確認した。中央に穿孔が認められるものが多いか。穿孔部分で欠失しているものもあり、補修孔のある土器片との峻別が難しい場合もあり、土製品ではなく土器のなかで報告している。ほぼすべて縄文時代後期に属するものと考えられる。

(7) 小結

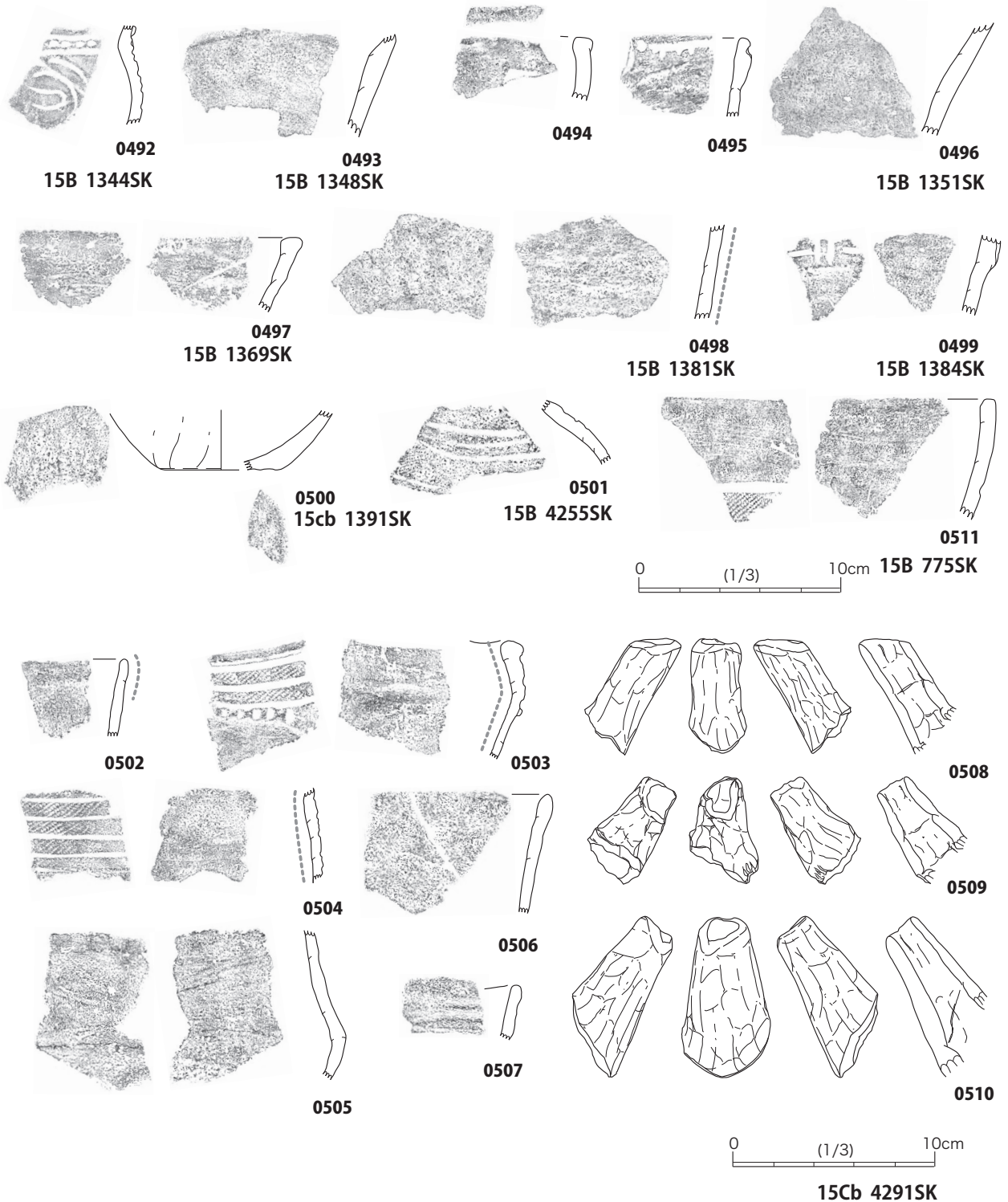
以上のように、縄文土器は早期・中期・後期・晩

期が認められるものの、最もまとまって認められる時期は、後期であり、特に後期初頭～前葉と、後期中葉後半～後葉の時期に集中が認められるようである。中でも遺構出土資料で特筆されるものがあり、以下にその特徴を述べておく。

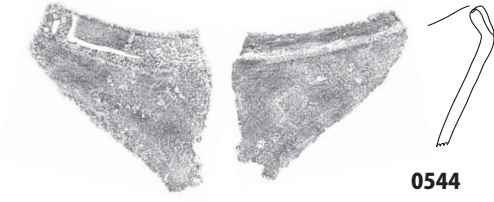
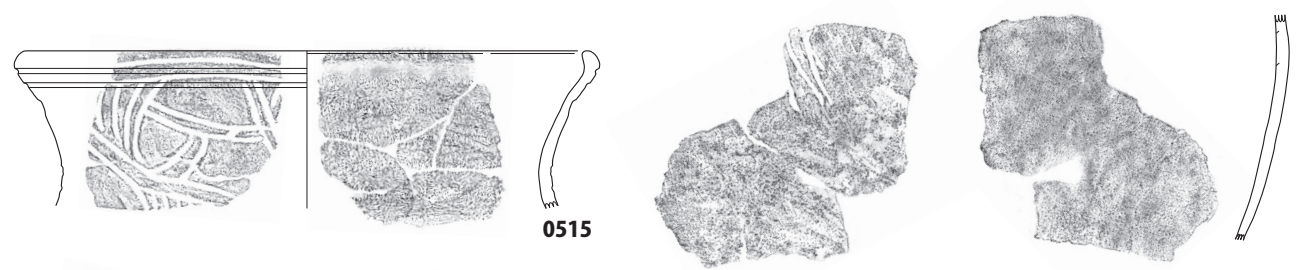
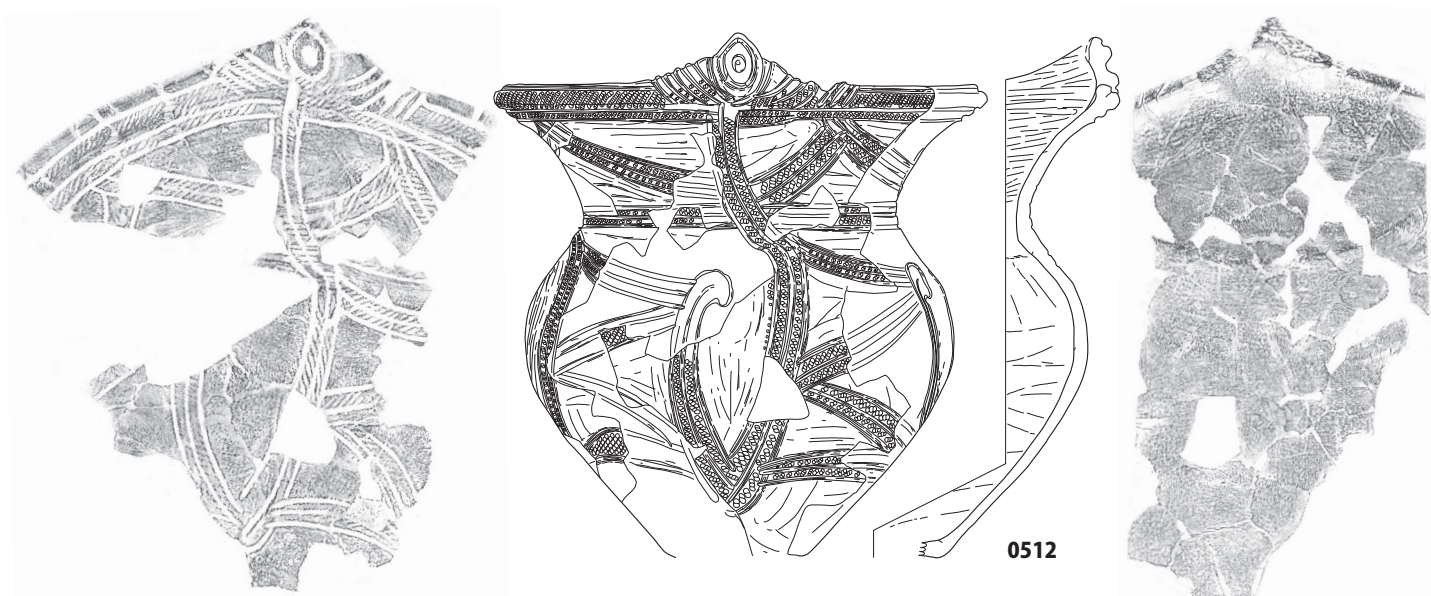
2 縄文土器（主要遺構出土遺物の紹介）

(1) 3893SI 出土土器（0001～0075）

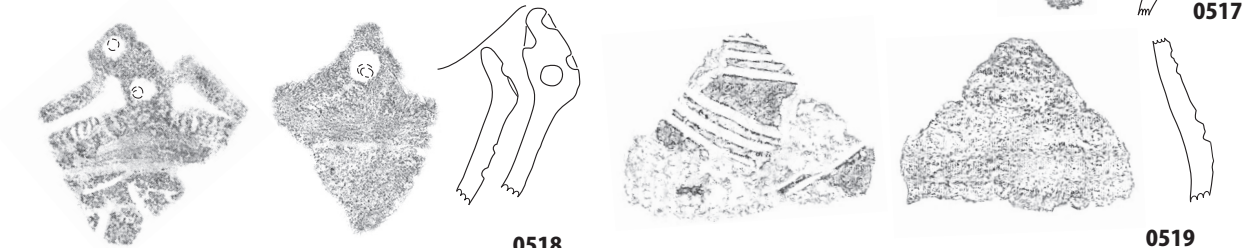
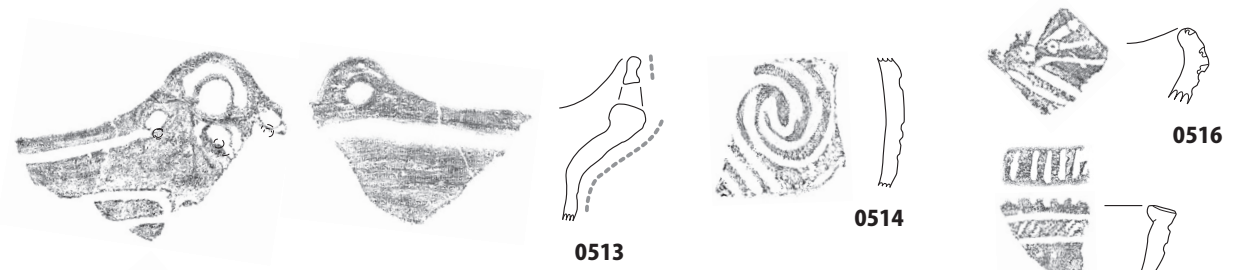
竪穴建物跡内に一括廃棄されたと考えられる、良



第 127 図 4291SK 他出土土器



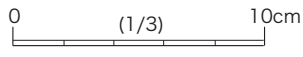
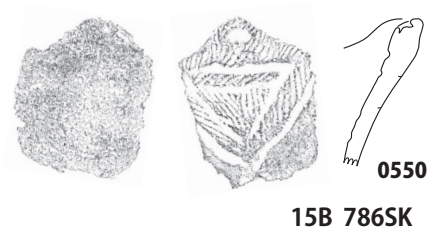
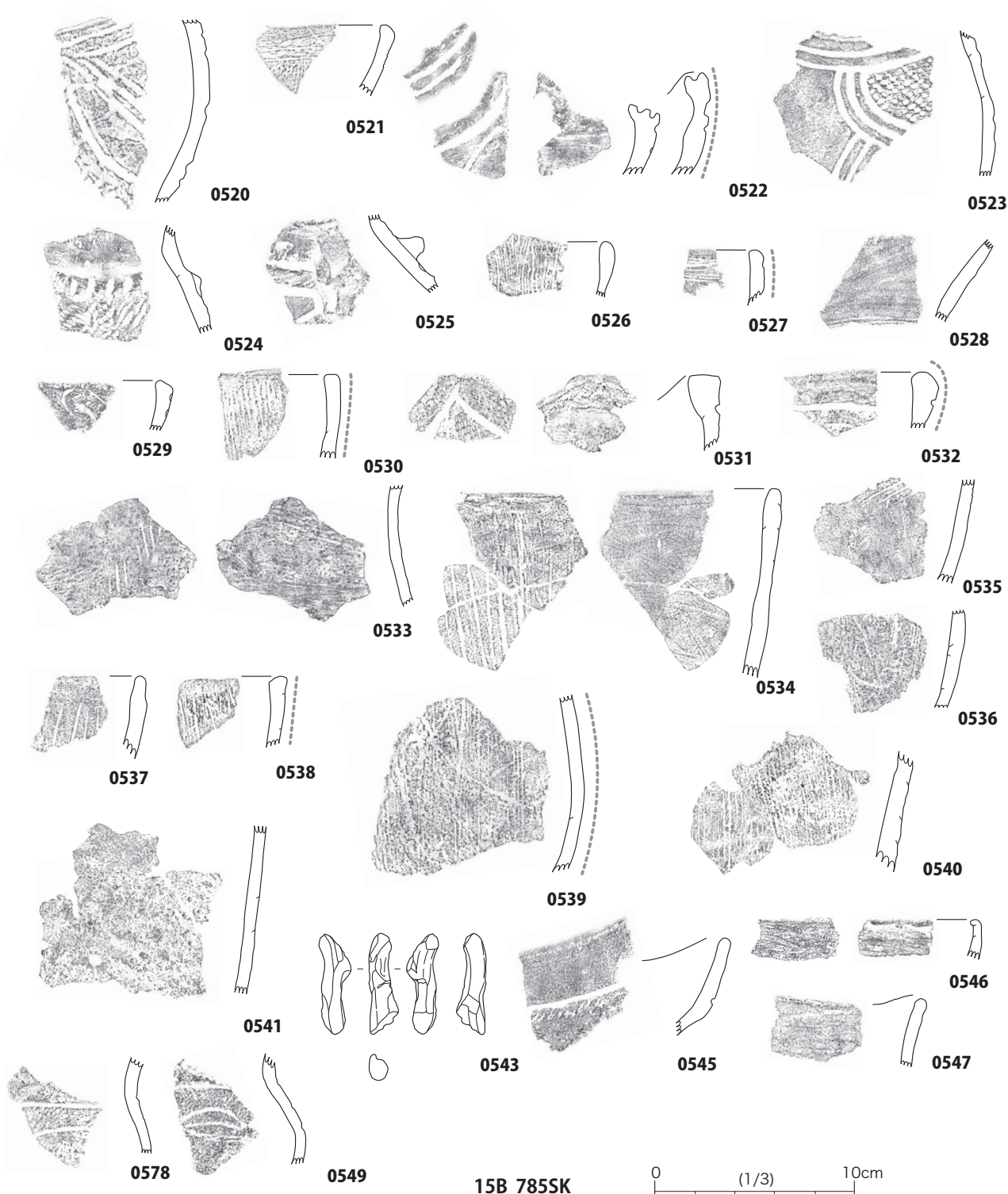
0 1/4 20cm 0512 • 0515 • 0542 • 0544



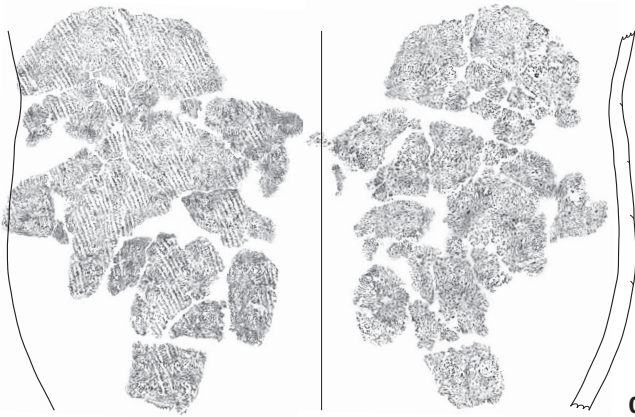
0 1/3 10cm

0513~0519
15B 785SK

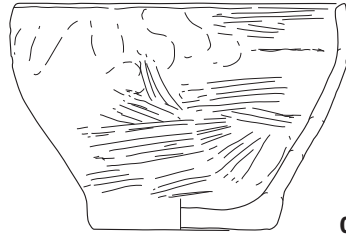
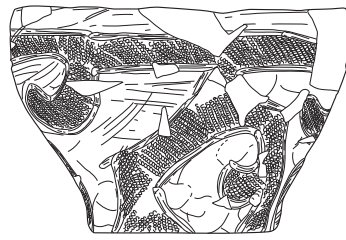
第 128 图 785SK 出土土器 (1)



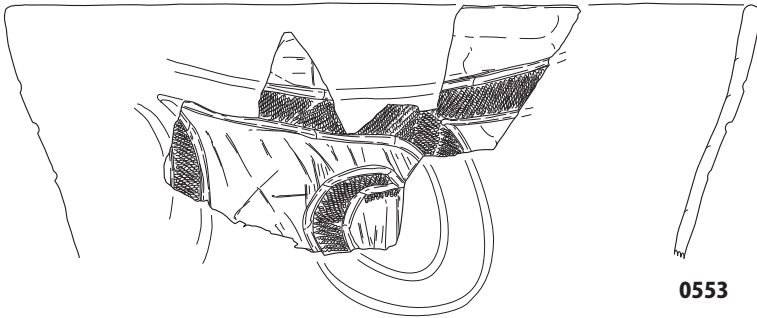
第 129 圖 785SK 出土土器 (2)



0551



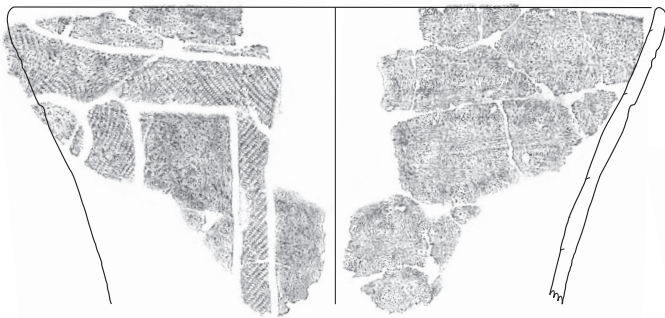
0552



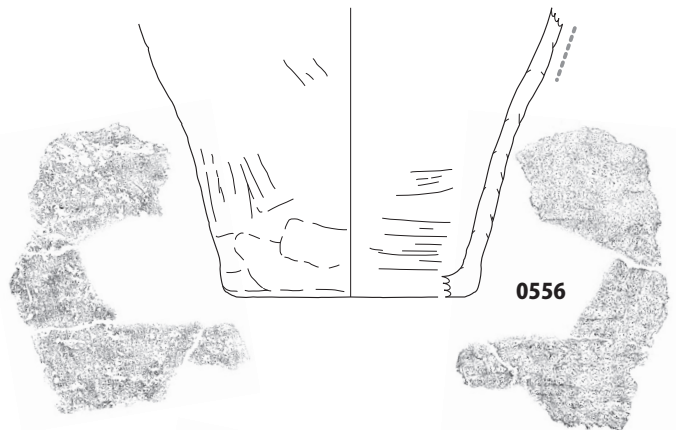
0553



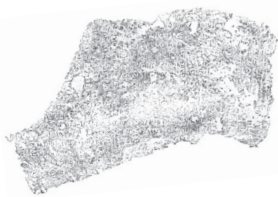
0555



0554

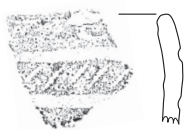


0556

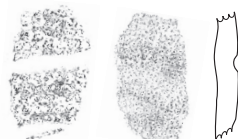


0557

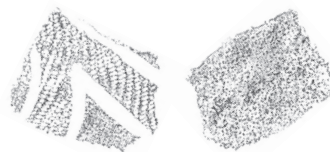
0 1/4 20cm 0551~0557



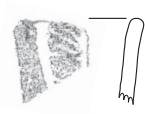
0558



0559



0560

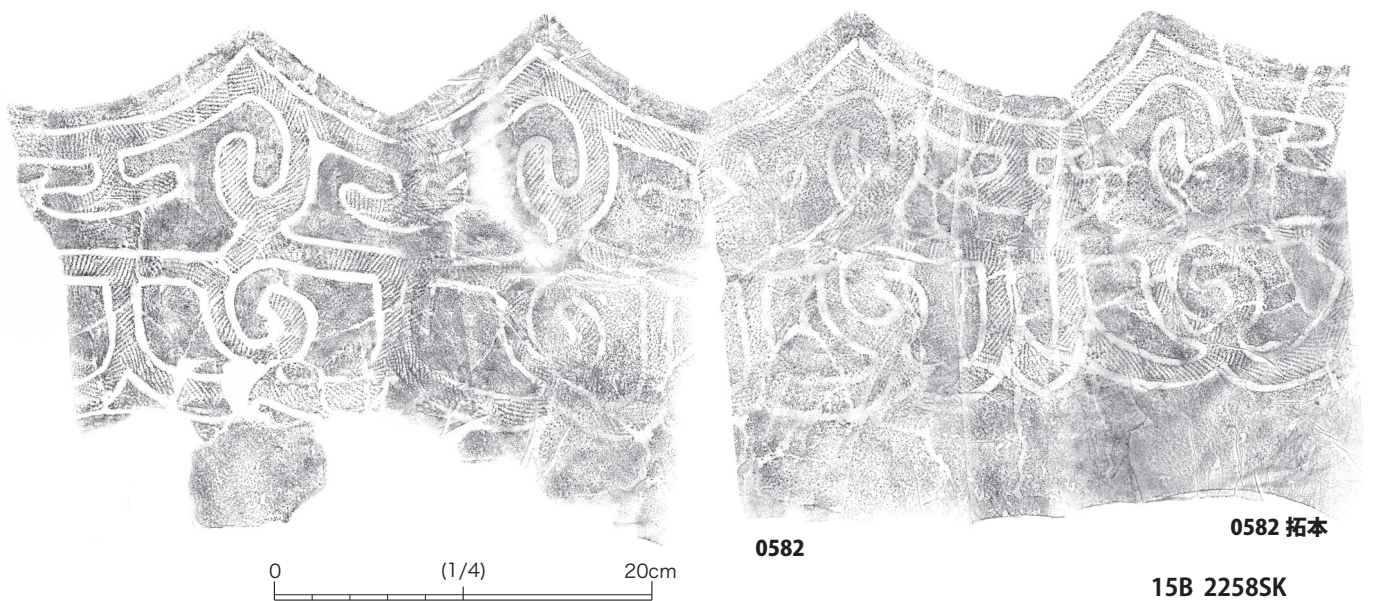
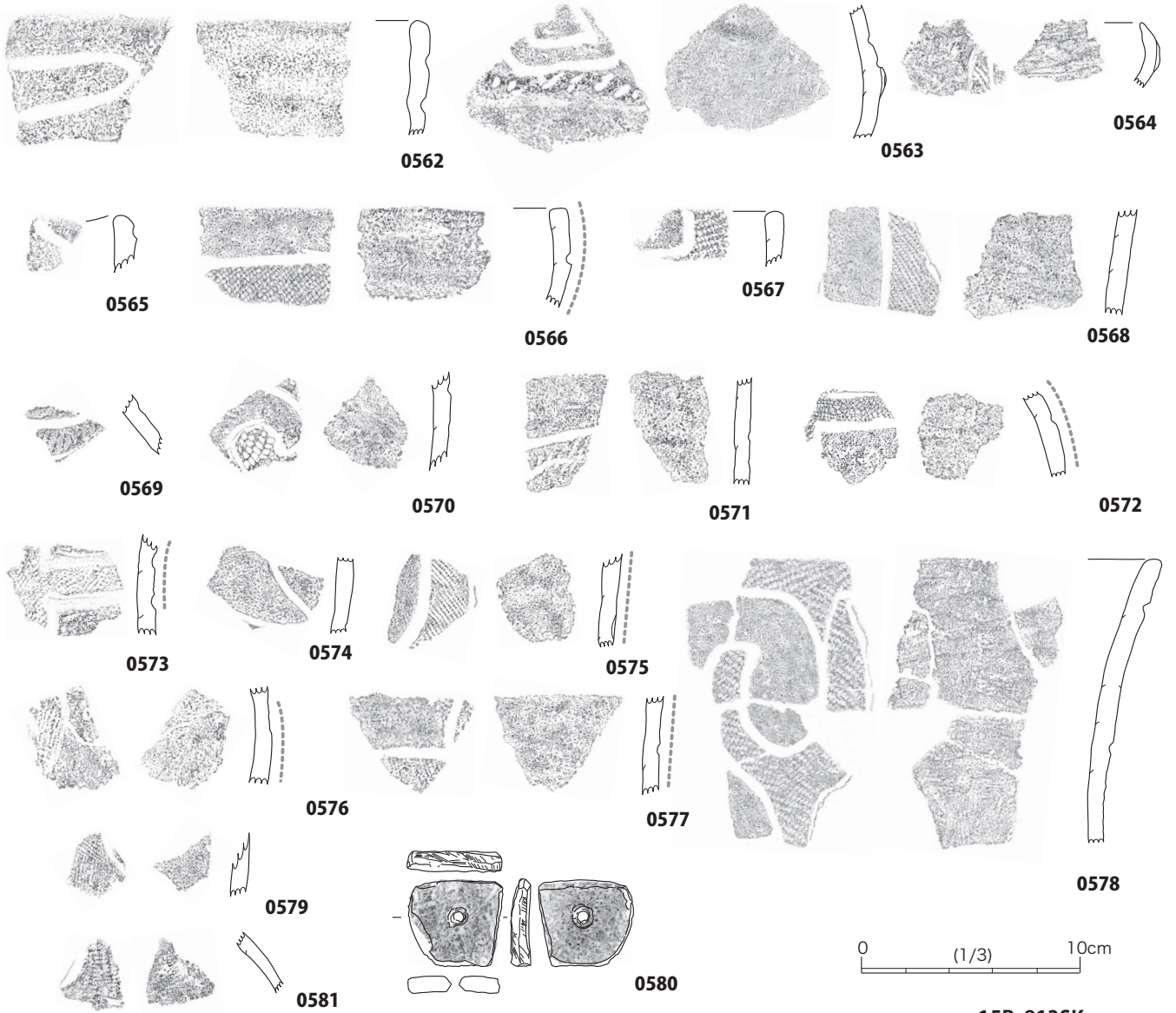


0561

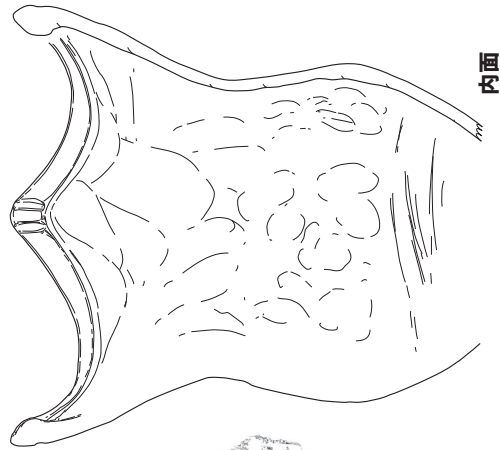
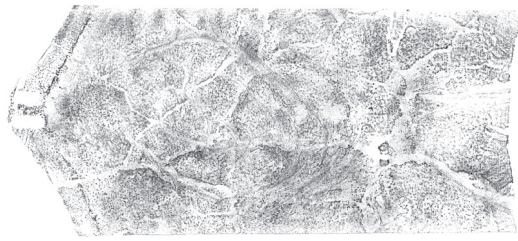
0 1/3 10cm 0558~061

15B 813SK

第 130 图 813SK 出土土器



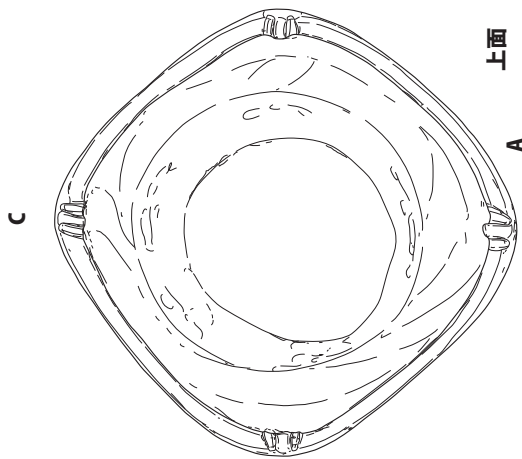
第 131 图 813SK · 2258SK 出土土器



内面



B

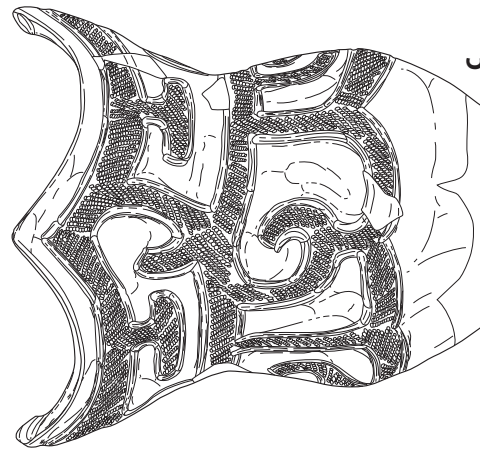


上面

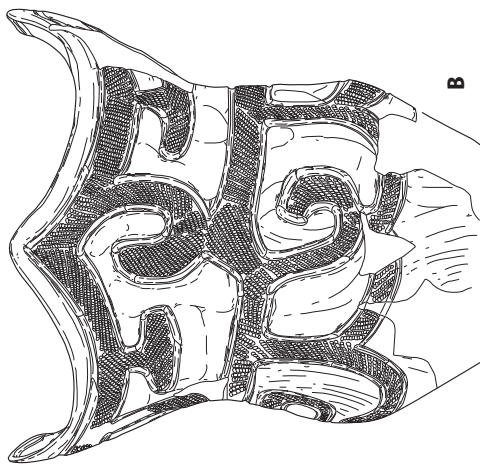
D



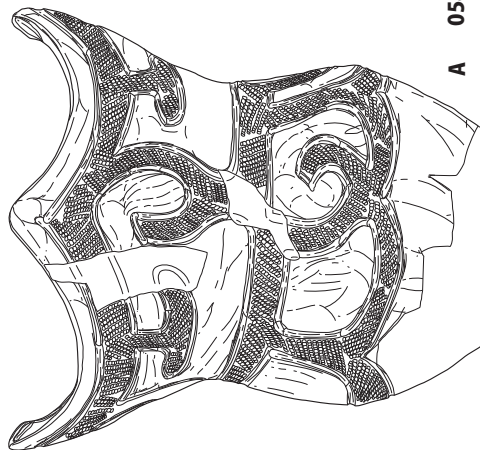
D



C



B



A

0582

AMS 美施

20cm

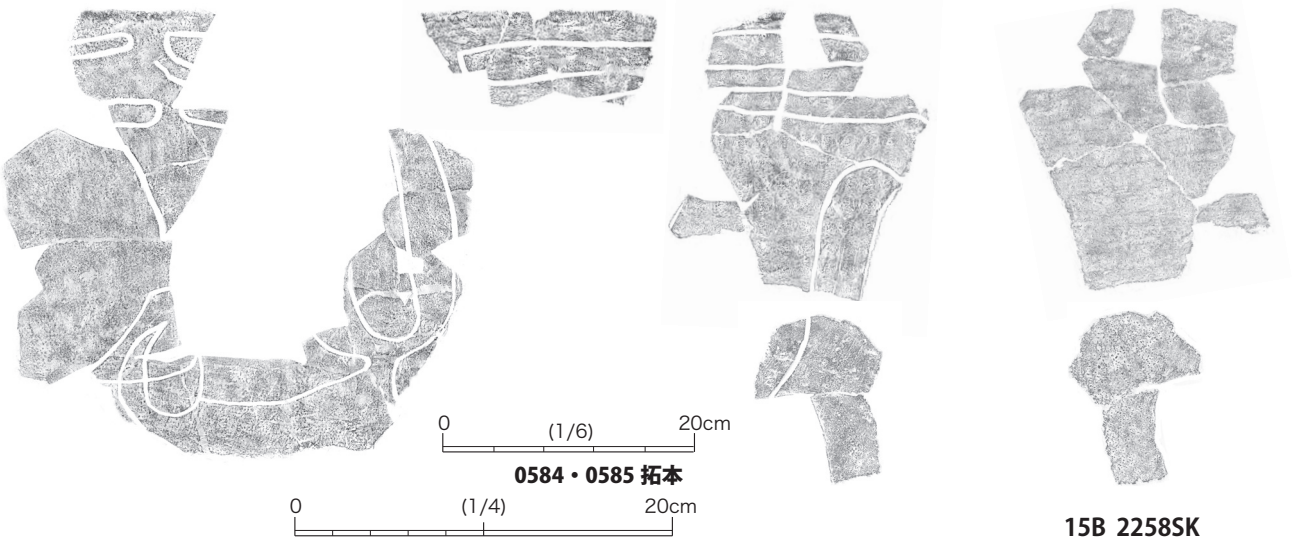
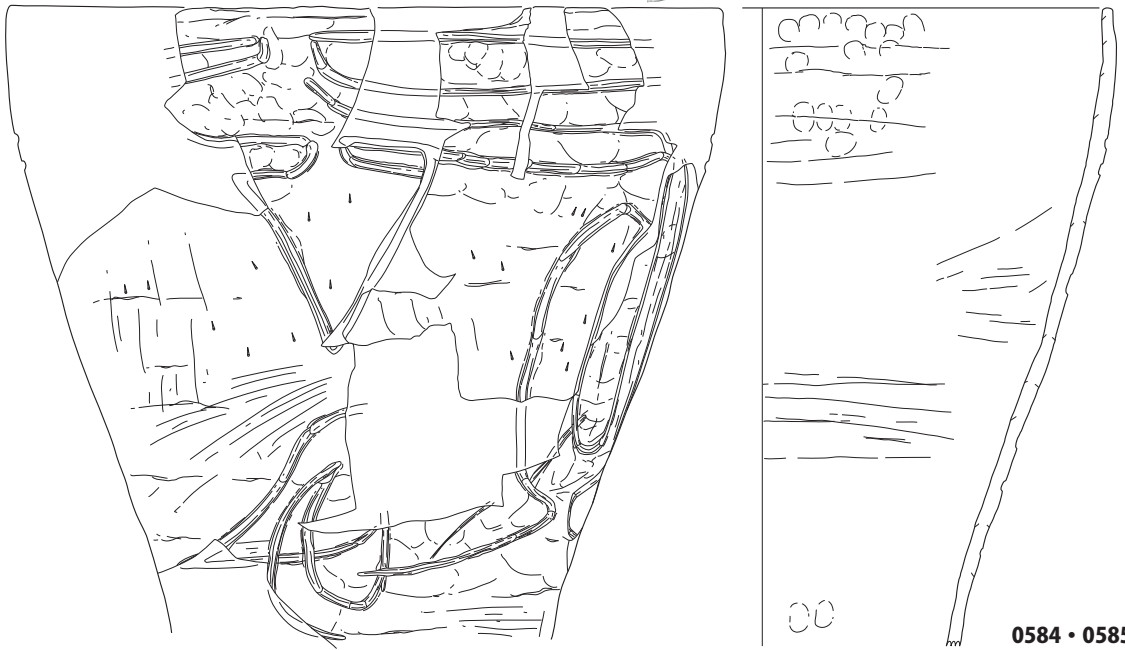
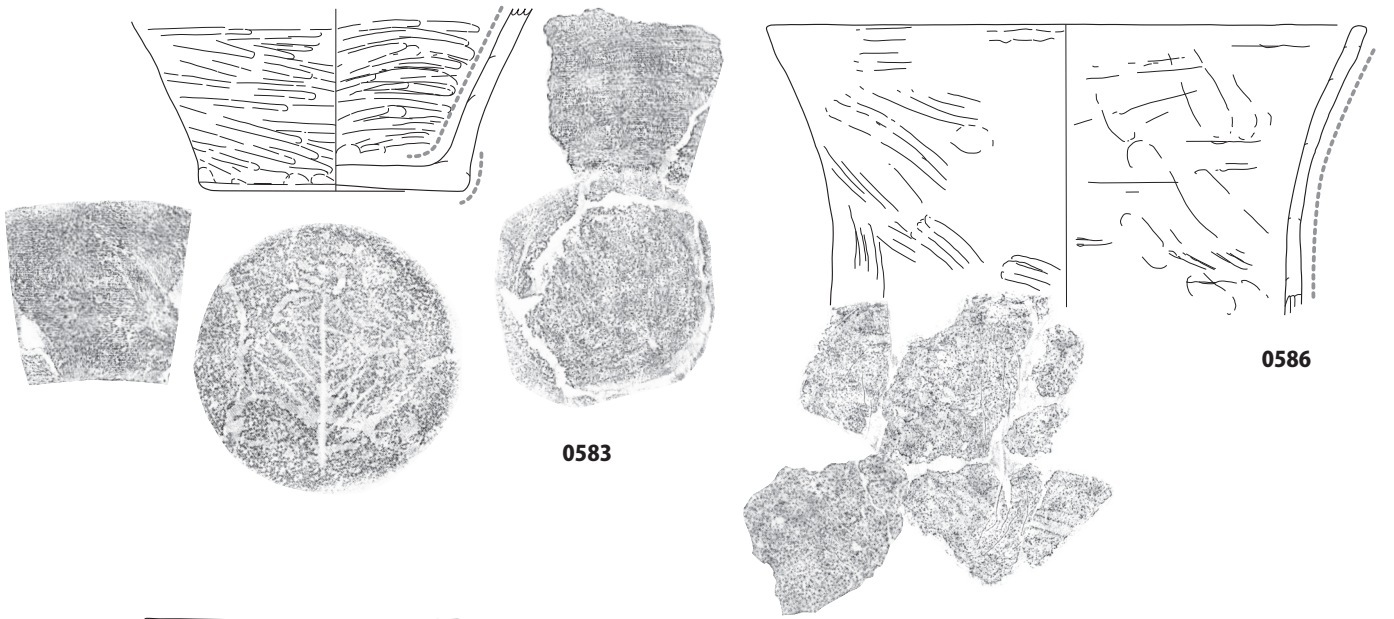
(1/4)

0

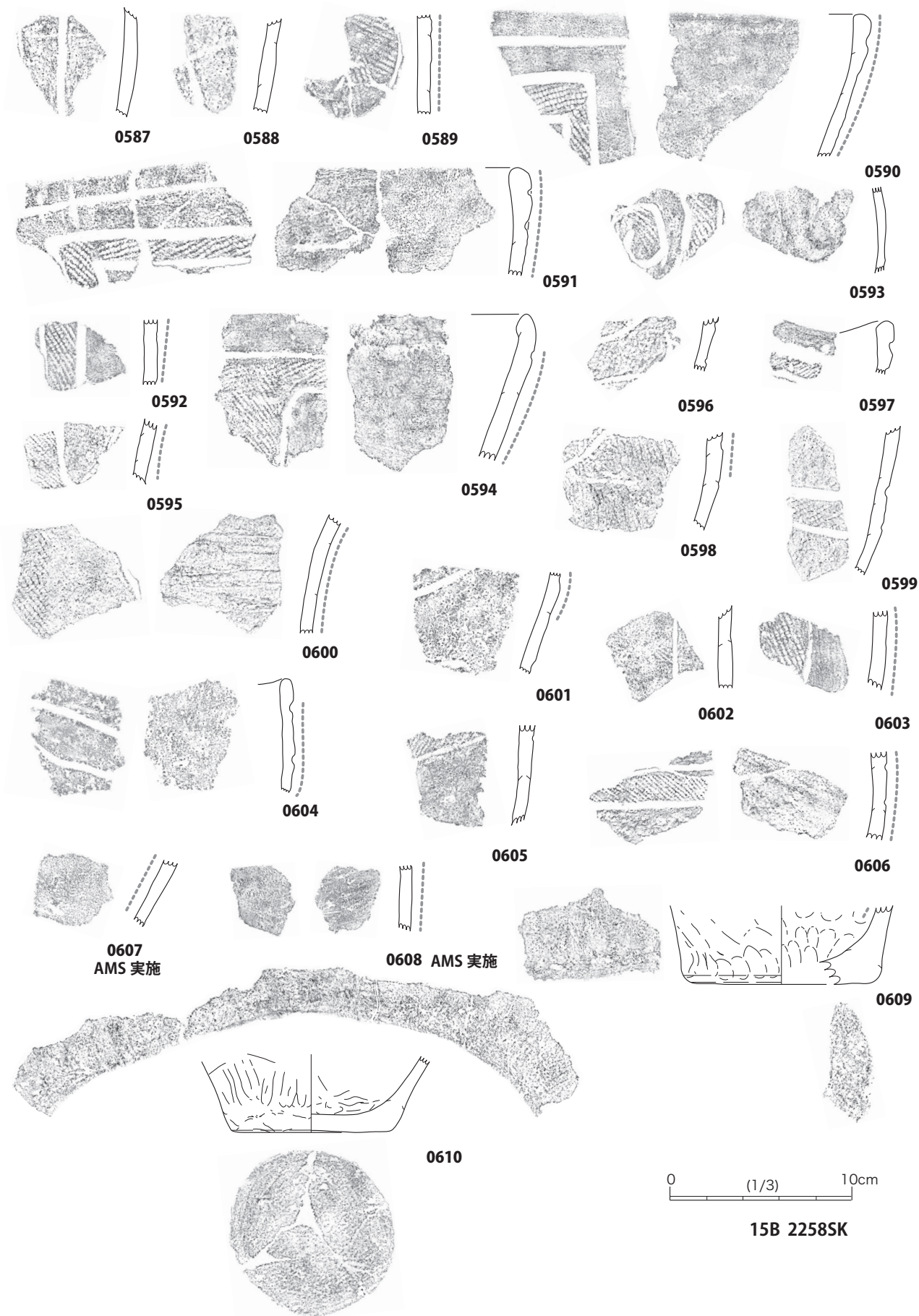
0582

15B 2258SK

第 132 图 2258SK 出土土器 (1)



第 133 图 2258SK 出土土器 (2)



第 134 図 2258SK 出土土器 (3)

好な資料群である。ごく若干の取組式を除いて(0004)など、神明式に属する土器が多数出土している。0001は口縁部に透かし状の貼付装飾が施されたもので、最大径は胴部下半で認められるものである。0005は沈線区画内の垂下沈線が結節縄文で表現されており、親田式に比定される。このように、当地の縄文時代中期後半の土器群は、東海地域の土器を基本としながら、南信州系の土器要素が垣間見られる状況といえる。

(2) 788SI・790SI 出土土器 (0097～0335)

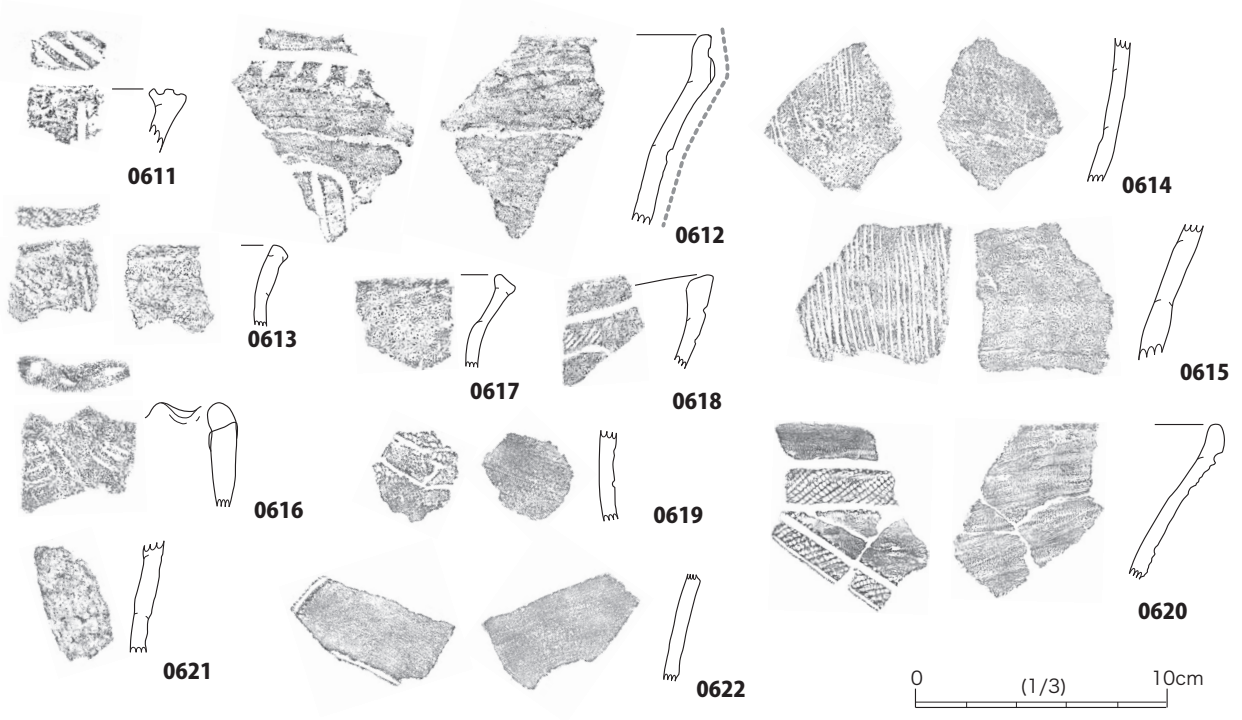
中型巻貝調整の多出。

(3) 2319SL 出土土器 (0408～0422)

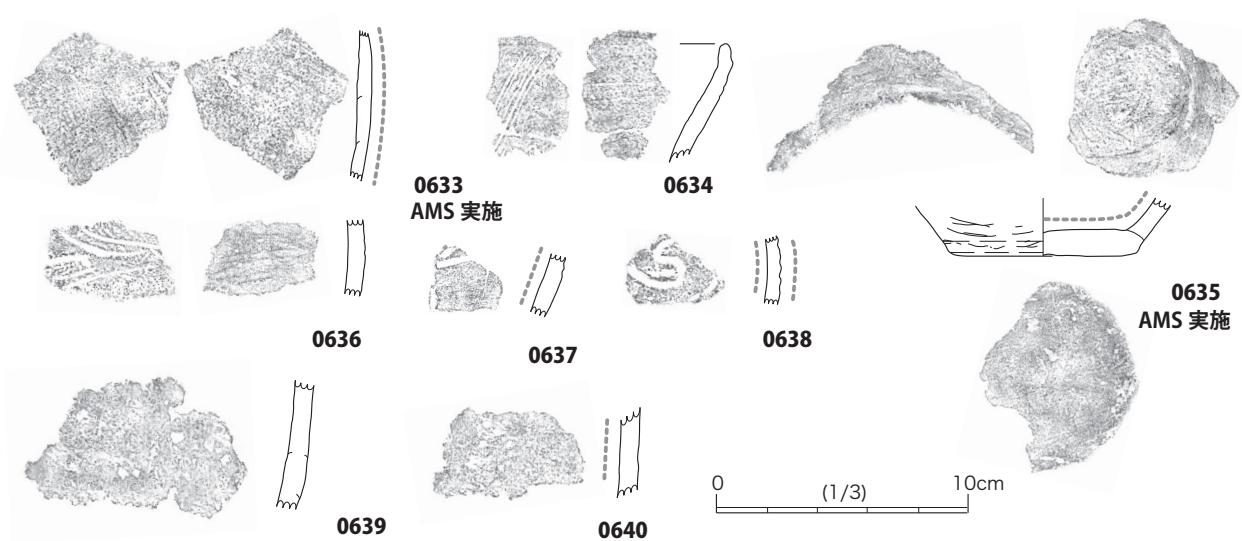
中津・称名寺式の段階の一括資料である。0408は、口縁部のみではあるが、全周する資料であり、本資料群を代表する土器である。4単位の波状口縁で、波頂部は杯状あるいは筒状となっており、それぞれが対向している。口縁の上面観は隅丸方形状を呈しており、杯状の上面には竹管状工具による刺突列があり、

(4) 0785SK 出土土器 (0512～0549)

本遺構出土土器のなかで最も良好な資料は0512の福田K2式である。口縁端部には同心円文様の波頂

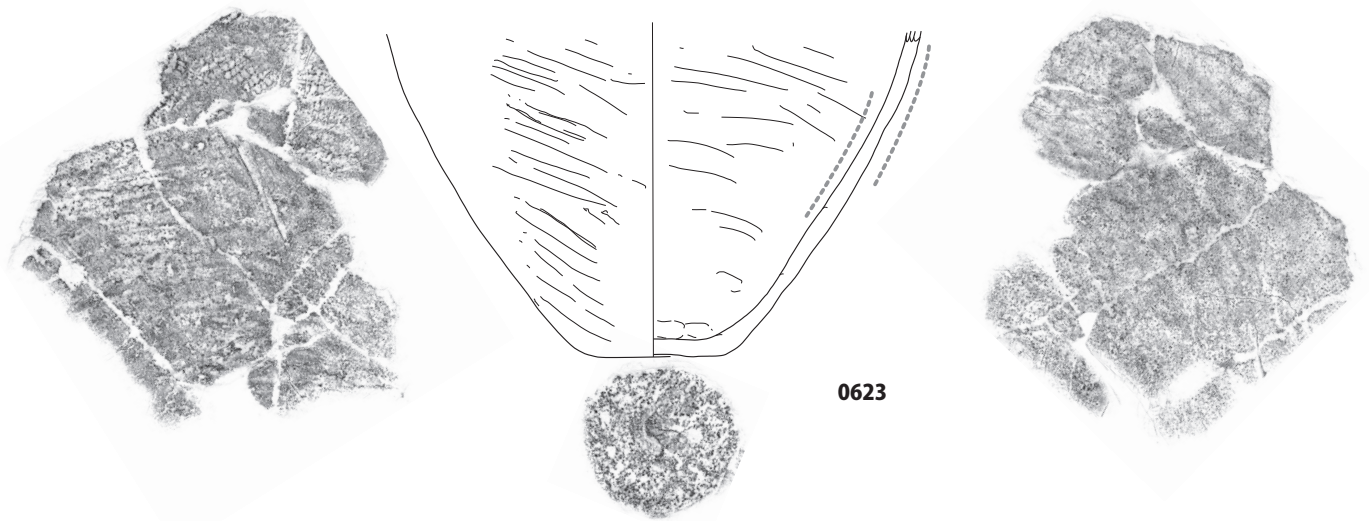


15Cb 3639SK

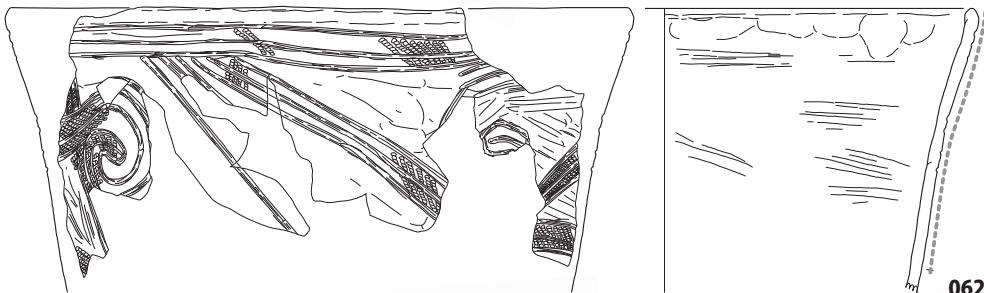


15Cb 4266SK・4267SK・4269SK

第135図 3639SK 他出土土器



0623

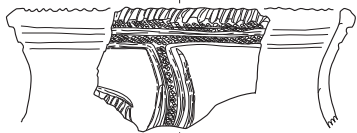


0624
AMS 実施



0 1(1/6) 20cm

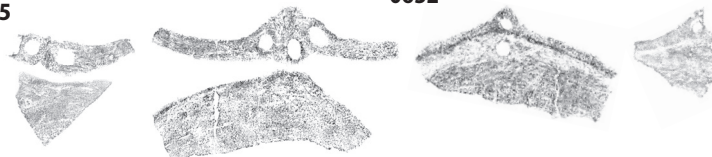
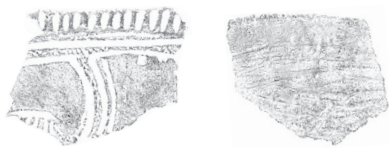
0624 拓本



0625



0632



0 1(1/4) 20cm

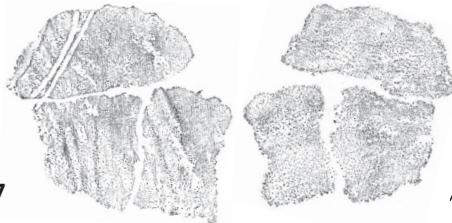
0624・0625・0632



0626



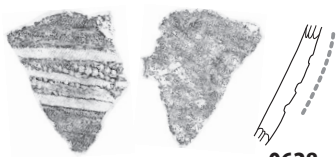
0627



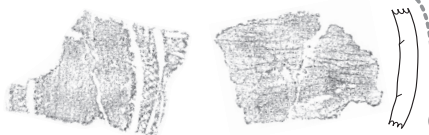
0629



0631



0628



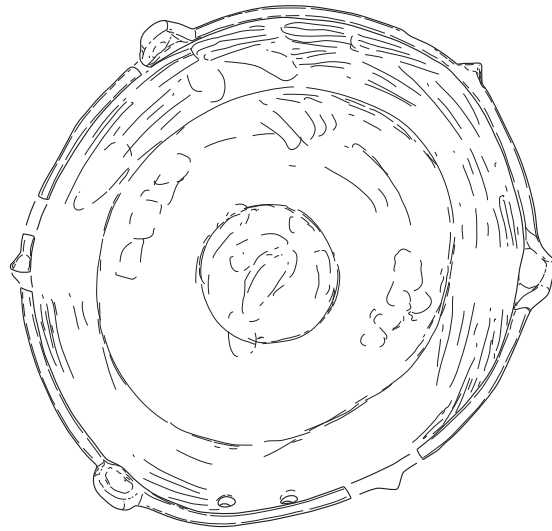
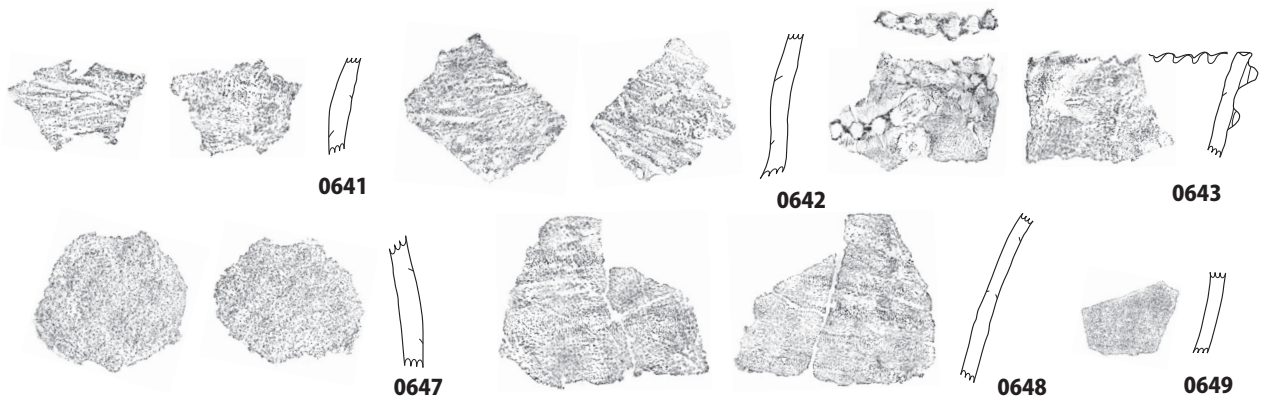
0630

0626~0631

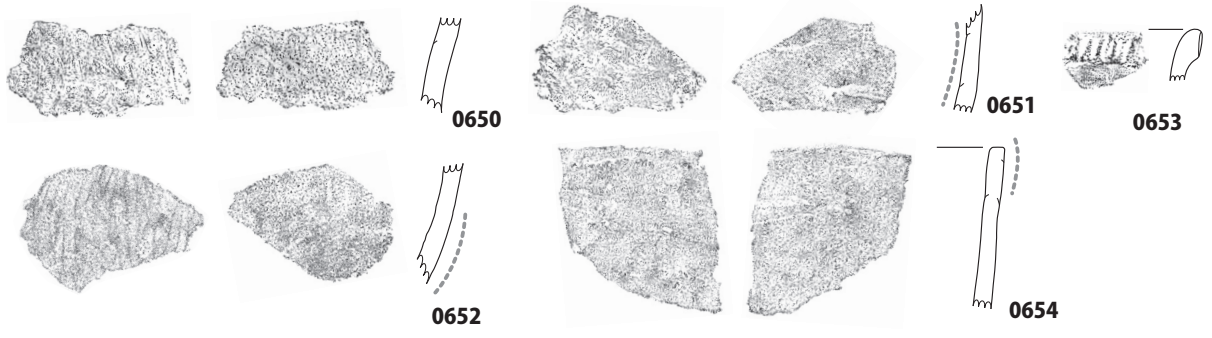
0 1(1/3) 10cm

15Cb 4263SK

第 136 图 4263SK 出土土器

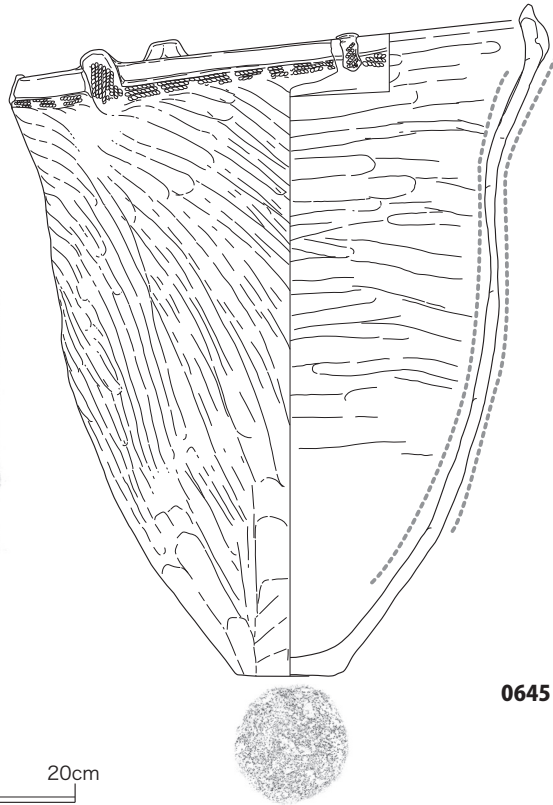
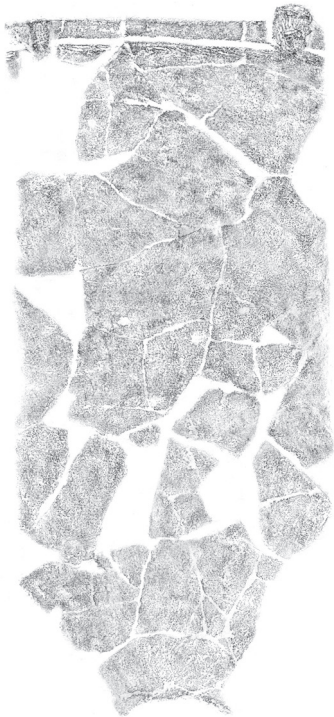
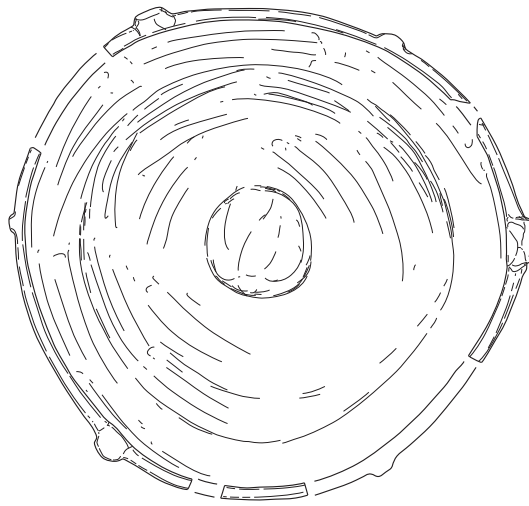


第 137 图 3307SK 出土土器 (1)



0 (1/3) 10cm

0650~0654



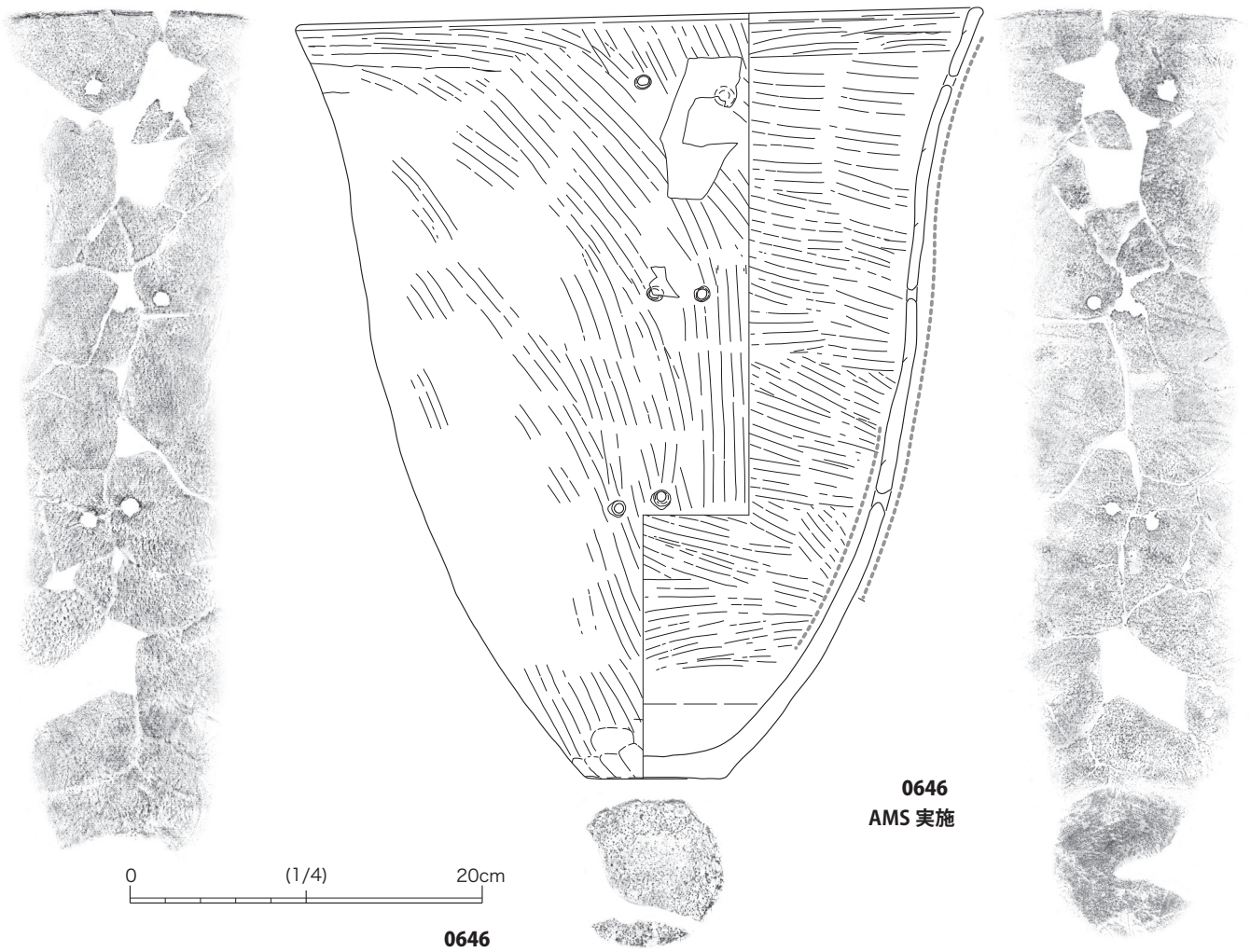
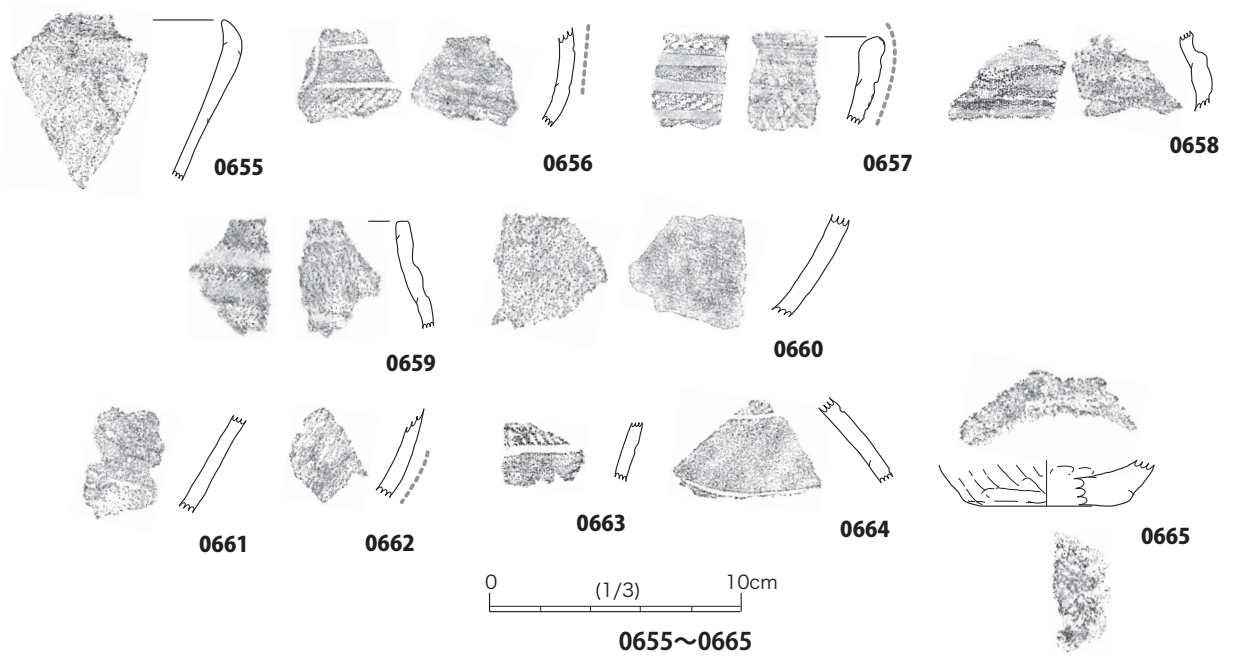
0 (1/4) 20cm

0645

0645

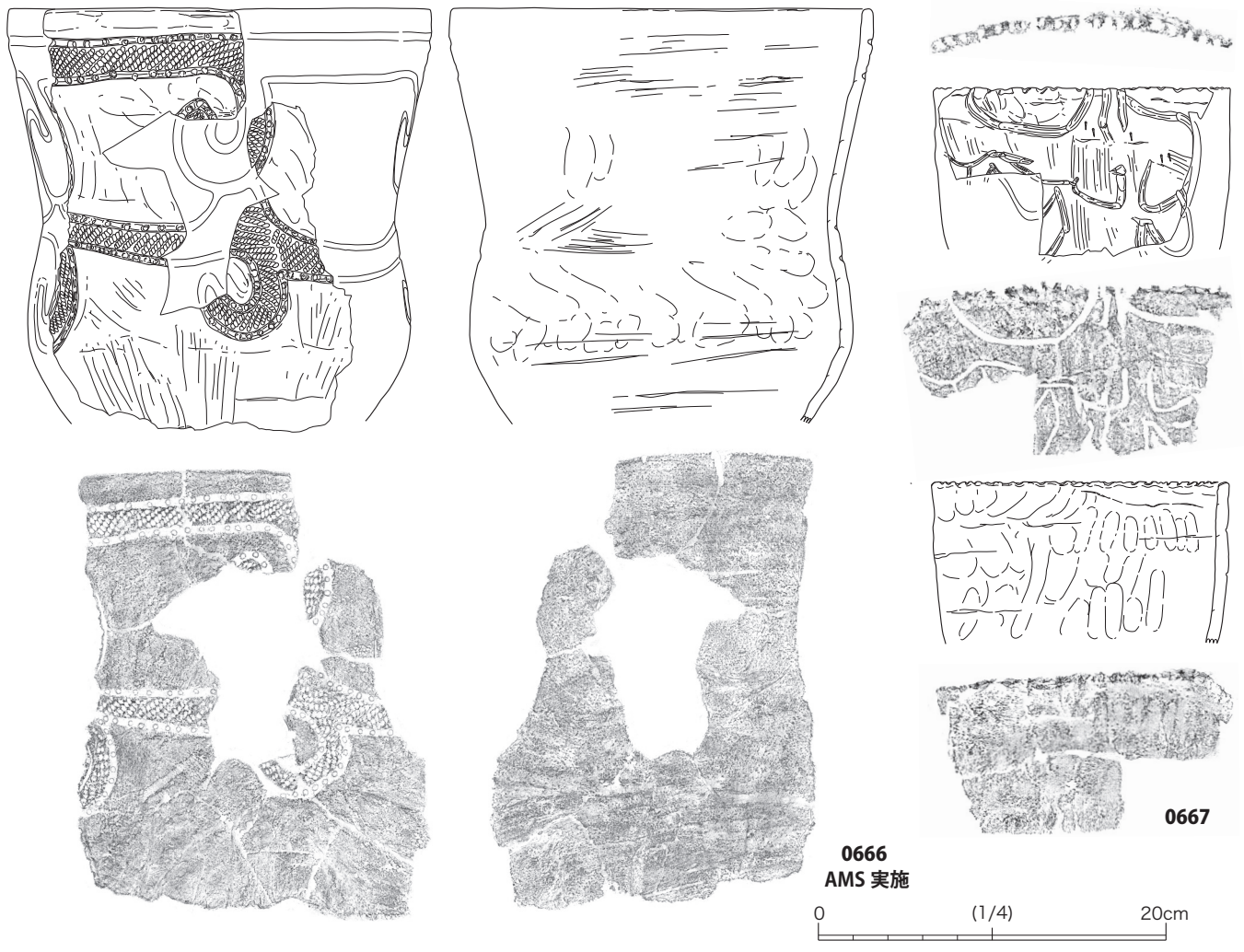
15Cb 3307SK

第 138 圖 3307SK 出土土器 (2)

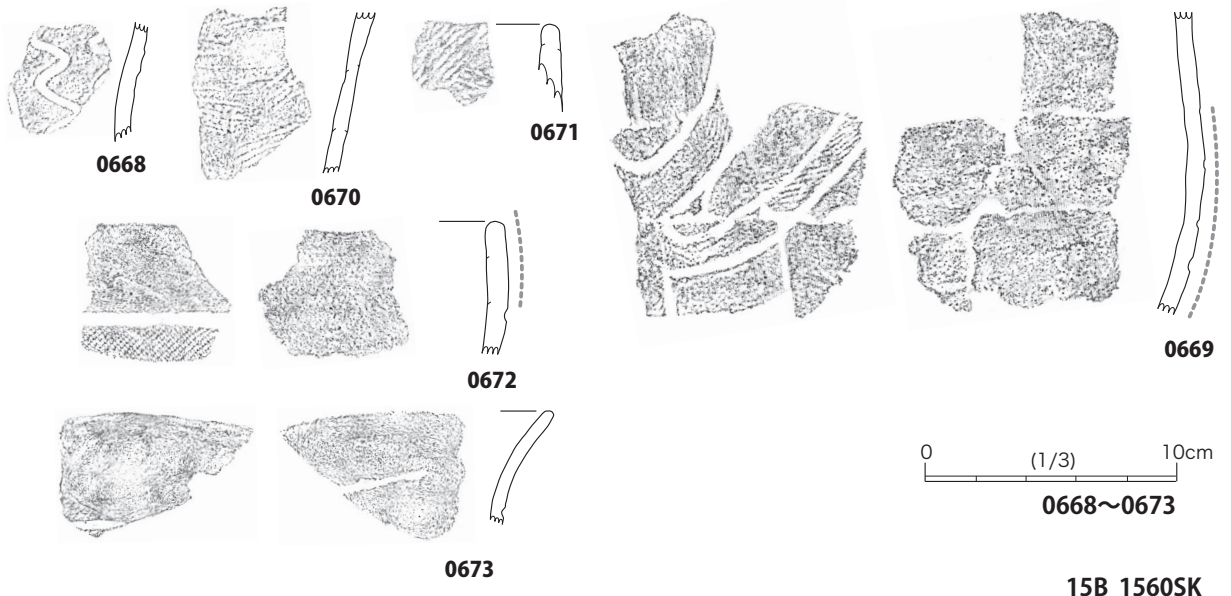


15Cb 3307SK

第 139 图 3307SK 出土土器 (3)



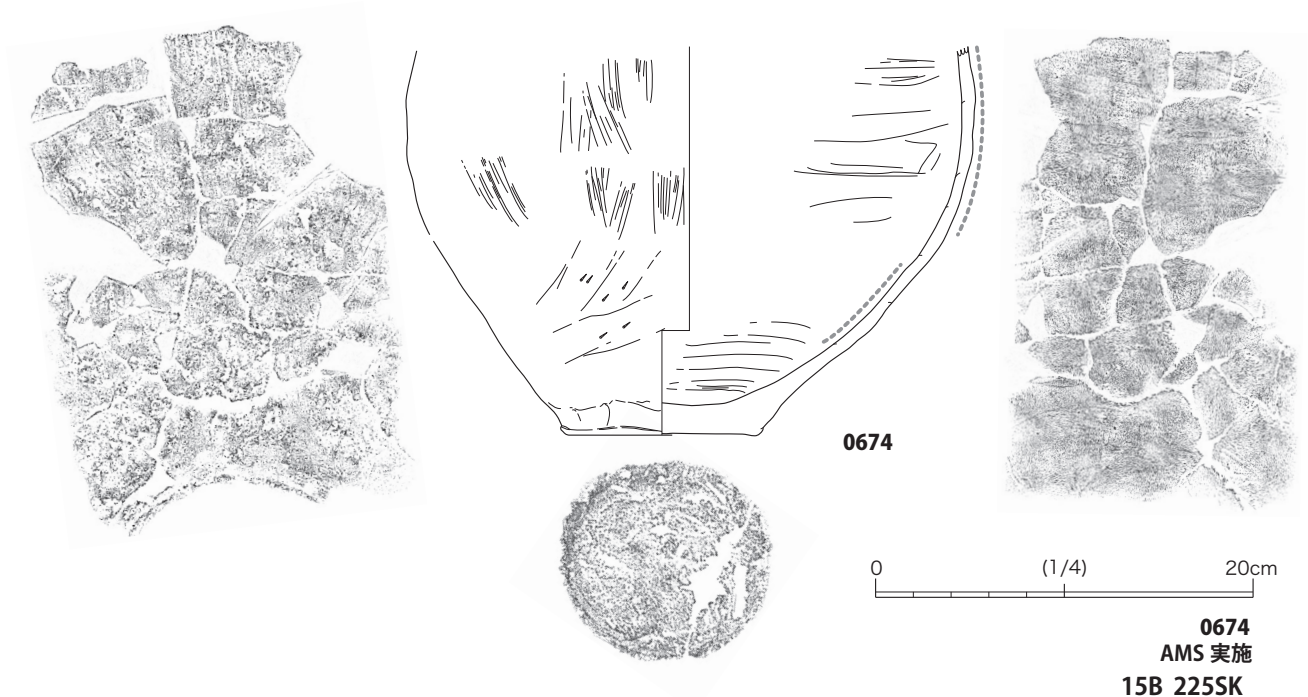
0666・0667



0668~0673

15B 1560SK

第140圖 1560SK 出土土器



第 141 図 225SK 出土土器

部が認められ、三本沈線と LR 充填を単位とする帯縄文が口縁端部、頸部、胴部に渡って展開しているが、胴部のくびれを境として、その上下それぞれで文様帯の展開が認められる。波頂部のある口縁端部から胴部まで帯縄文が貫いており、先端は鉤の手状になって、いわゆる海馬文の帯化したものが認められる（千葉・曾根 2008）。横の文様と連なっている。器面表面・内面には筋状の特徴的な調整痕が認められる。報告者が中型巻貝調整と称している一群と考えられる。

(5) 0813SK 出土土器 (0551 ~ 0561)

大型土坑内から一括出土した資料群で、鉢 0552 は全形が窺えられる好資料である。口縁端部を無文としてやや下位から沈線区角内に縄文 RL が充填された文様帯が展開するものである。文様は底部まで達しているものの、J 字状の構図はややくずれている様相を呈する。中津・称名寺式の新相であろう。

(6) 2258SK 出土土器 (0582 ~ 0610)

袋状土坑内に廃棄された土坑で、中津・称名寺式の良好な一括資料と思われる。その中でも、0582 が代表的な土器である。0582 は底部は欠失しているものの全周する土器で、波長部に縦方向に二条の短沈線が施された四単位波状で、上面観は隅丸方形状を呈する。表面には沈線区画内に縄文 RL が充填された文様帯が胴部中央の括れ部を境として上下に展開する。上は逆 T 字文と J 字文が交互に展開し、下では垂直方向にリフレクトされた鏡文字状態の J 字文を大きな文様帯が囲んでいる。J 字文は波頂部の位置で上下連なっている。本例は、区画のくずれも少なく

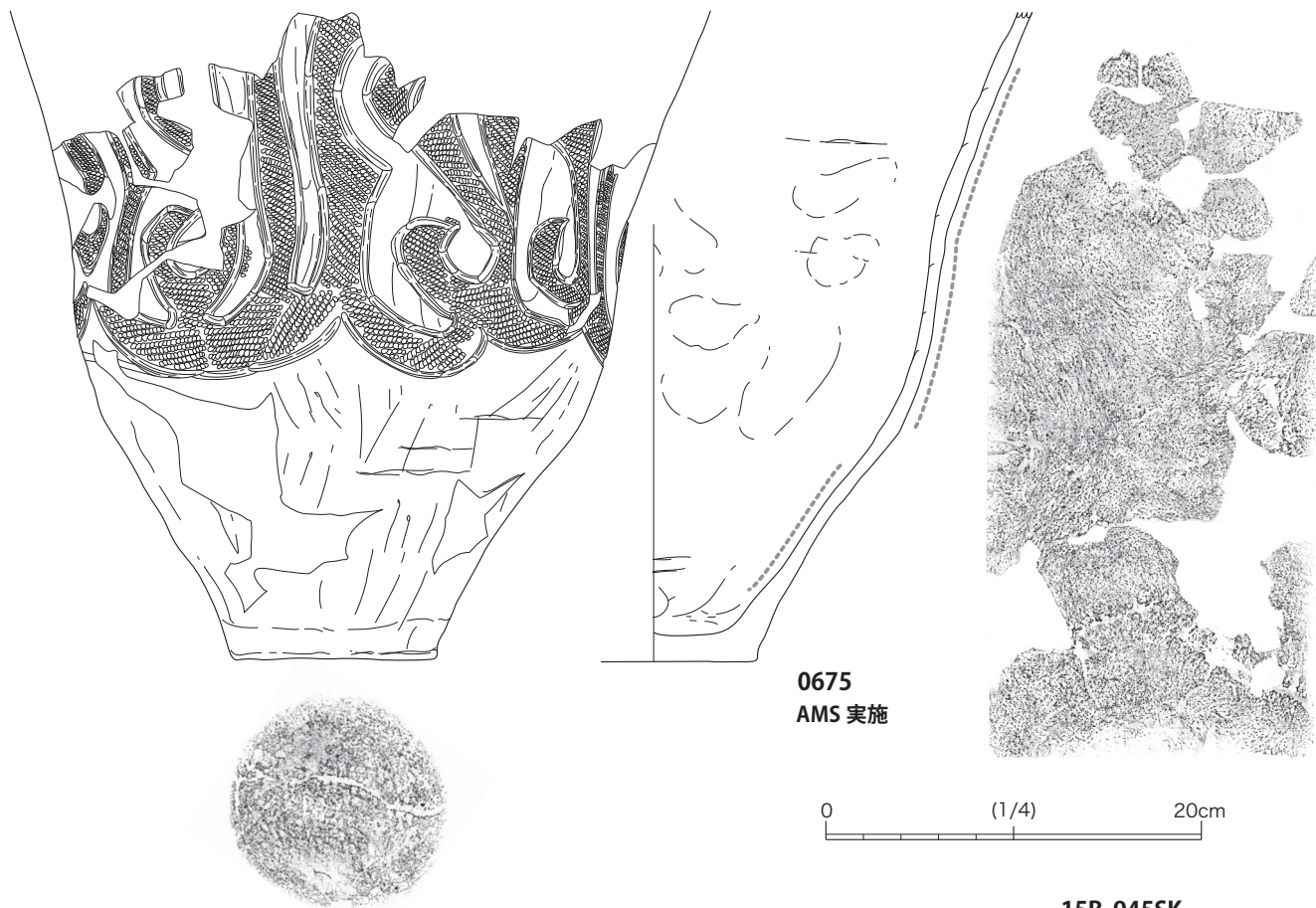
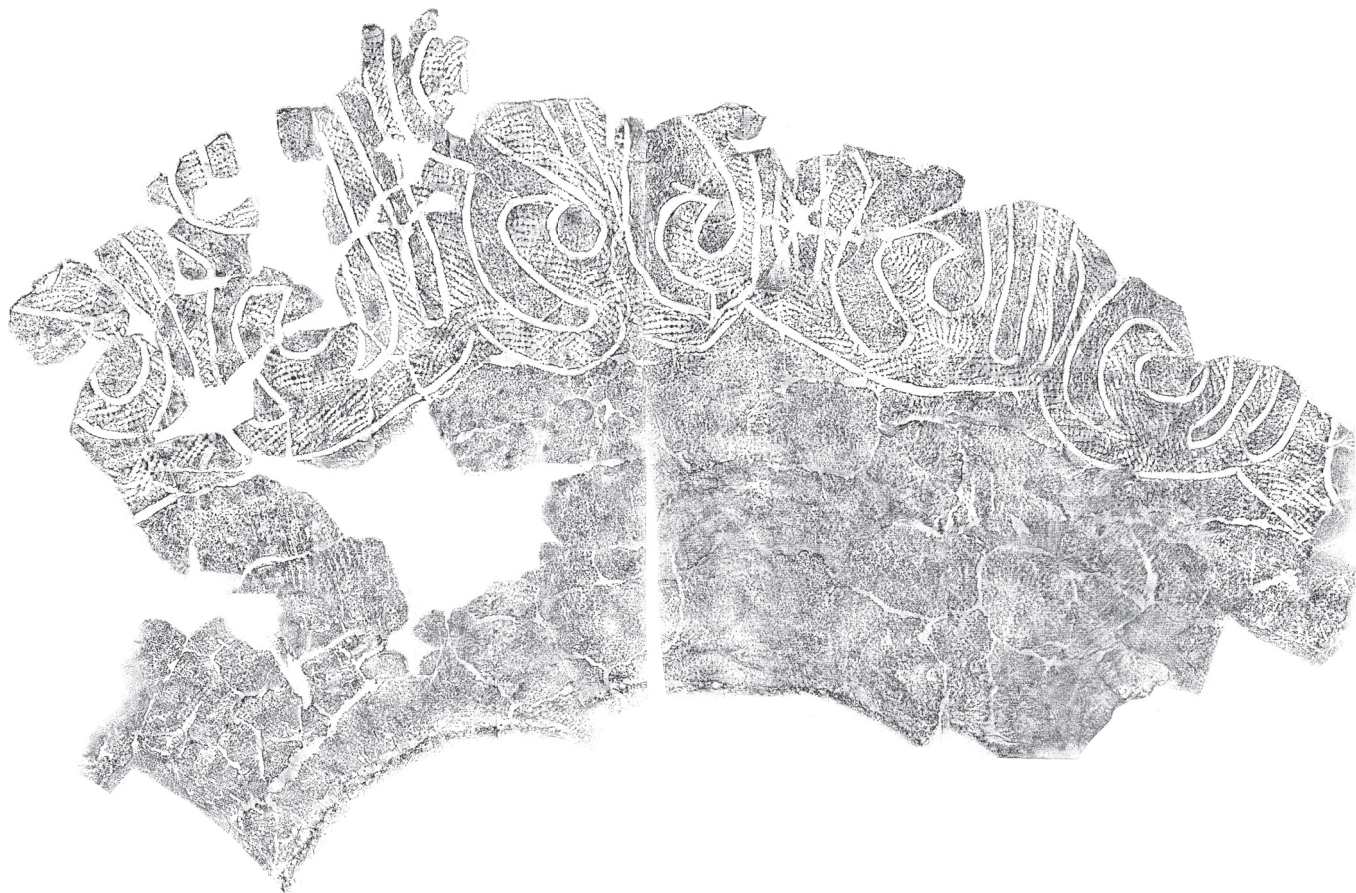
やや時期が遡るものの可能性もあるものの、同時に 0584・0585 のような土器も存在していることから、必ずしも古手になるものではないようである。

(7) 0945SK 出土土器 (0675)

胴部下半から底部が残存しており、胴部中央のくびれよりも上位に文様の展開が認められる。文様は沈線区画内に縄文 LR が充填されたもので、くずれた J 字文が下端で連結しながら横方向に展開していく文様構成となっている。底部には編組製品圧痕が認められる。拓本中央付近は 1 本越え・1 本潜り・1 本送りの四つ目であるが、上方に向かうに従って、2 本越え・2 本潜り・2 本送りのゴザ目となっている。中津・称名寺式の新相になると考えられる。

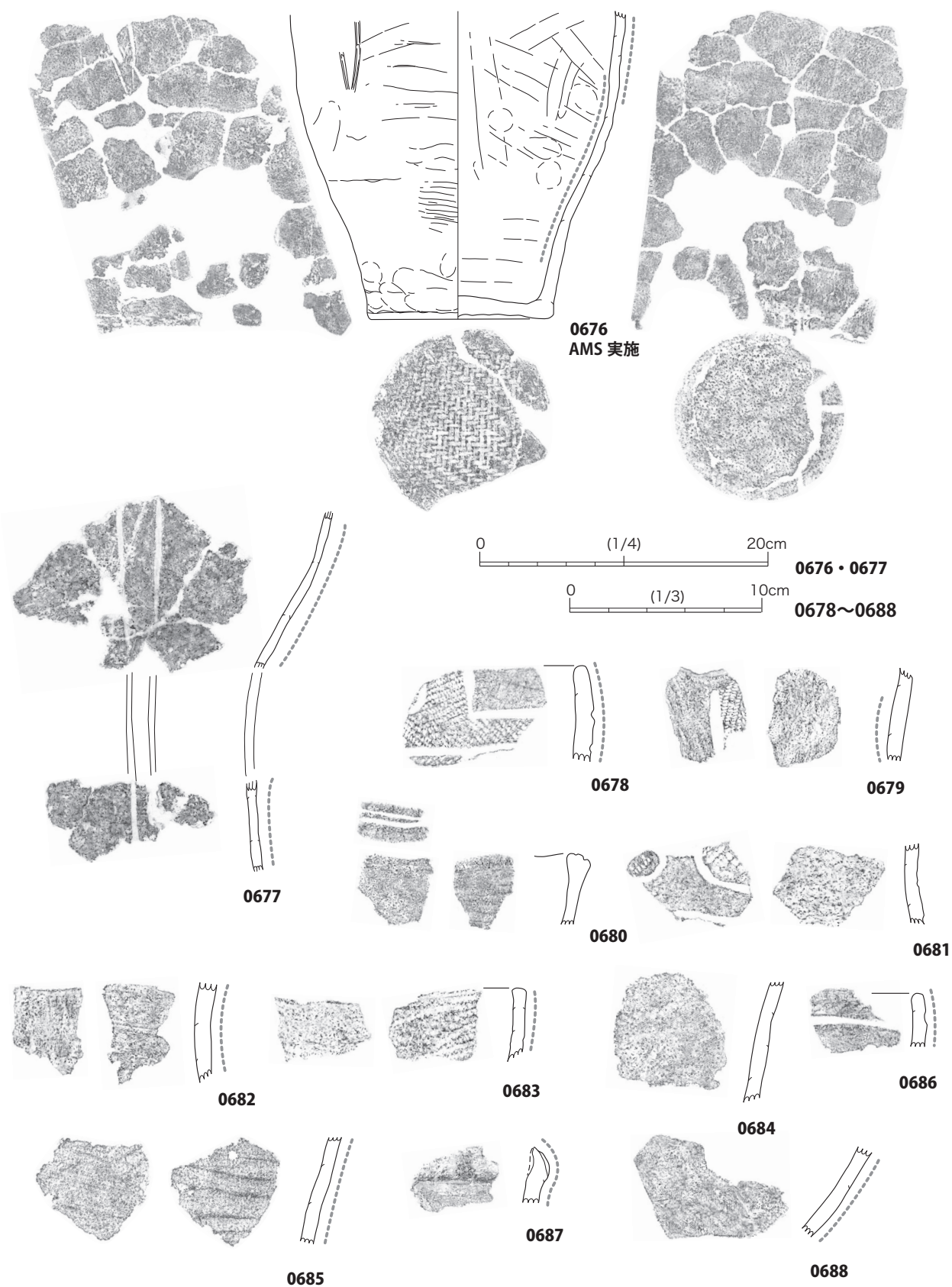
(8) 3307SK 出土土器 (0650 ~ 0665)

本遺構も貯蔵穴などの大型土坑に一括遺棄された資料群と考えられる。特に、0644・0645・0666 はこれらを代表する土器で、いずれも全形を窺うことのできる好資料である。0664 は屈折する口縁部に三単位の突起が、さらにその各間に小突起が貼り付けられている。屈折部には縄文 LR が施されているが、器面調整は、表・内面ともに報告者の言うところの中型巻貝調整で、外面は斜方向に、内面は横方向に認められる。口縁部の屈曲部分直下には補修孔が認められる。0645 も同様な器形・器面調整・装飾が認められるが、縄文は RL が縦方向に短いピッチで施されている。0646 は外反する無文の深鉢で、器面には中型巻貝調整が全面に認められる。補修孔が同一列に 3 ケ所施されていることが、特徴的である。以上は、



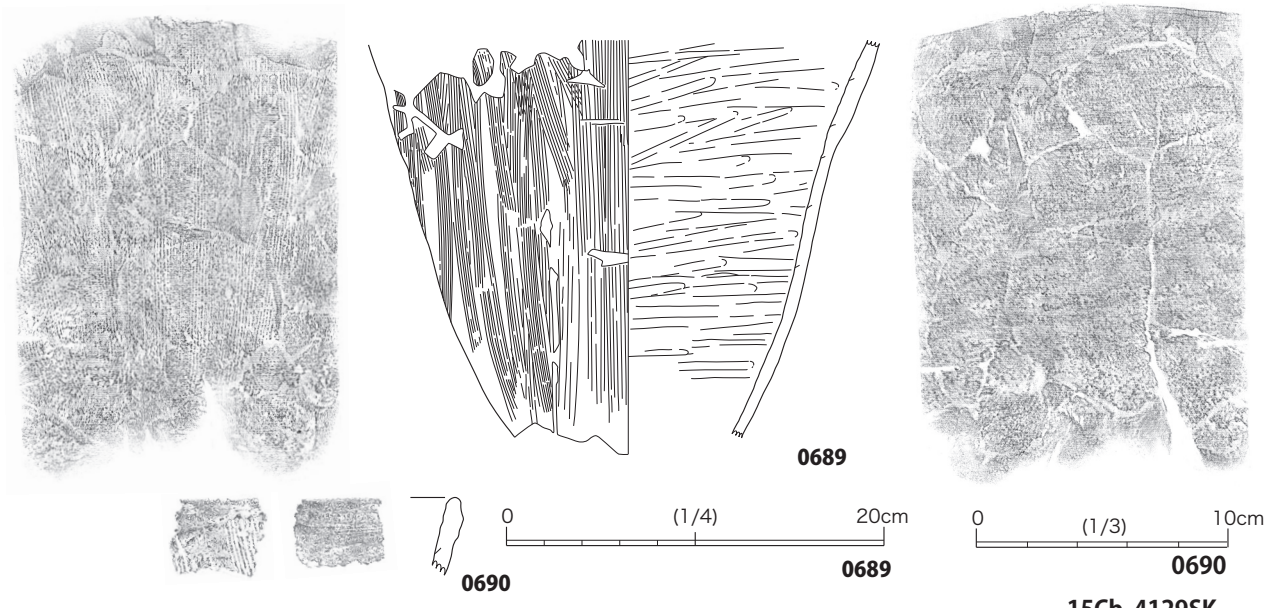
15B 945SK

第 142 図 945SK 出土土器 (1)



15B 945SK

第 143 图 945SK 出土土器 (2)

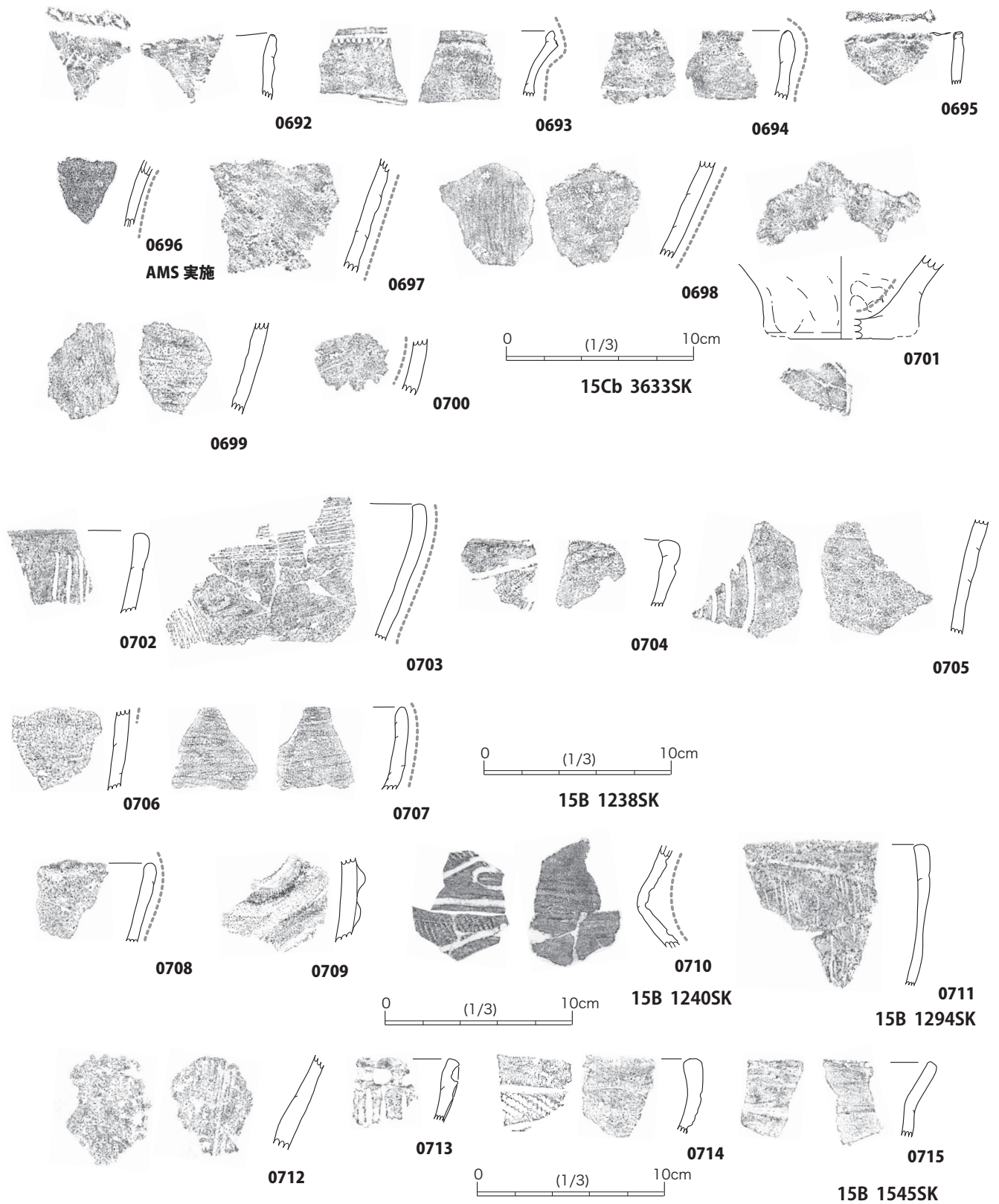


15Cb 4129SK

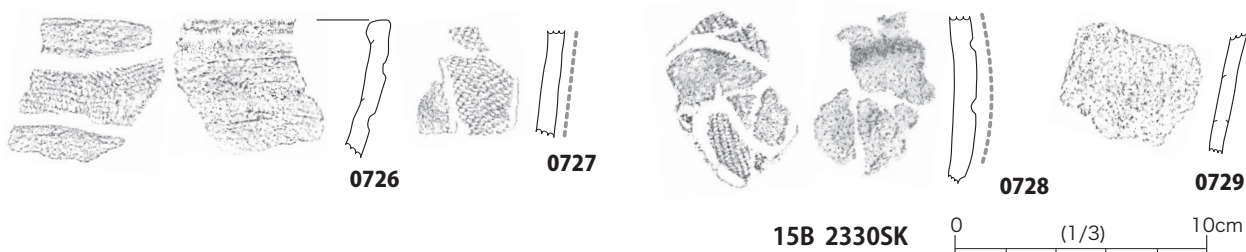
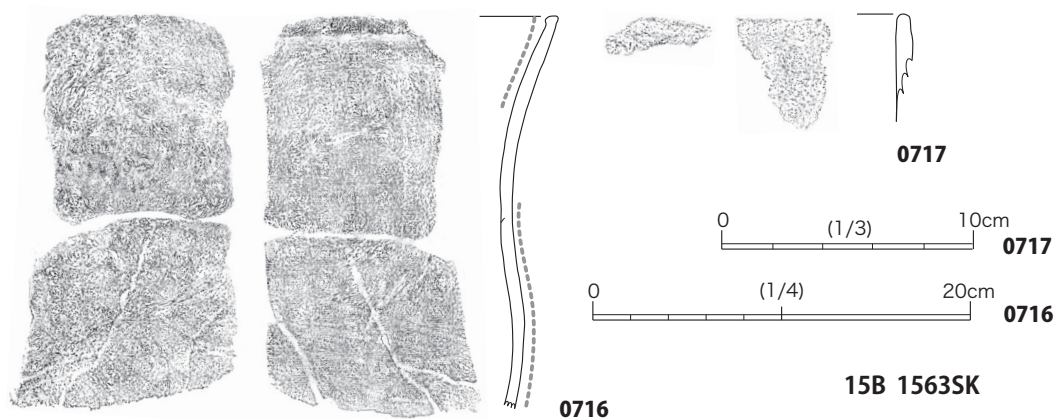


15Cb 4242SK

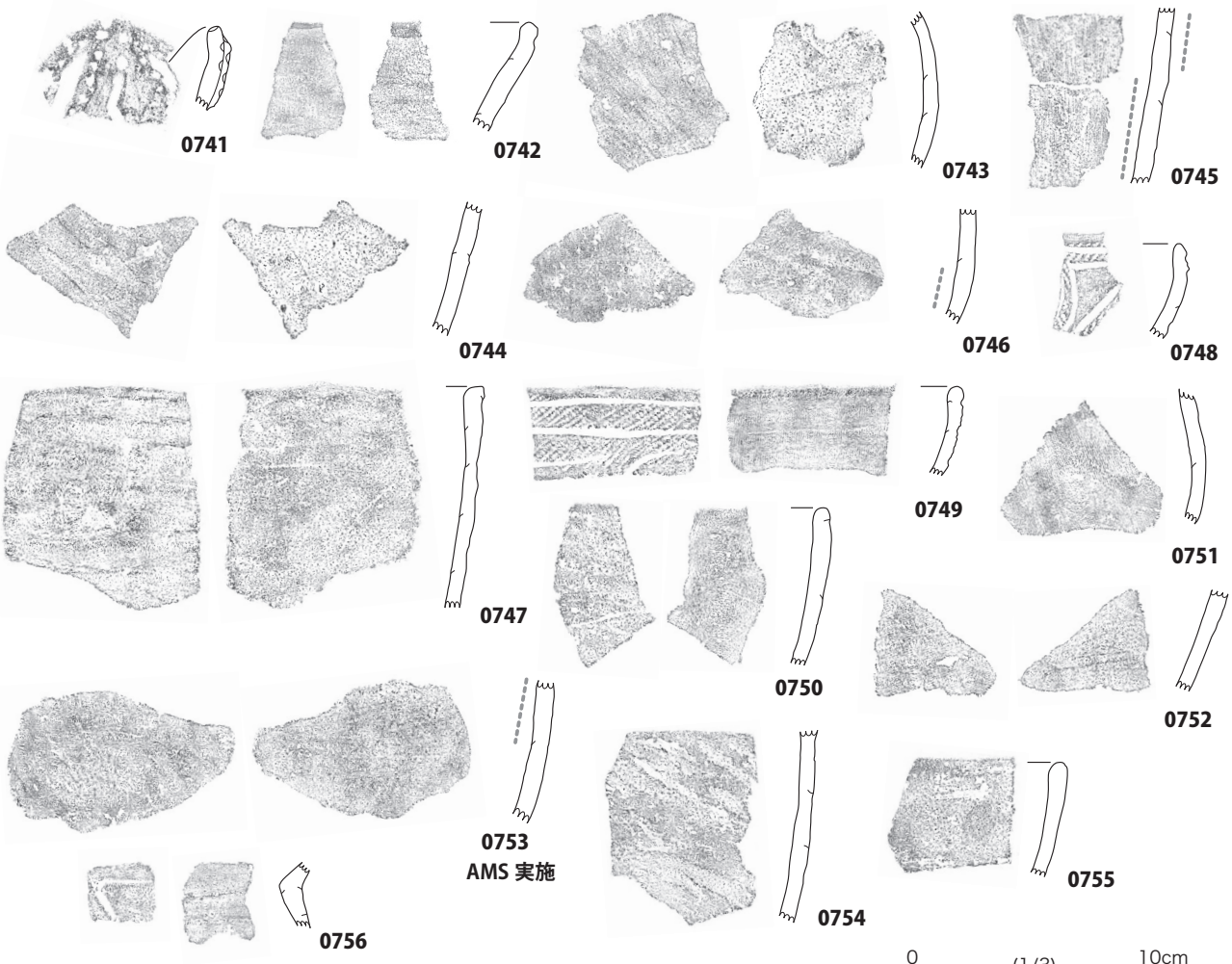
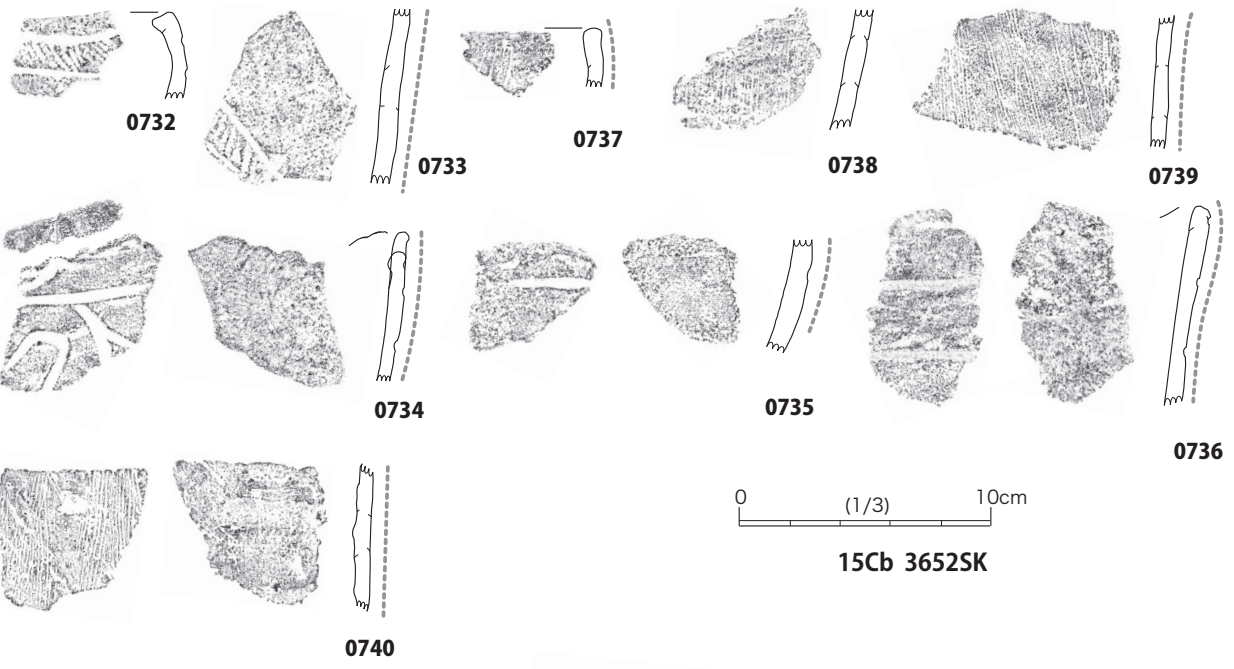
第 144 图 4129SK · 4242SK 出土土器



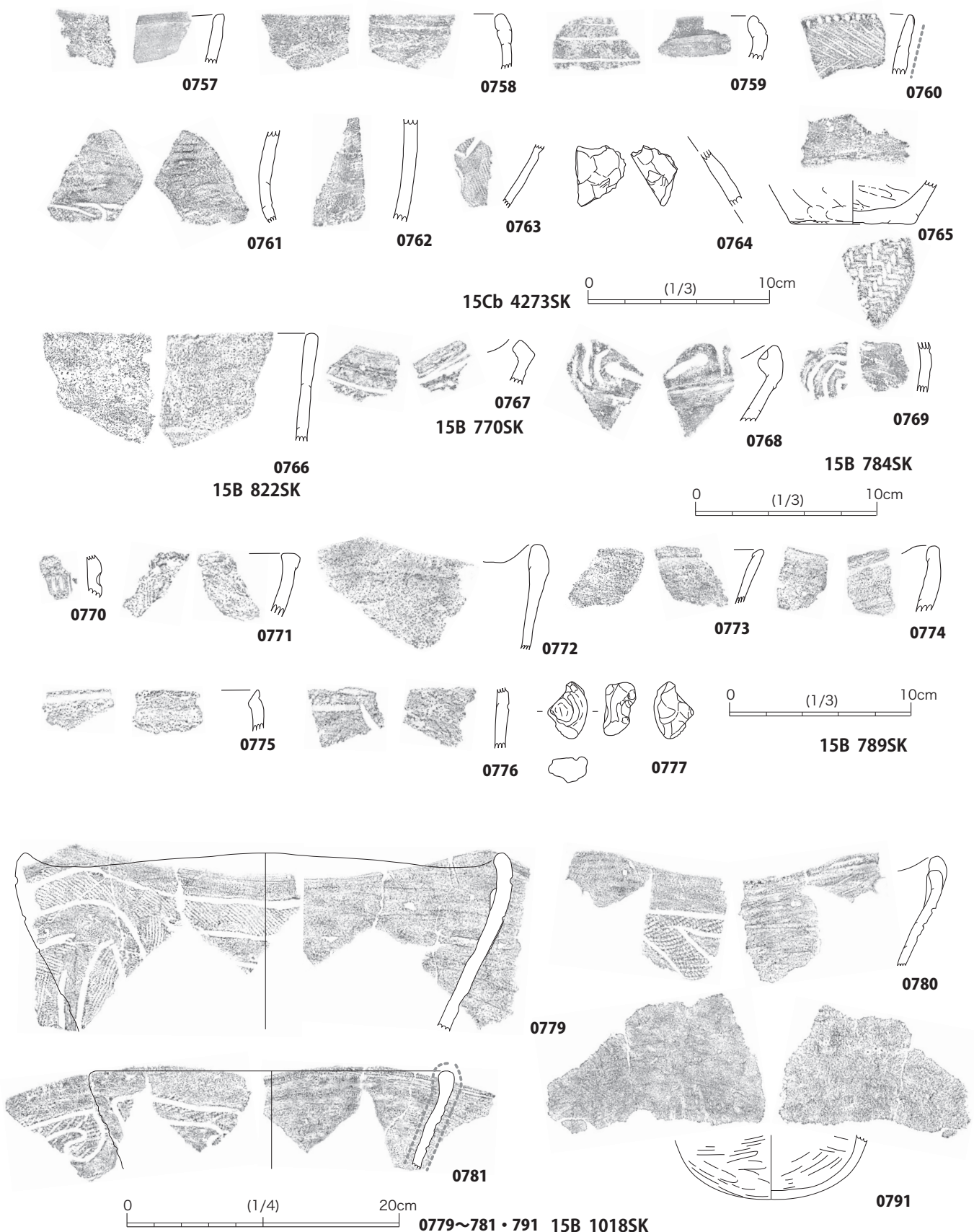
第 145 图 3633SK 他出土土器



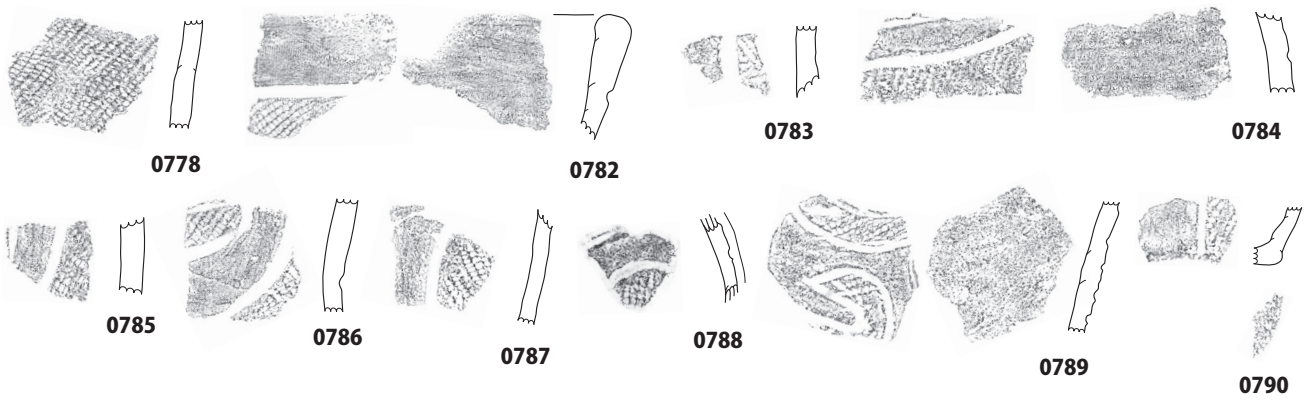
第 146 图 1563SK 他出土土器



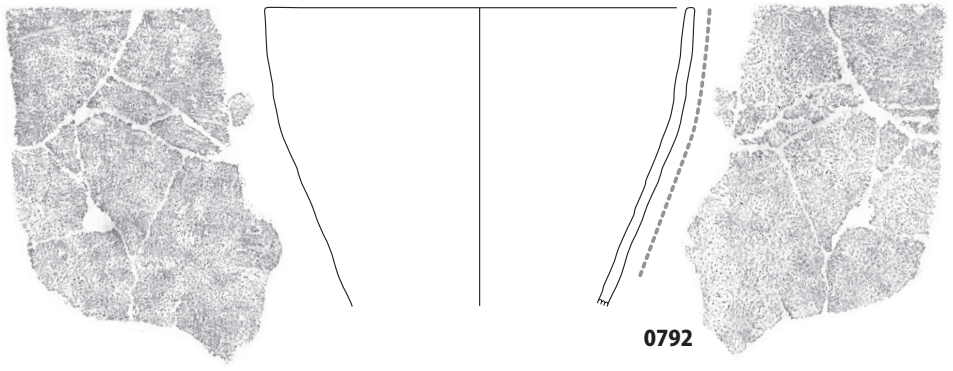
第 147 图 3652SK · 4272SK 出土土器



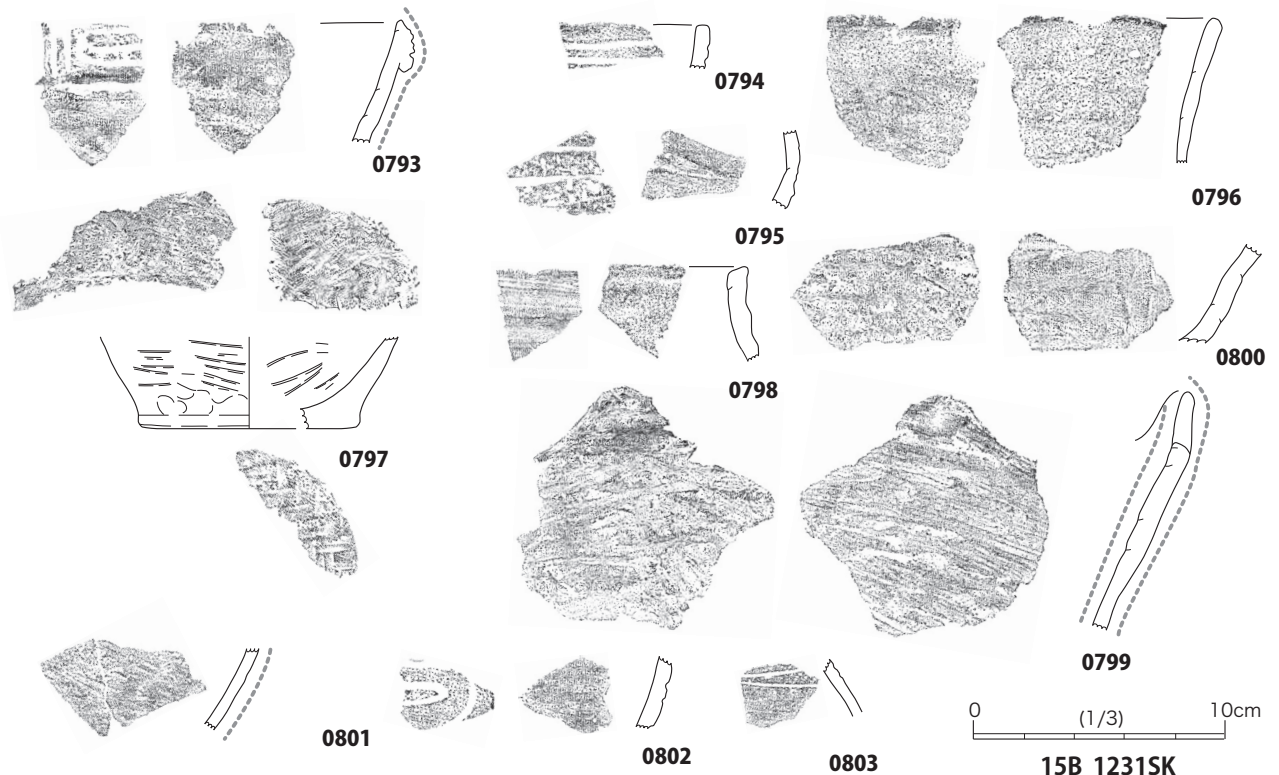
第 148 図 1018SK 他出土土器



0 (1/3) 10cm 15B 1018SK



0 (1/4) 20cm 15A 1050SK



0 (1/3) 10cm 15B 1231SK

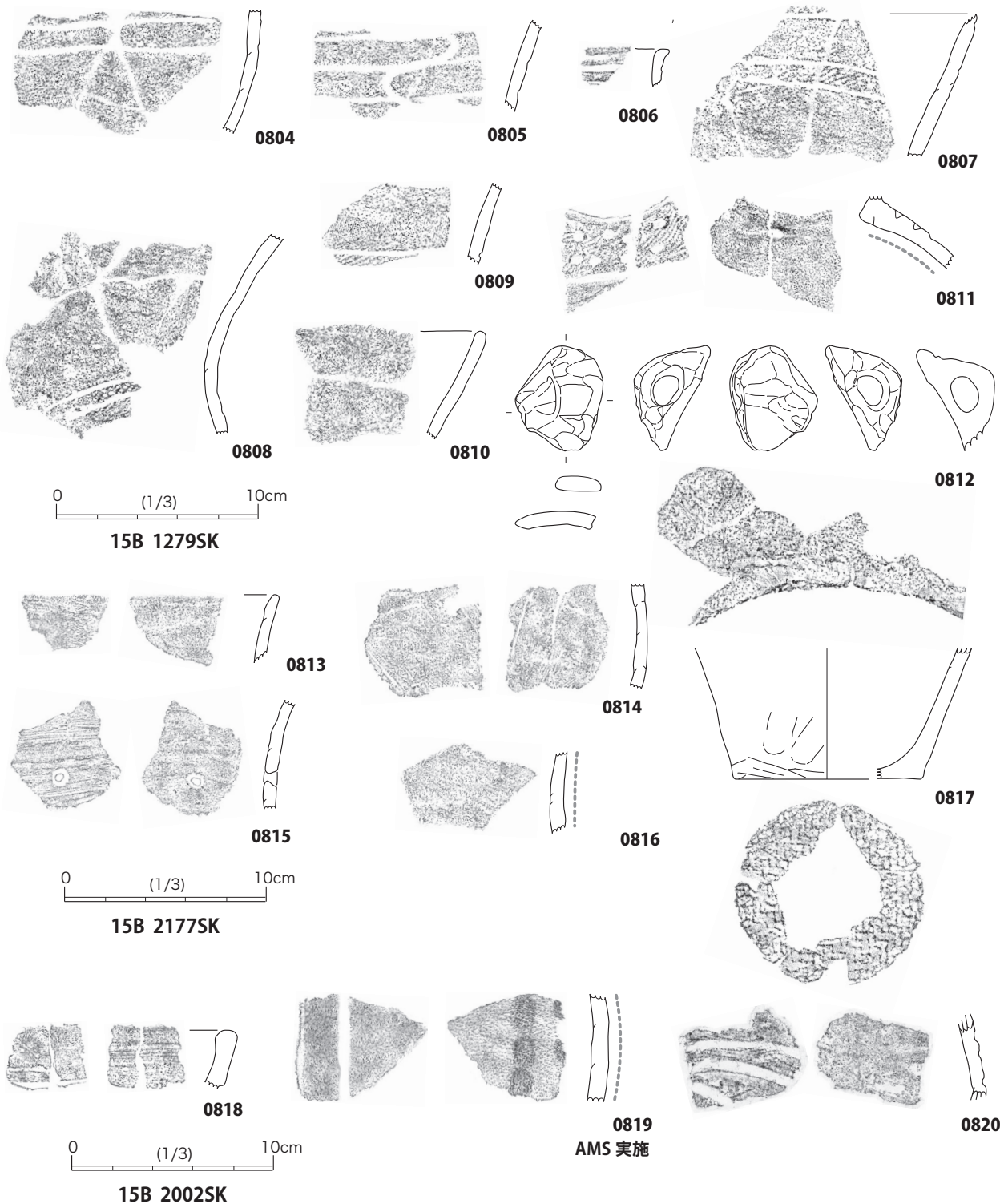
第 149 图 1231SK 他出土土器

蜷塚 K II 式に属するもので、全形が確認できる資料が少ないことから、今後は本時期を代表する土器群になるものと考えられる。

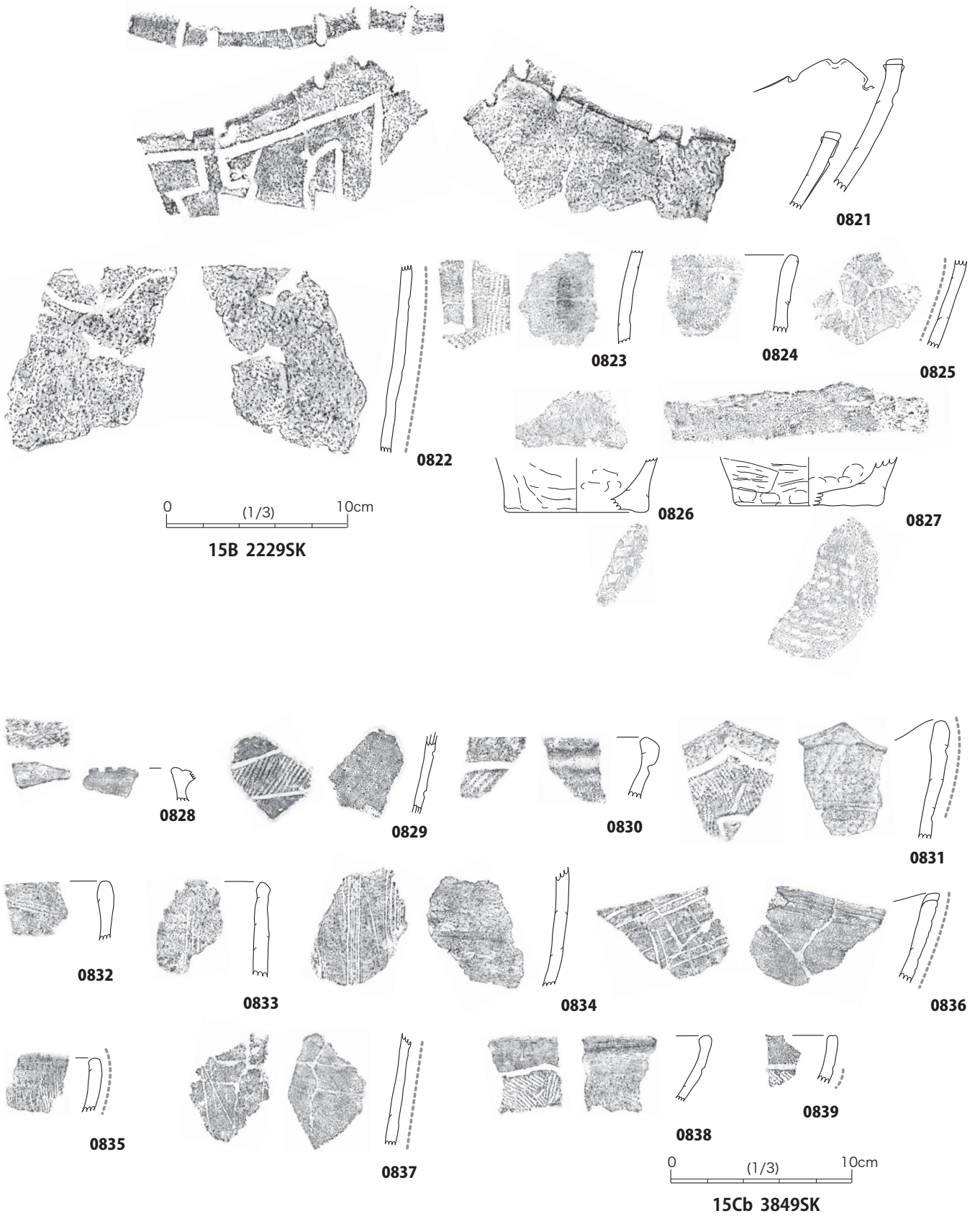
(9) 1560SK 出土土器 (0666 ~ 0673)

本例も中津・称名寺式の良好な一括資料と思われる。その中で、0666 と 0667 が代表的な土器といえる。0666 は平縁の深鉢で、口縁部直下の無文帯を置

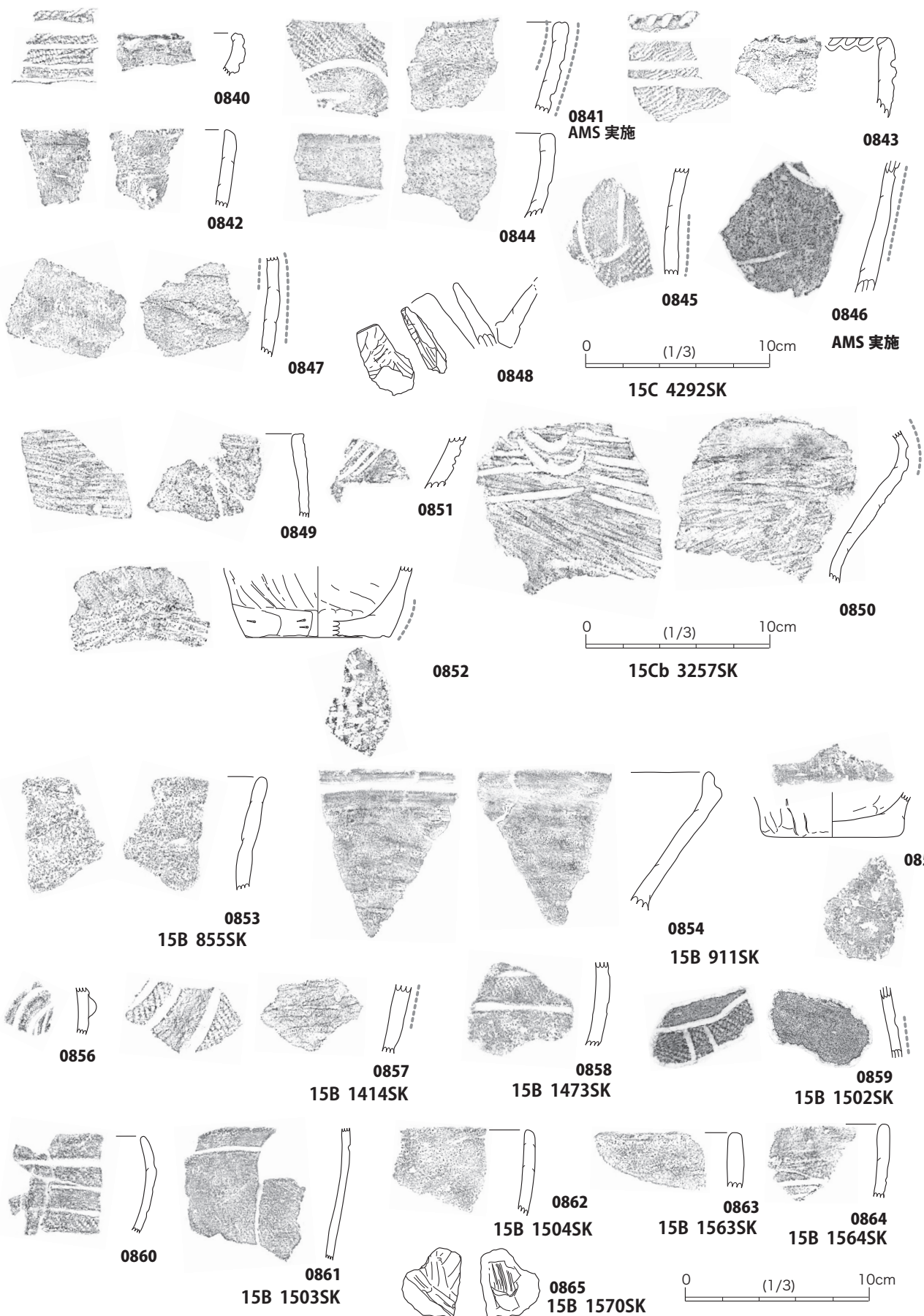
いて、沈線区画内に縄文 LR を充填する文様帯を配している。文様帯は、横帯と J 字文で、J 字文は上下に連なる形をとる。沈線は同工具による竹管状刺突列を包含するものである。0667 は口縁部のみが確認されるもので、口縁端部上面はヘラ状工具による刺突列が巡り、表面には上方弧線や J 字文を意識した弧線が認められる。これらも、中津・称名寺式の新相



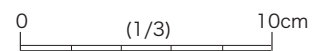
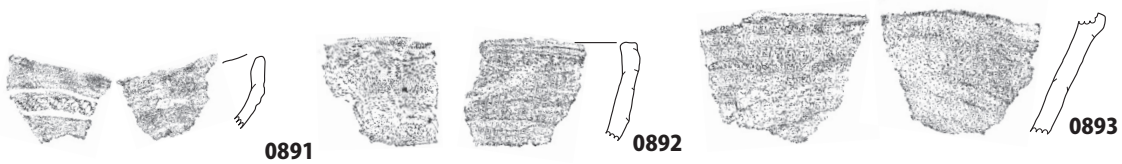
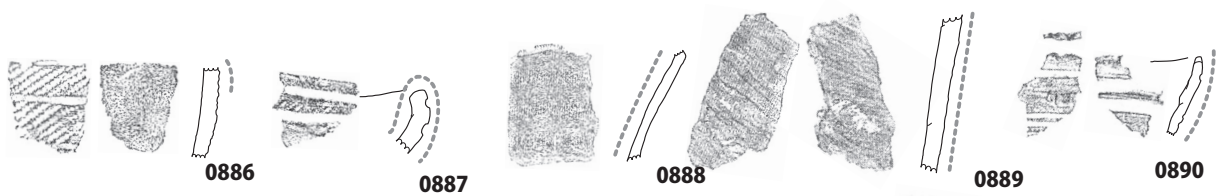
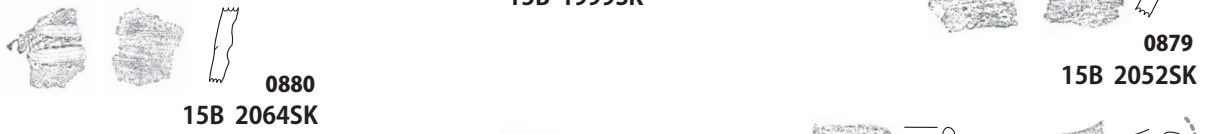
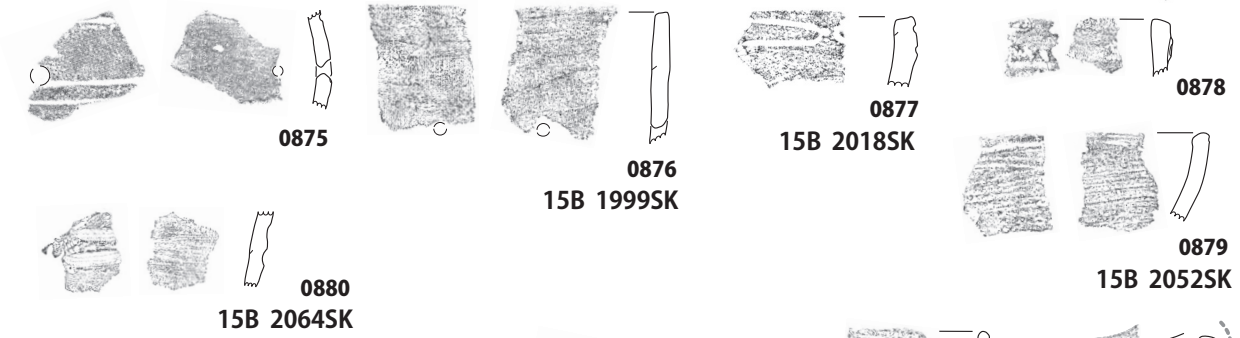
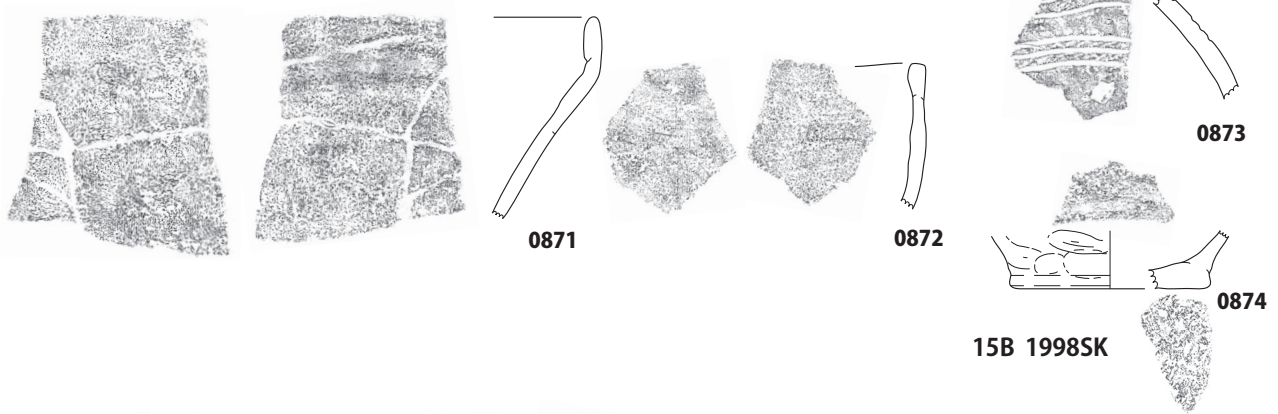
第 150 図 1279SK 他出土土器



第 151 図 2229SK・3849SK 他出土土器



第 152 図 4292SK 他出土土器



第 153 图 3424SK 他出土土器

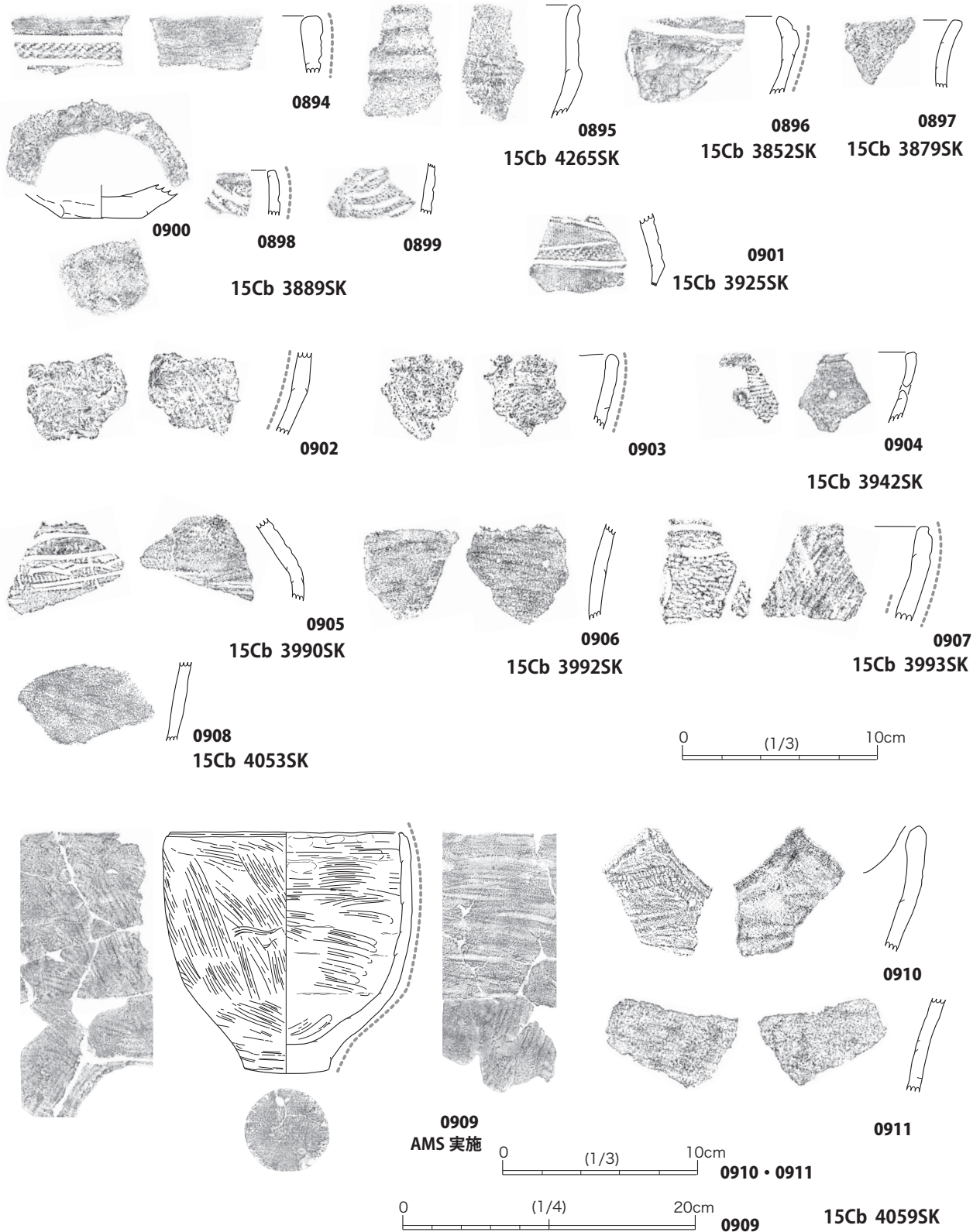
に位置すると思われる。

(10) 4242K 出土土器 (0691)

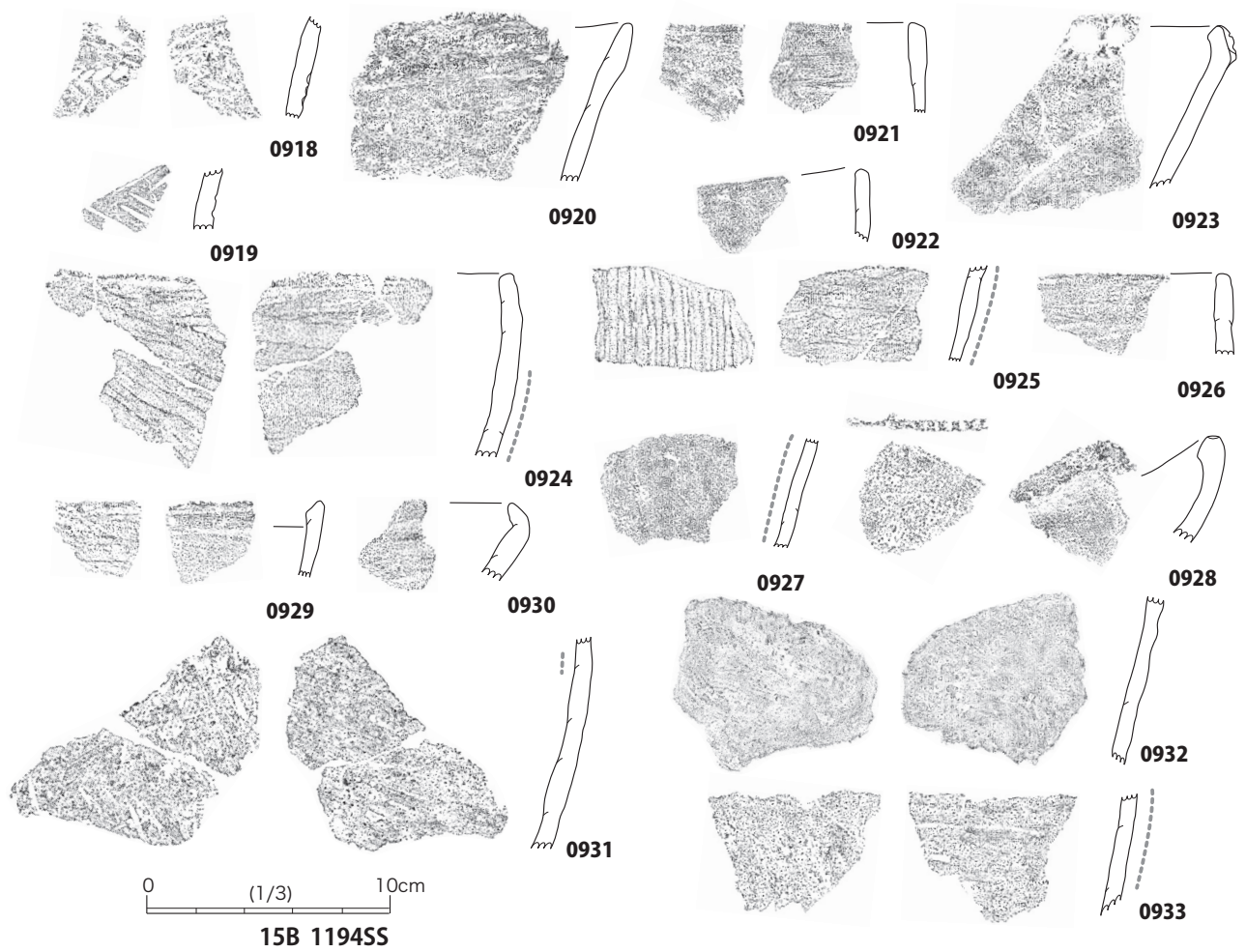
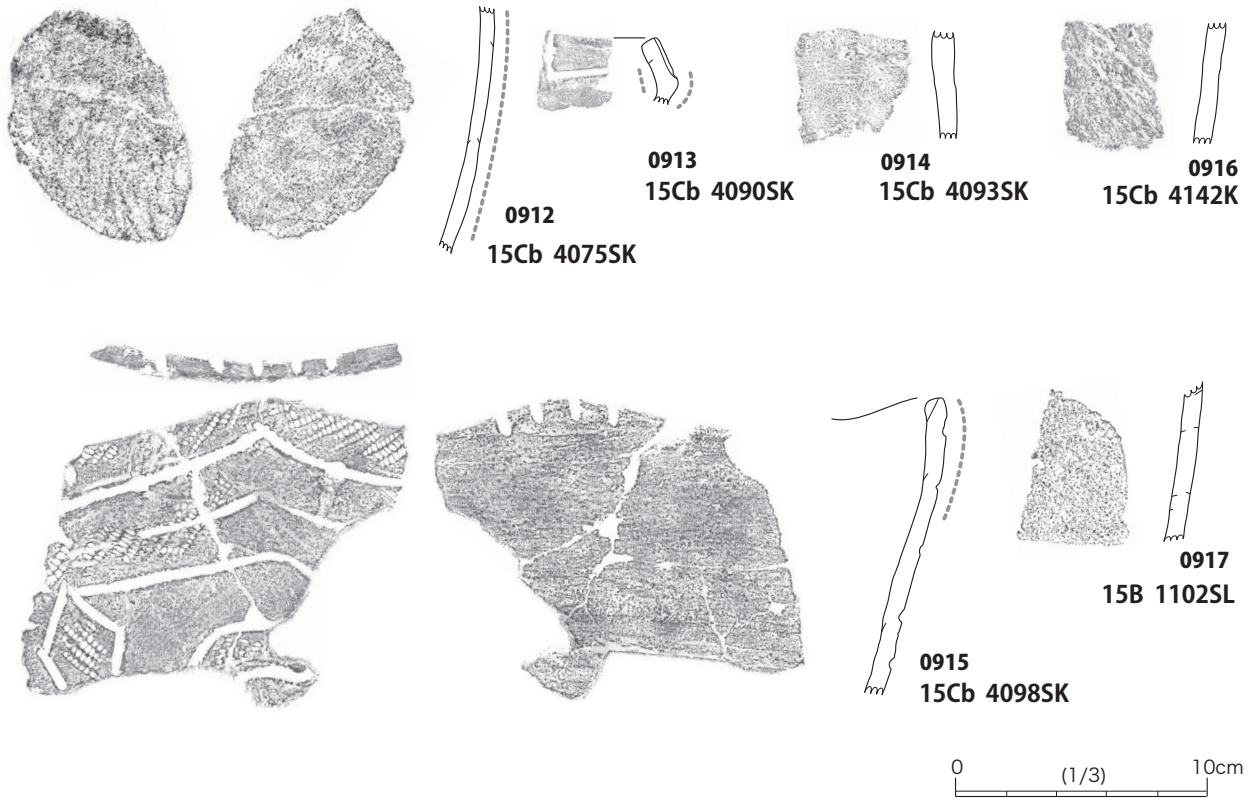
口縁端部上面に文様が施される、いわゆる縁帯文土器（北白川上層式）である。三本一単位の沈線によって、横線・弧線・楕円が施されている。器面調整は、中型巻貝調整である。

(11) 943SK 出土土器 (1301 ~ 1307)

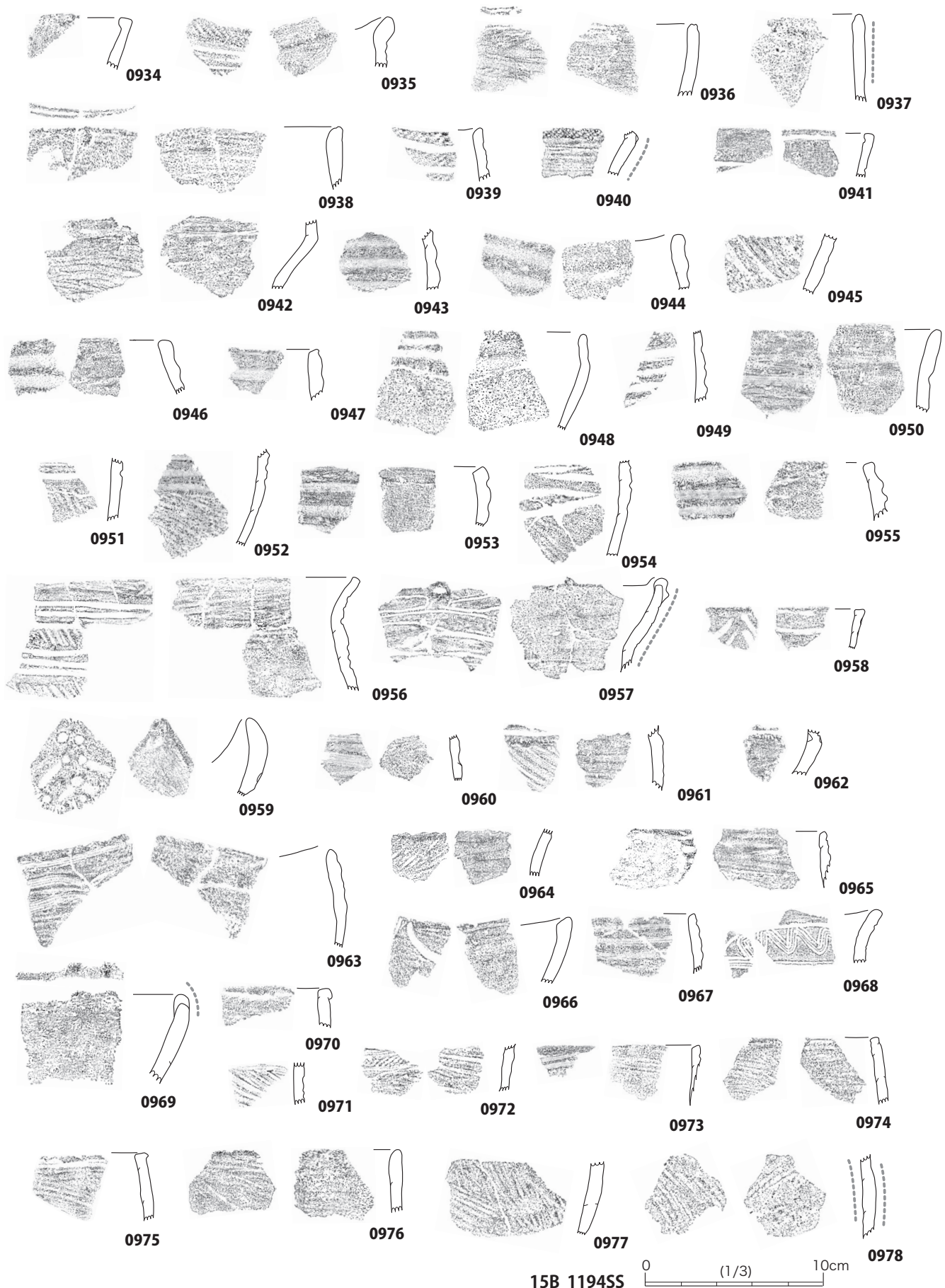
土器埋設遺構（土器棺墓）と考えられる遺構で、1301が立位で納められていた棺身、その中に1302・1303が出土した。1301は口縁側にやや外反する器形で、端部上面には棒状工具による横圧列が巡る。器面調整は、表面・内面ともにナデ・ケズ



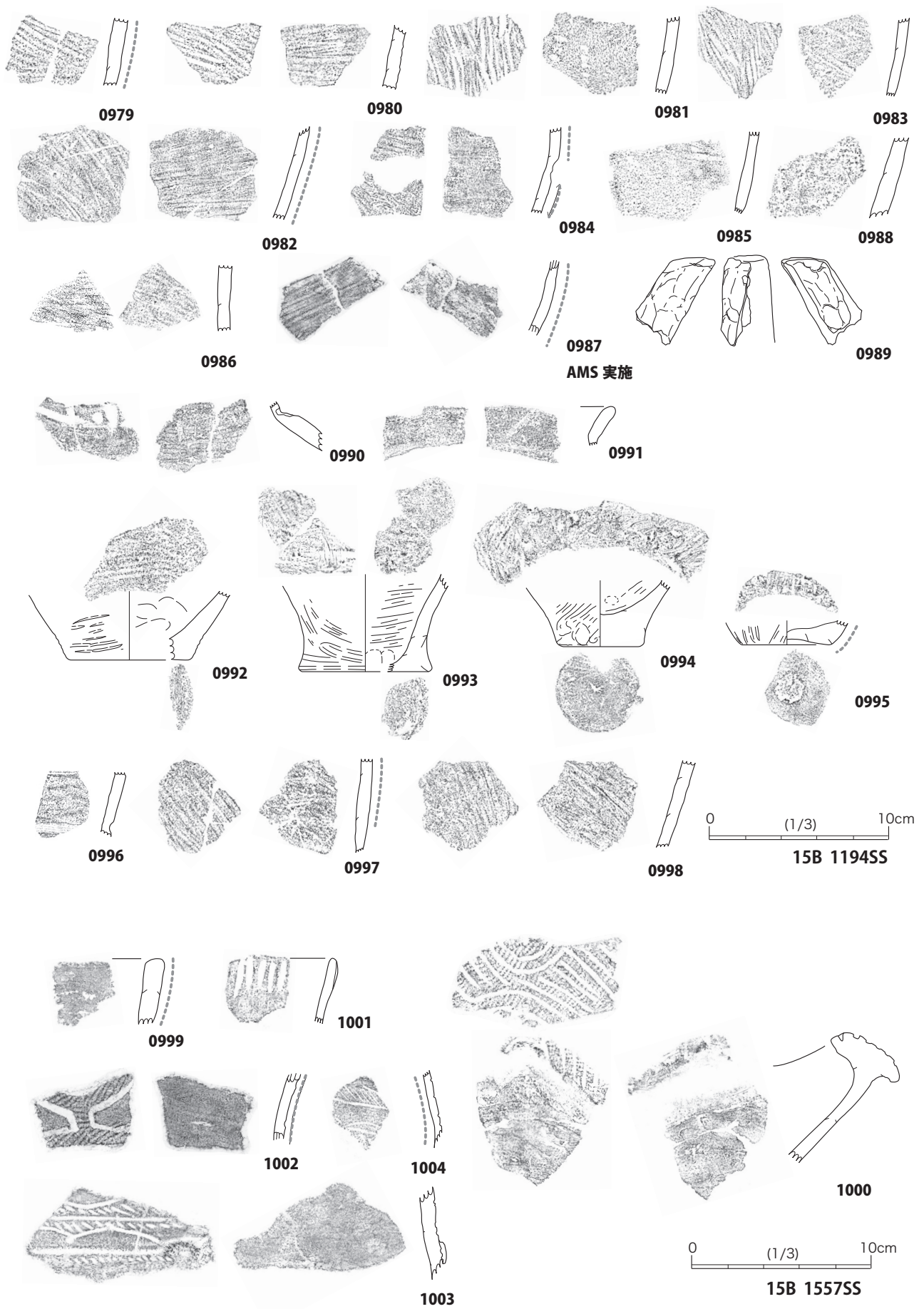
第 154 図 4059SK 他出土土器



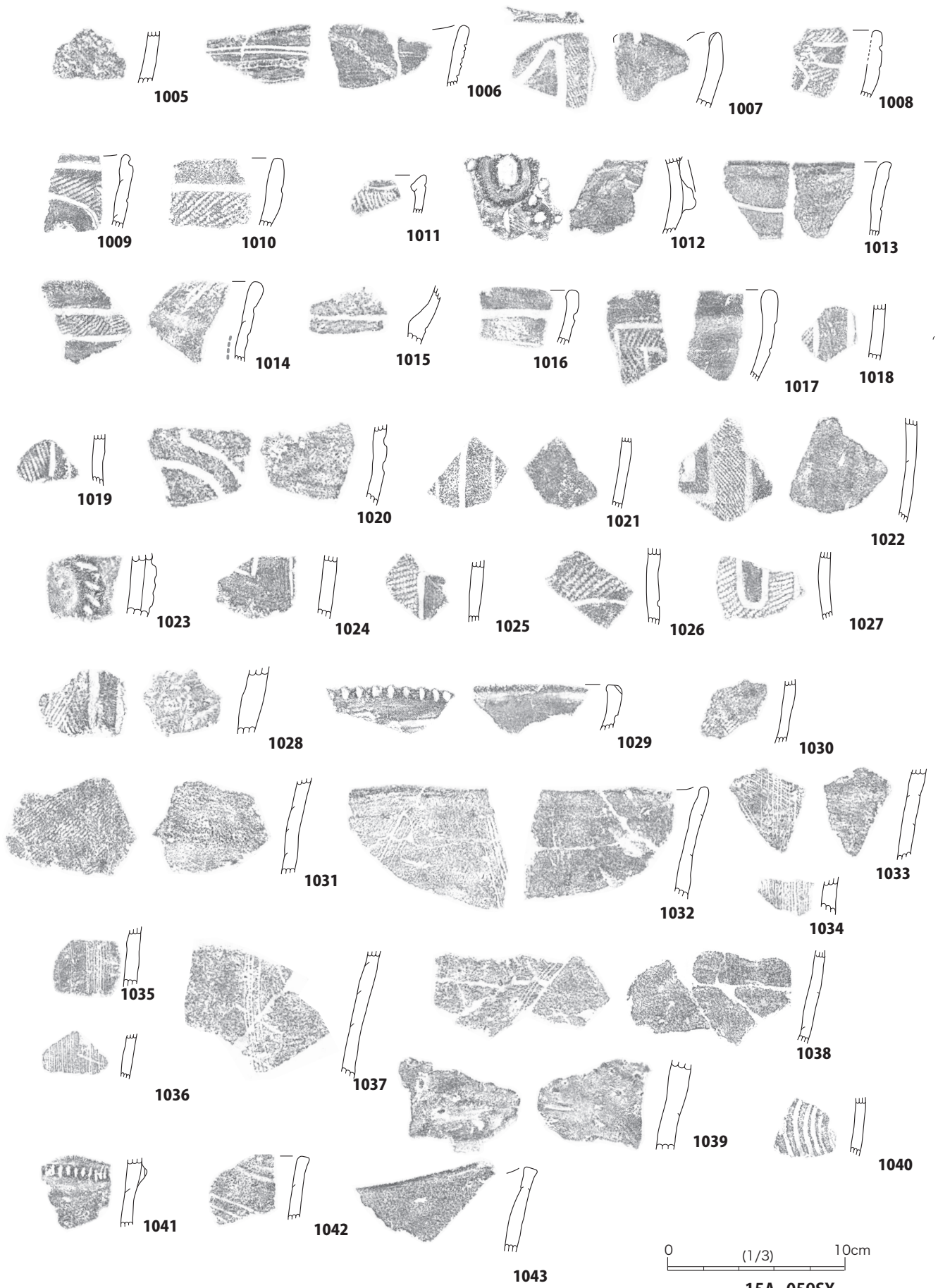
第 155 图 4098SK 他出土土器



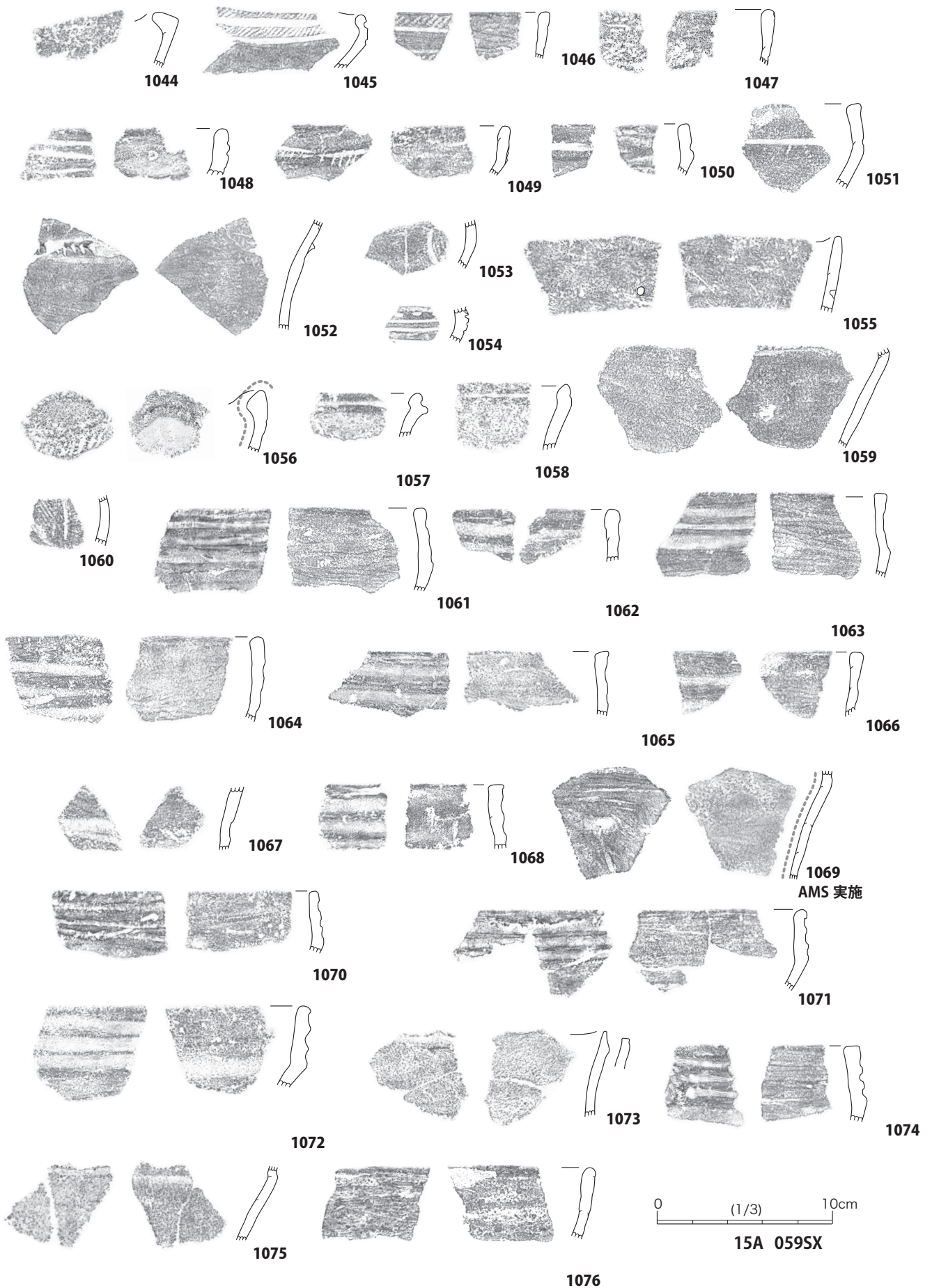
第 156 图 1194SS 出土土器



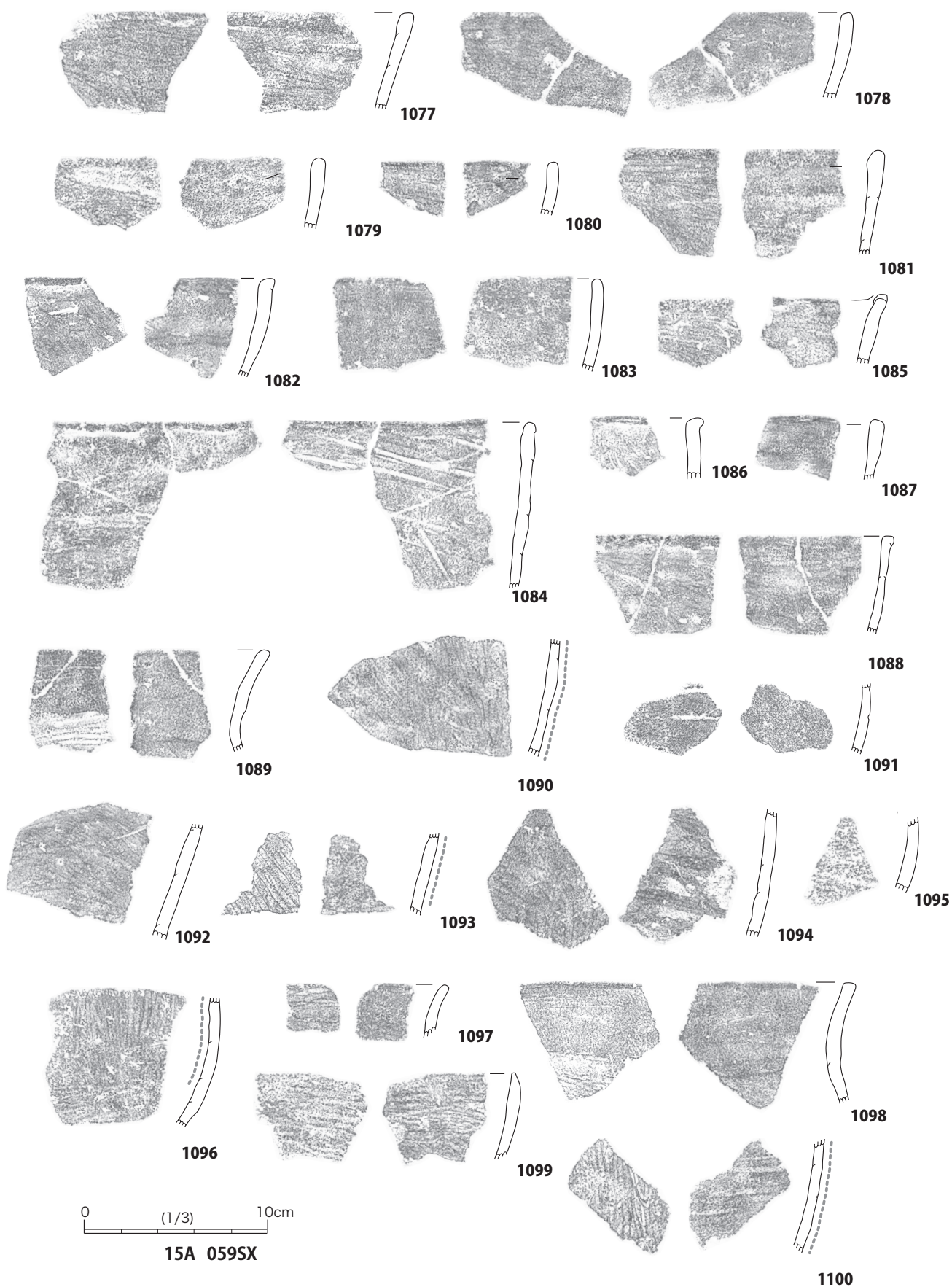
第 157 图 1194SS · 1557SS 出土土器



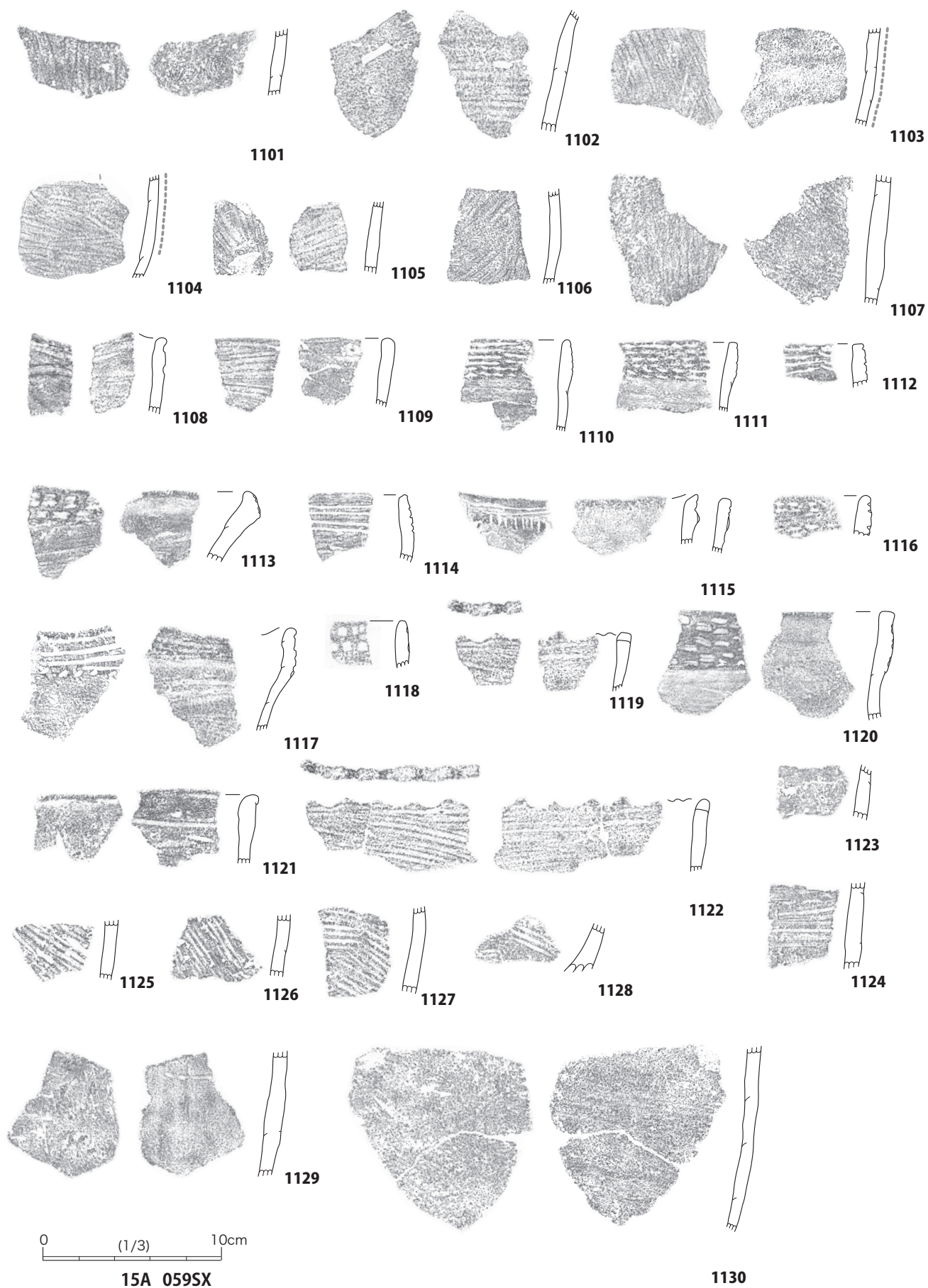
第 158 圖 059SX 出土土器 (1)



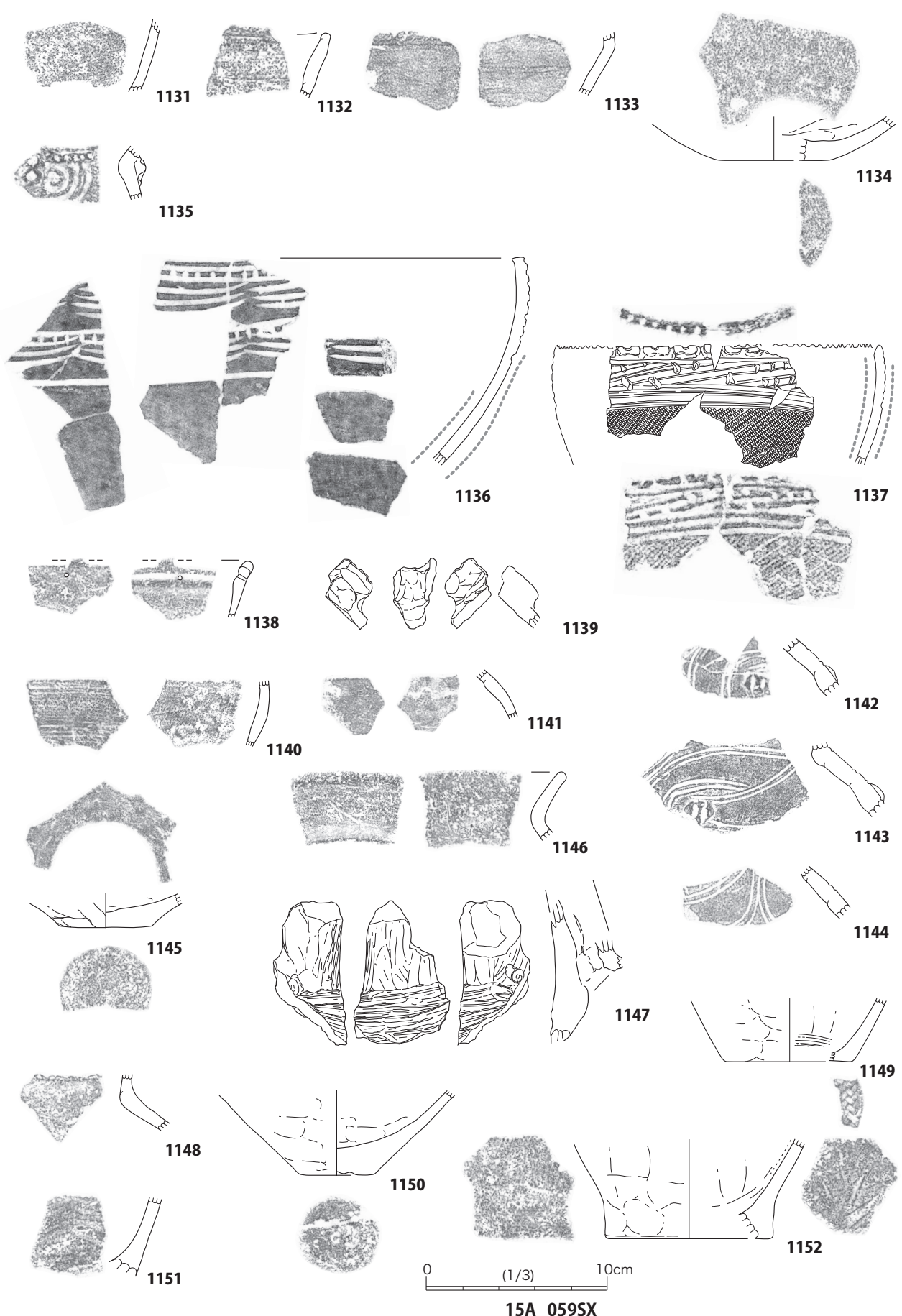
第 159 図 059SX 出土土器 (2)



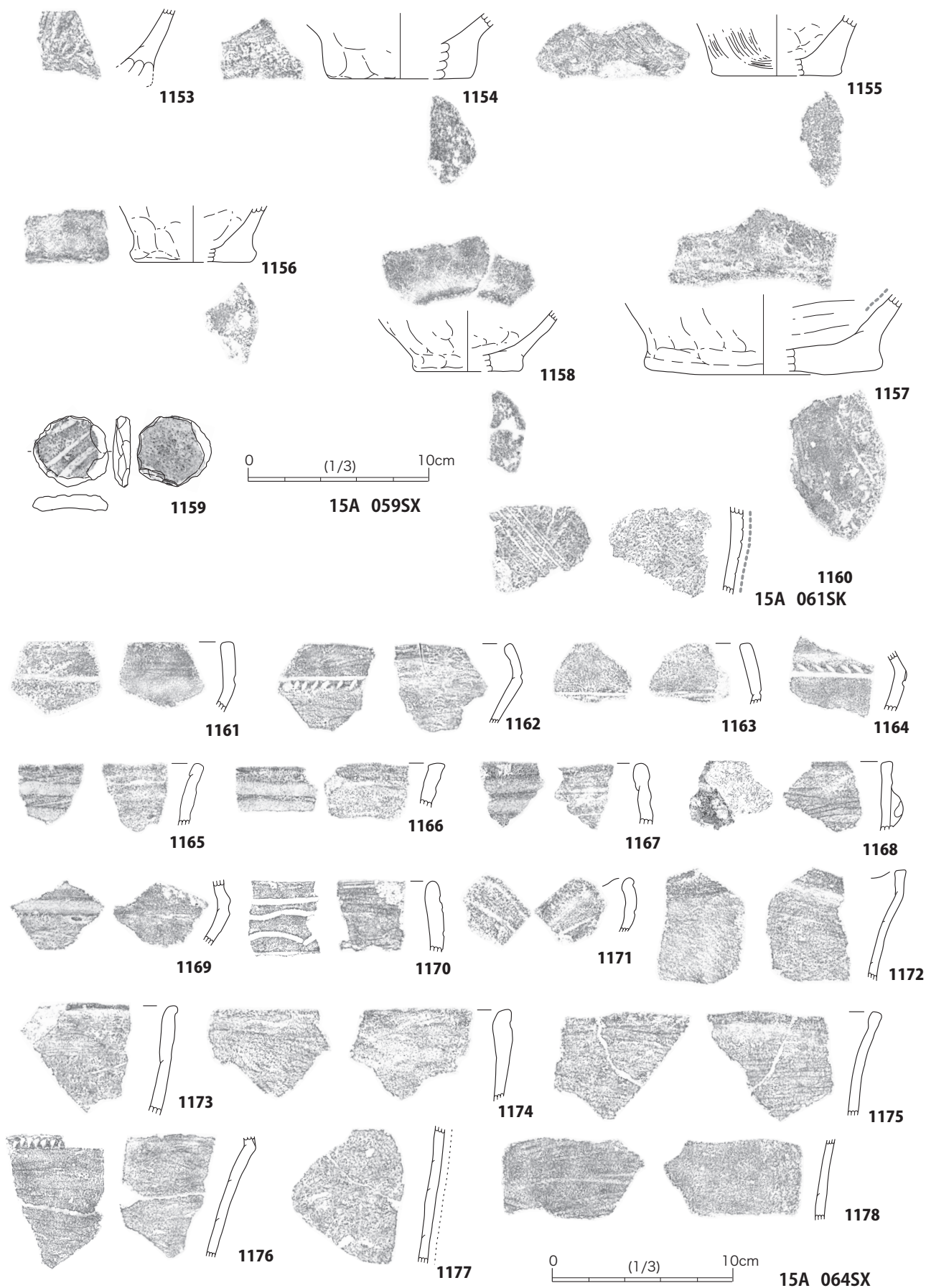
第 160 图 059SX 他出土土器 (3)



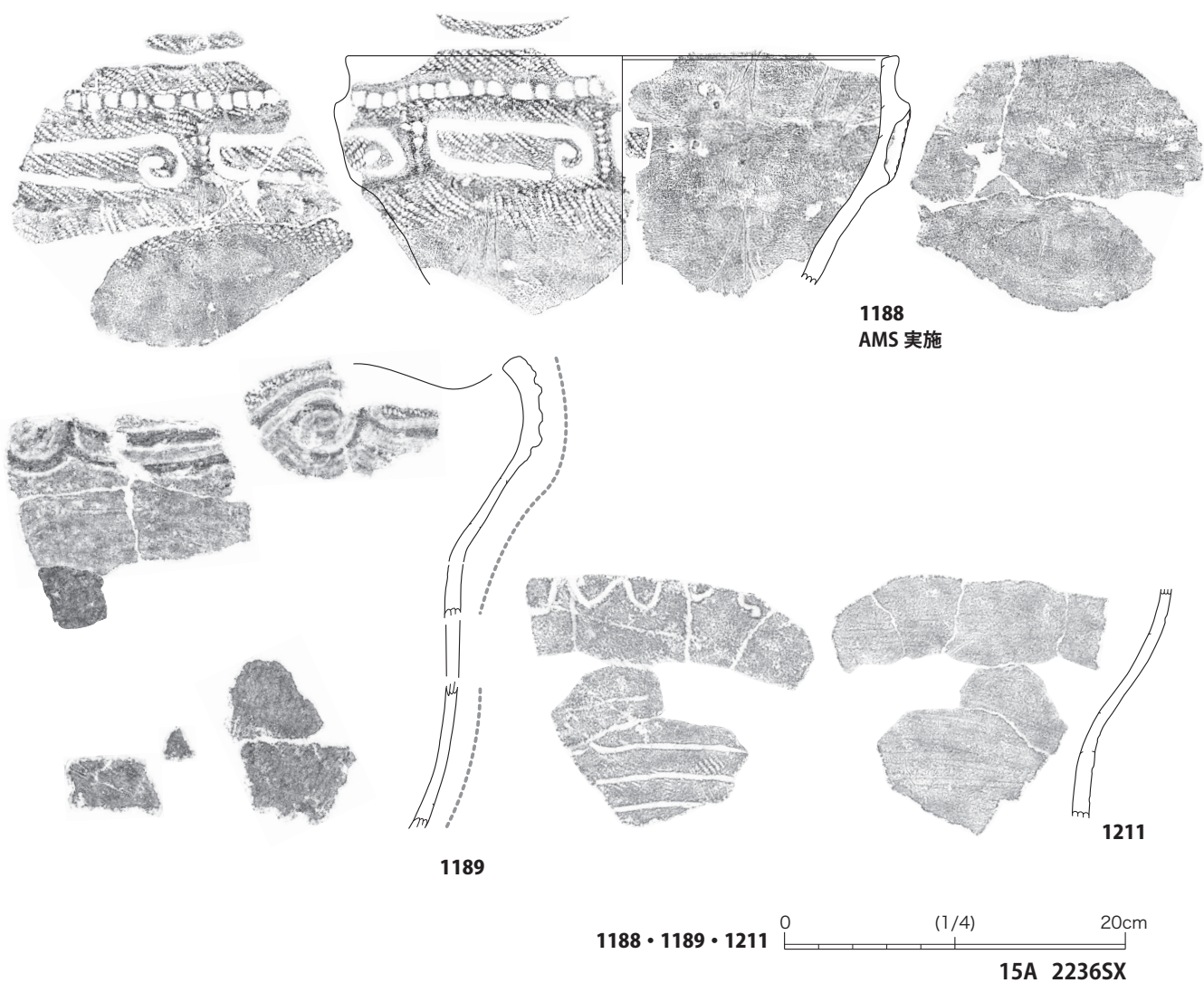
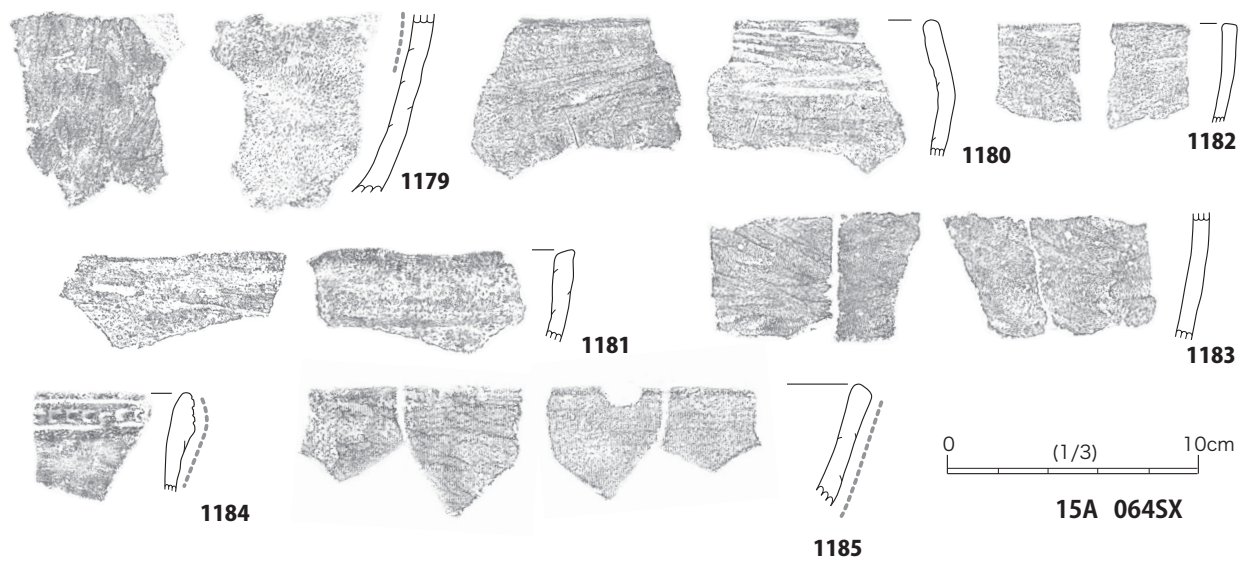
第 161 圖 059SX 出土土器 (4)



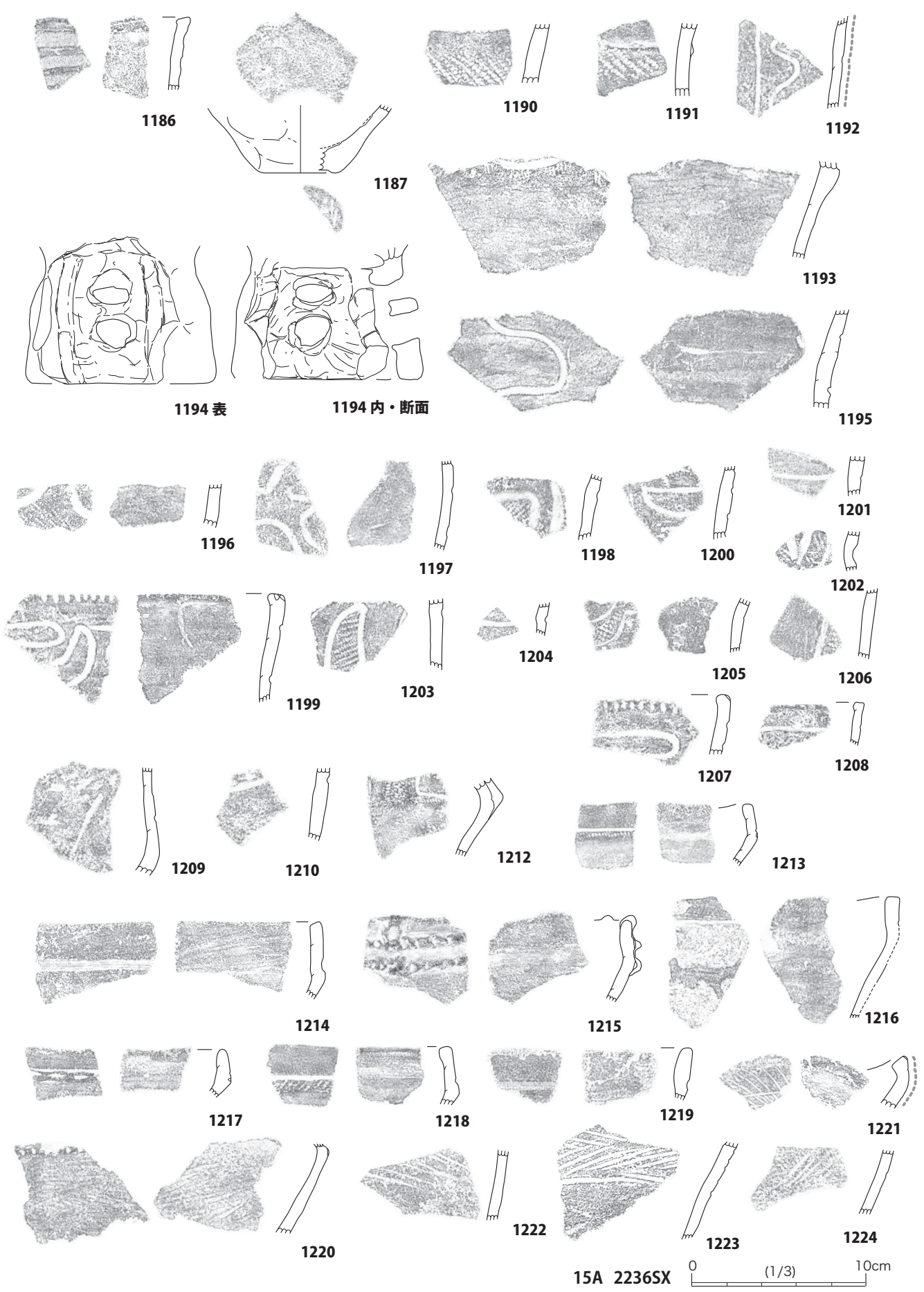
第 162 圖 059SX 出土土器 (5)



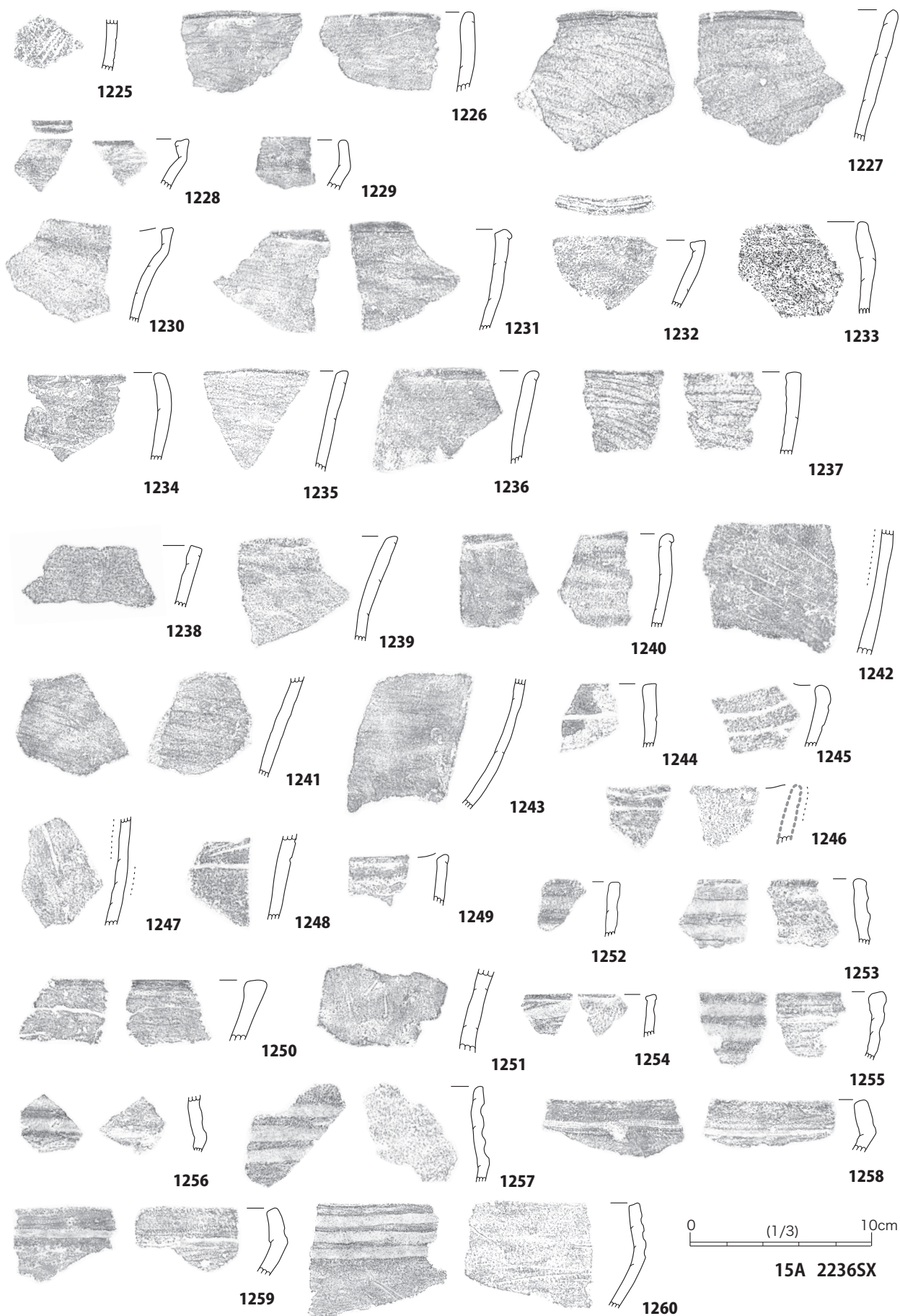
第 163 图 059SX · 064SX 出土土器



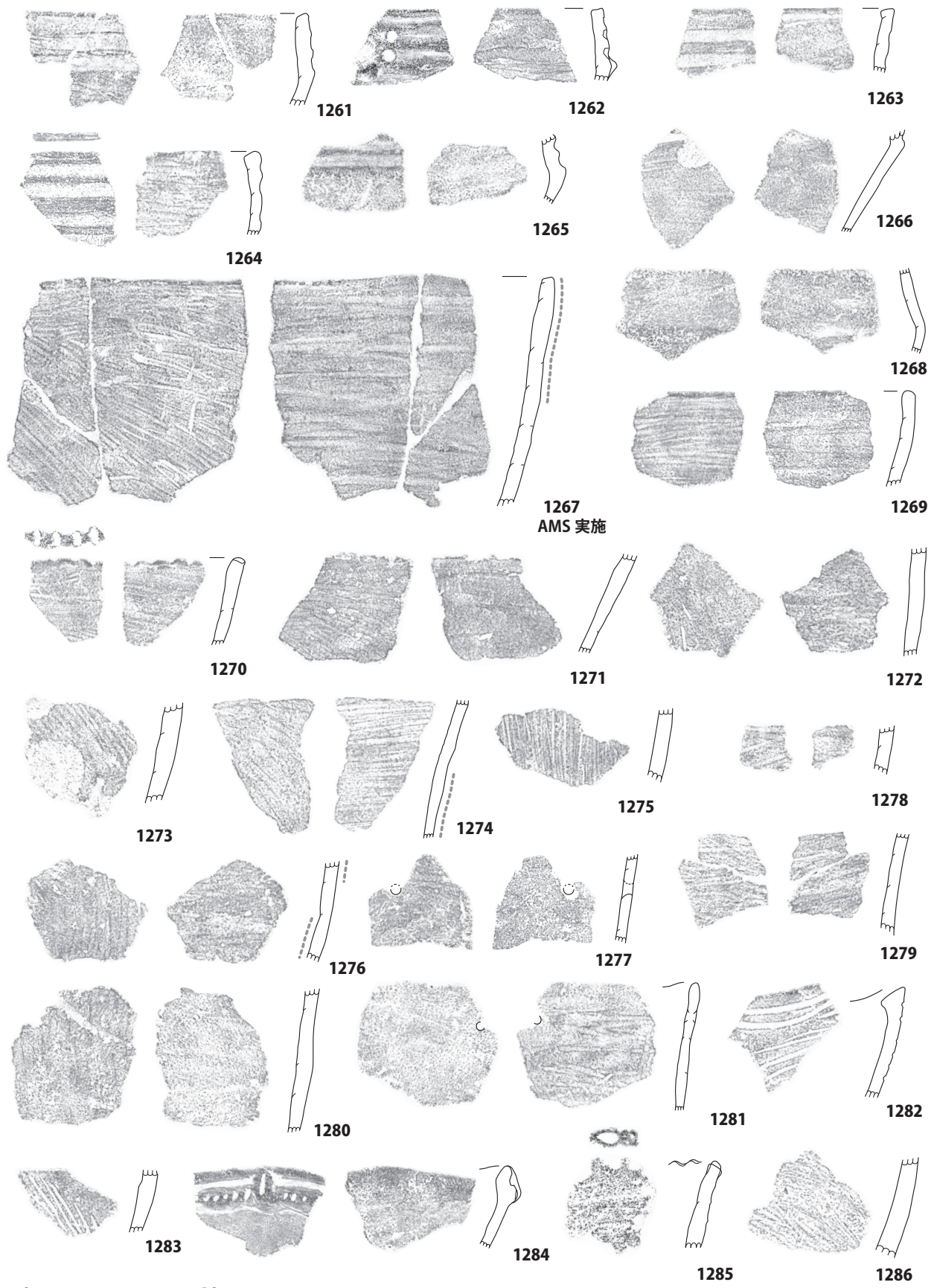
第 164 図 064SX・2236SX 出土土器



第 165 图 2236SX 出土土器 (1)



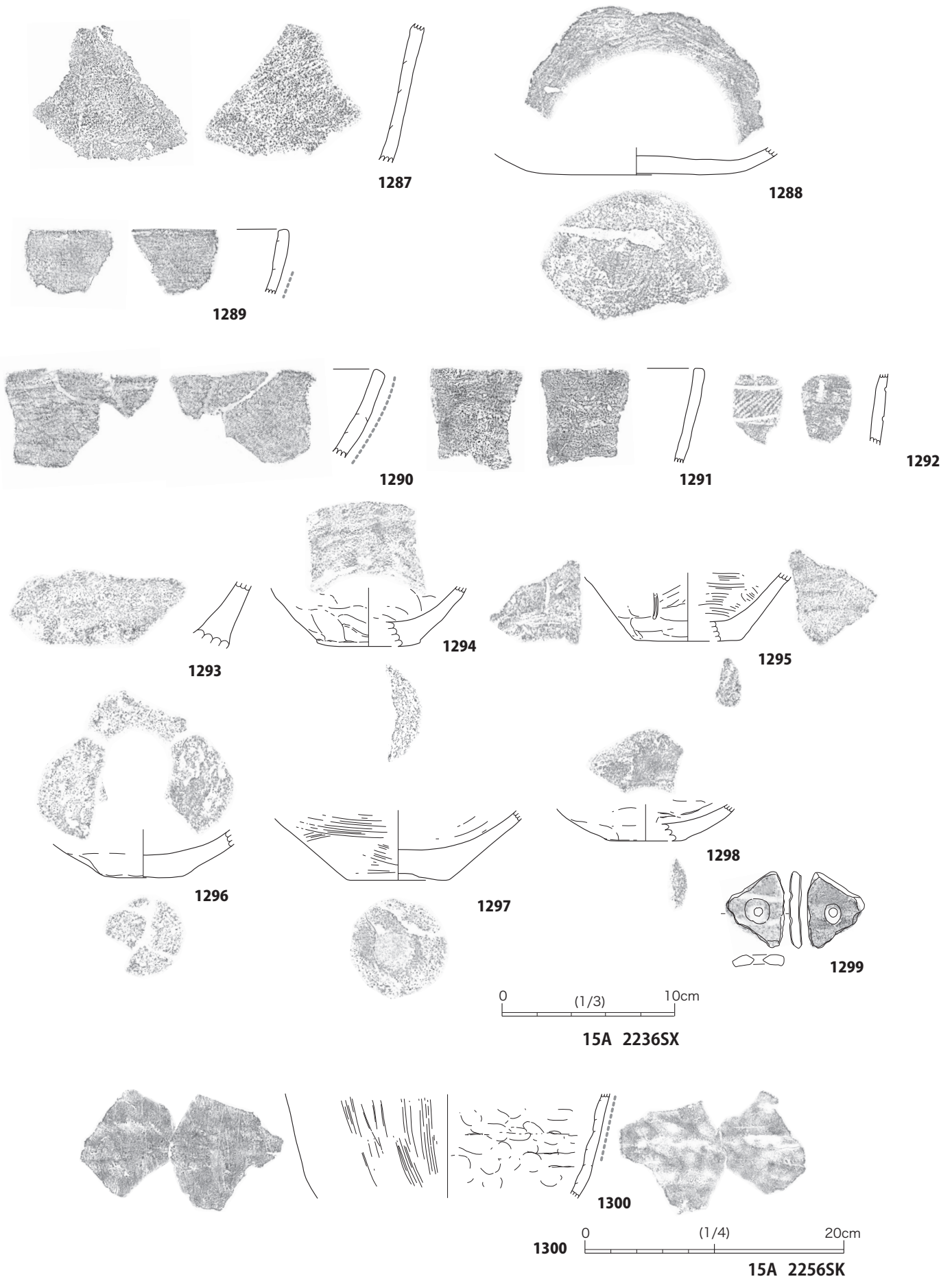
第 166 图 2236SX 出土土器 (2)



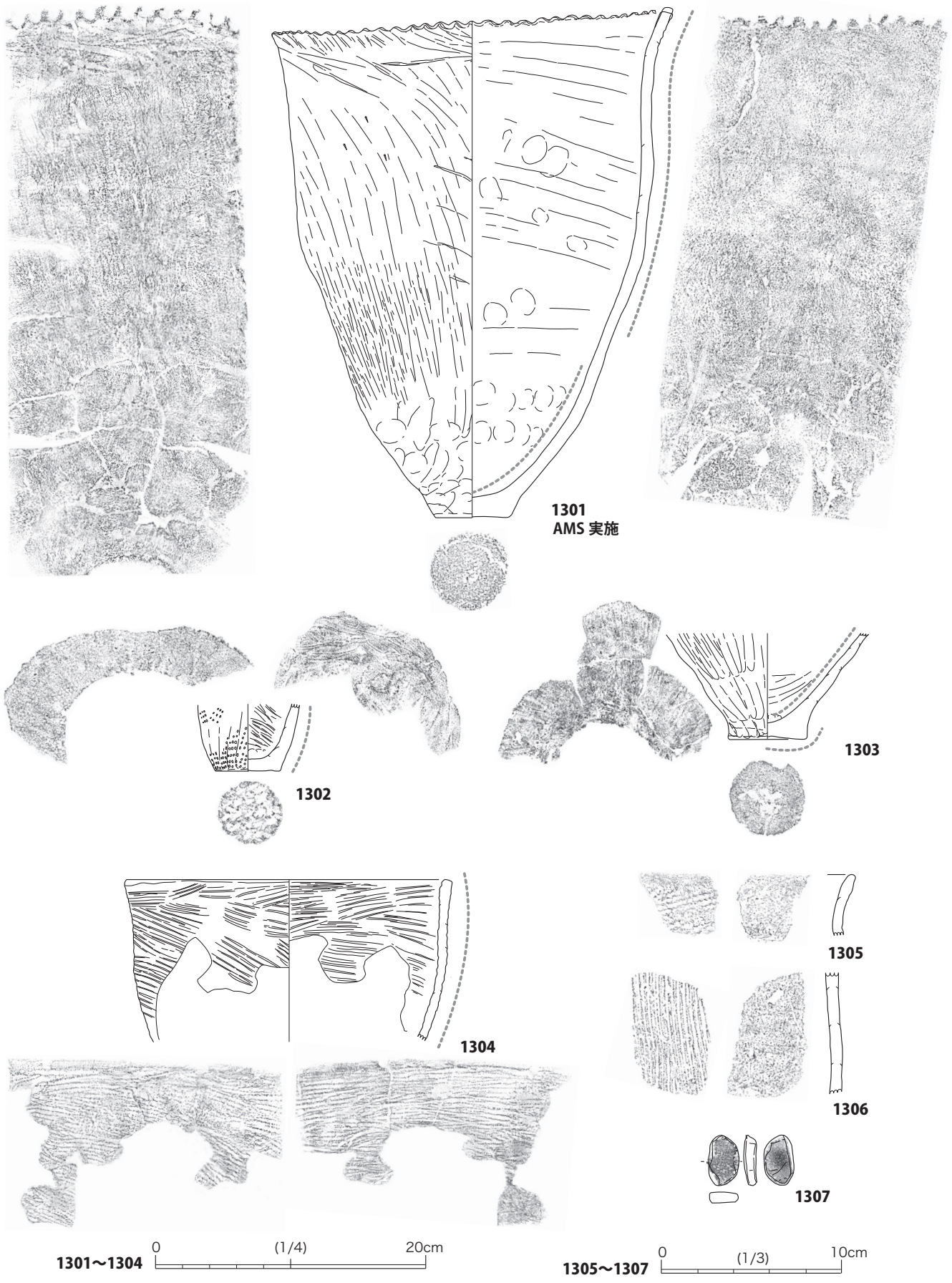
0 (1/3) 10cm

15A 2236SX

第 167 图 2236SX 出土土器 (3)



第 168 图 2236SX · 2256SK 出土土器



1301
AMS 実施

1302

1303

1304

1305

1306

1307

1301~1304 0 (1/4) 20cm

1305~1307 0 (1/3) 10cm

15B 943SZ

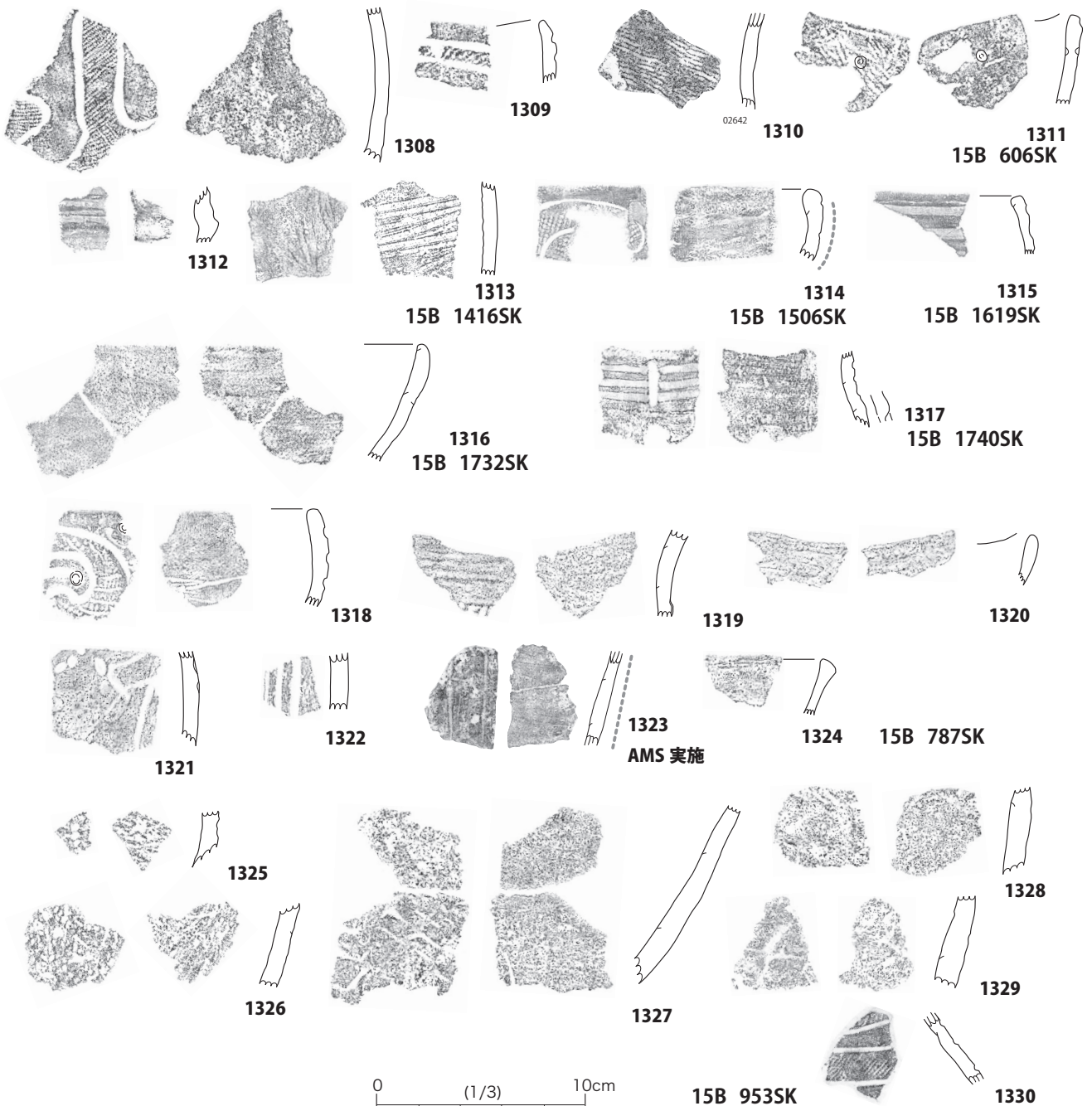
第 169 図 943SZ 出土土器

リ・オサエである。晩期中葉の稲荷山式に比定されるものと考えられる。一方、1302は胴部下半から底部にかけて残存する小型の深鉢で、表面には擬縄文が施されており、底面には編組製品圧痕（二本越え・二本潜り・一本送りのゴザ目）が確認できる。縄文時代後期に属するものと思われる。1303も深鉢底部で、底部が明確に作り出されている形状となっている。器面表面・内面ともに幅の広いナデ調整である。これも縄文時代後期に属するものと思われる。

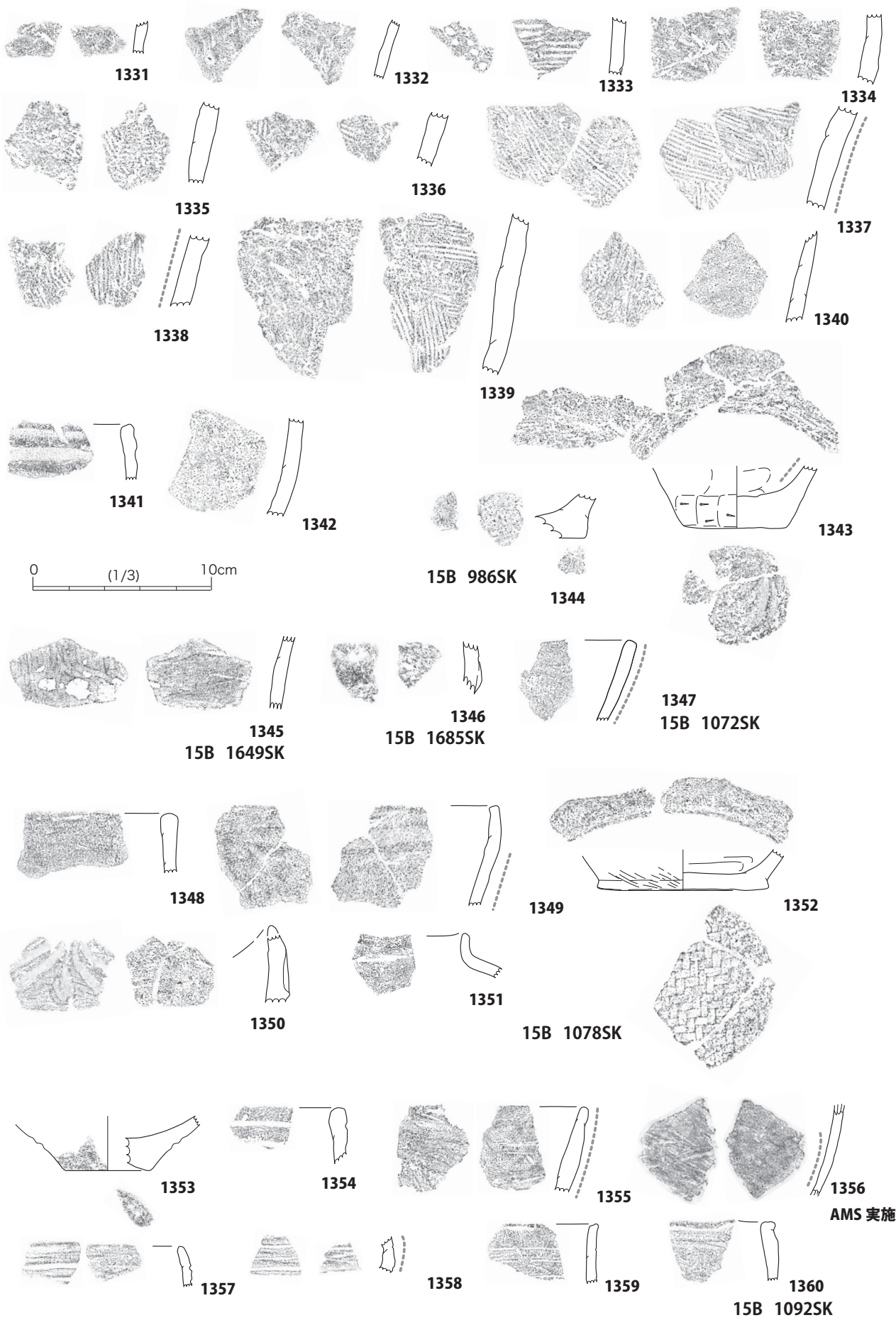
3 縄文時代の土製品 (4001～4011)

土製品としては、11点を提示した。4002は中空土偶の脚部の可能性があるか。4004は中空土偶の腕

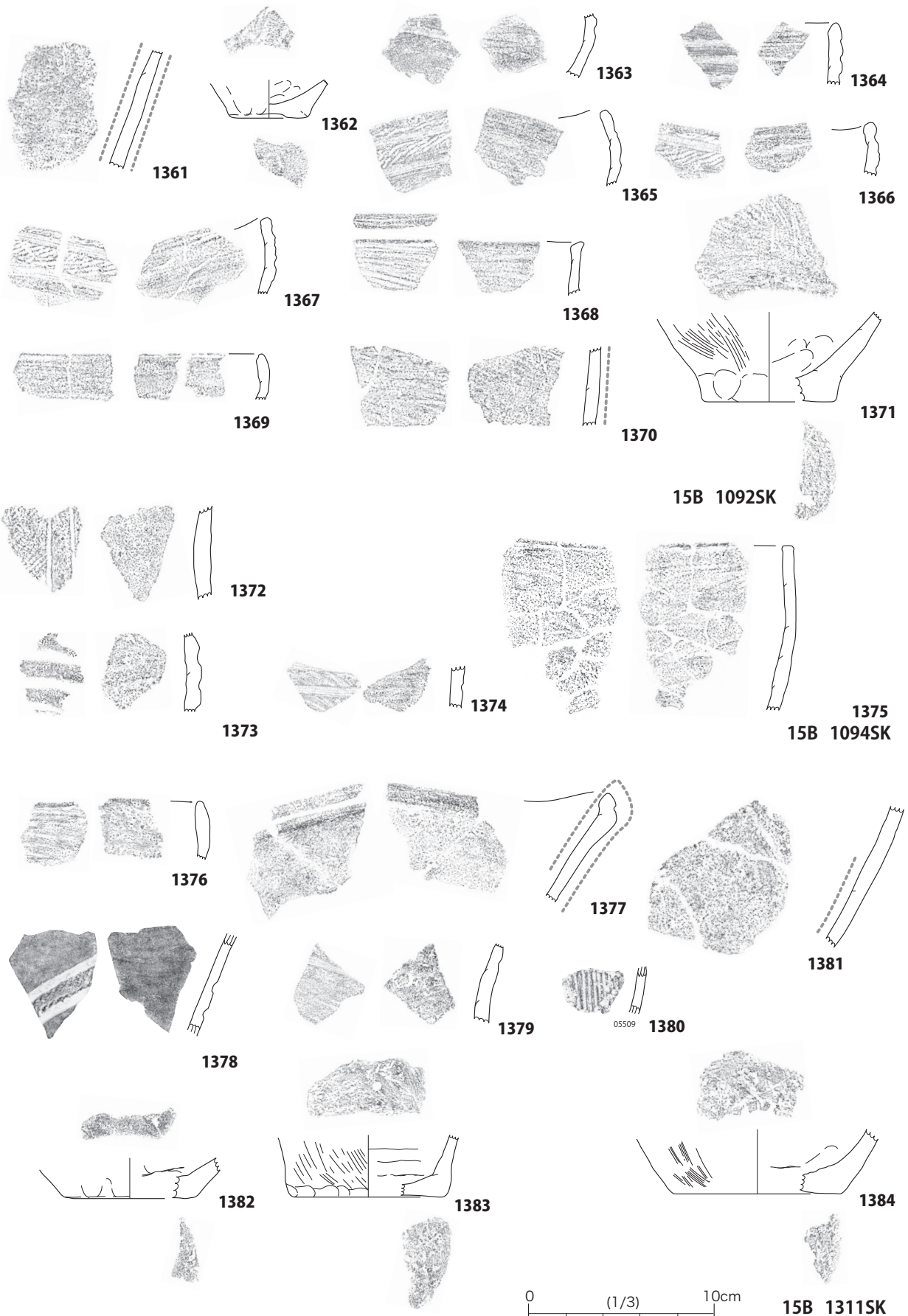
部の可能性がある一方、注口土器の注口部の可能性もある。4001・4003・4008・4011はひとがた土偶の手足部分と思われる。4006はひとかだ土偶右半分の胸部であろうか、乳房表現が想定される部分が欠落している。4005は板状を呈するもので、沈線内に連続した刺突列文が認められる。八王子タイプといわれる板状土偶の可能性もあるが、明確ではない。4010は頸部から胸部にかけて残存しているもので、今回の調査では最も良好に確認できた土偶である。頸部から頭部側向かって、V字状に粘土の貼り付けが認められ、胸部上方中央部には盲孔がある。乳房表現部分はやや欠失しているものの、表現は明



第170図 953SK 他出土土器



第 171 図 986SK 他出土土器



第 171 图 1092SK 他出土土器